

# nord stage 2

## ユーザー・マニュアル Nord Stage 2 HA/SW

OS Version 1.x

# 安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

**WARNING:**  
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、ヤマハ修理ご相談センターへ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

## 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。
- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしなない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

## データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

輸入販売元：株式会社ヤマハミュージックジャパン

楽器営業本部 LM営業部 輸入商品課

〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11

TEL: 03-5488-5445

<http://www.nordkeyboards.jp/>

# Nord Stage 2ユーザー・マニュアル目次

## 1 はじめに

ありがとうございます! .....	5
主な特長 .....	5
このマニュアルについて .....	5
アドビAcrobat Readerでもご利用できます .....	5
<b>Nordウェブについて .....</b>	<b>5</b>
ファクトリー・プリセットに戻すときは.....	5
OSアップグレードについて .....	5
フリー・サウンド .....	5
商標について .....	5

## 2 Nord Stage 2について

オルガン・セクション .....	6
ピアノ・ライブラリーv5 .....	6
スモール、ミディアム、ラージ .....	6
ストリング・レゾナンス .....	6
Nord Triple Pedal .....	7
ペダル・ノイズ .....	7
シンセ・セクション .....	7

## 3 使い始める

接続する .....	8
<b>プログラム .....</b>	<b>8</b>
プログラムを選択する .....	8
シフト・ボタン .....	8
ソート・モード .....	9
ノブについて .....	9
ボタンについて .....	9
<b>プログラムをエディットする .....</b>	<b>9</b>
別のピアノ・サウンドを選ぶ .....	9
<b>メモリー・プロテクトをオフにする .....</b>	<b>10</b>
<b>プログラムを保存する .....</b>	<b>10</b>
<b>ライブ・モードについて .....</b>	<b>10</b>
<b>エフェクトをオンにする .....</b>	<b>10</b>
別のインストゥルメントをオンにする .....	11
<b>スロットについて .....</b>	<b>11</b>
スプリットを作成する .....	11
ピアノをアップパー・ゾーンにセットする .....	11
シンセをロワー・ゾーンにセットする .....	11
<b>シンセ・サウンドをロードする .....</b>	<b>12</b>
レイヤーを作成する .....	12
<b>モーフ機能を使う .....</b>	<b>12</b>
<b>シンセサイザーについて .....</b>	<b>13</b>
<b>アルペジエーターを使う .....</b>	<b>13</b>
<b>マスター・クロック .....</b>	<b>14</b>

## 4 プログラム・セクション

トランスポーズ・オン/セット .....	15
スロット・ボタンA & B .....	15
モノ・アウトプット .....	15
デュアルKB .....	15
<b>SHIFT/EXITボタン .....</b>	<b>16</b>
<b>ライブ・モード .....</b>	<b>16</b>
<b>プログラム・ボタン .....</b>	<b>16</b>
プログラムとは? .....	16
システム、サウンド、MIDI、エクスターナル .....	16
パニック .....	16
<b>保存する、別名で保存する .....</b>	<b>16</b>
プログラムを保存する .....	17
プログラムに名前をつける .....	17
カテゴリー .....	17
<b>バリュー・ダイアル .....</b>	<b>17</b>
<b>MIDIインジケター .....</b>	<b>17</b>
<b>プログラム・バンク・ボタン .....</b>	<b>18</b>
オルガン、ピアノ、シンセ・インシャライズ .....	18
オルガン・スプリット .....	18
<b>プログラム・ページ・ボタン .....</b>	<b>18</b>
ベンディング・ロード .....	18
ソート・モード .....	18
カーソル、デリート、インサート .....	18
<b>マスター・クロック .....</b>	<b>18</b>
<b>モーフ・アサイン .....</b>	<b>19</b>
モーフ・デスティネーション .....	19
モーフ・リングを消去する .....	19
<b>KBゾーン .....</b>	<b>19</b>

## 5 コモン機能

<b>インストゥルメント&amp;エクスターナル・コントロール20</b>	
レベル・エンコーダー .....	20
オン/オフ・ボタン .....	20
KBゾーン・セレクト・ボタン .....	20
スプリットを作成する .....	20
スプリット・ポイントの設定 .....	21
レイヤーにする .....	21
オクターブ・シフト .....	21
ノート・レンジ .....	21
ピッチ・スティックとサステイン・ペダル .....	21
ラッチ・ペダルとKBゲート .....	21
アウトプット・ルーティング .....	21
デュアル・スロット・セットアップ .....	21
外部キーボードを使う:デュアルKB .....	22
さらに多くのキーボードを使用する .....	22
<b>マスター・レベル .....</b>	<b>22</b>

## 6 オルガン

<b>ドローバー・ボタン .....</b>	<b>23</b>
オルガン・モデルを選択する .....	23
<b>B3モデル .....</b>	<b>23</b>
<b>B3ドローバー .....</b>	<b>24</b>
<b>ビブラート&amp;コーラス .....</b>	<b>24</b>
<b>パーカッション .....</b>	<b>24</b>
キー・クリック・コントロール .....	24
<b>オルガン・プリセット I &amp; II .....</b>	<b>24</b>
<b>Voxモデル .....</b>	<b>25</b>
<b>Voxドローバー .....</b>	<b>25</b>
<b>ビブラート .....</b>	<b>25</b>
<b>Farfモデル .....</b>	<b>25</b>
<b>Farfレジスター .....</b>	<b>25</b>
<b>ビブラート .....</b>	<b>26</b>
スウェル・コントロール .....	26
<b>ロータリー・スピーカー .....</b>	<b>26</b>

## 7 ピアノ

<b>ピアノ・サウンド .....</b>	<b>27</b>
<b>ピアノ・セレクト .....</b>	<b>27</b>
タイプ .....	27
インフォ .....	27
モデル .....	27
クラビネット .....	27
ダイナミクス .....	28
<b>アコースティックス .....</b>	<b>28</b>
ストリング・レゾナンス .....	28
ロング・リリース .....	28
ペダル・ノイズ .....	28
<b>Nord Triple Pedal .....</b>	<b>28</b>
ハーフ・ペダリング .....	28
ソステヌート .....	28
ソフト・ペダル .....	28
<b>スロット・デチューン/Clav EQ .....</b>	<b>28</b>
Clav EQ .....	28
スロット・デチューン .....	28

## 8 シンセ

<b>はじめに .....</b>	<b>29</b>
<b>オシレーター .....</b>	<b>29</b>
シェイプ .....	29
シェイプ・モジュレーション .....	30
ウェーブフォーム・セクター・ボタン .....	30
アナログ波形 .....	30
三角波 .....	30
ノコギリ波 .....	30
パルス波 .....	30
オシレーター・シンク波形 .....	30
フリケンシー・モジュレーション .....	31
FMアルゴリズム .....	31
ウェーブテーブル .....	32
サンブル .....	32
スキップ・サンブル・アタック .....	32
ロード・サウンド .....	32
<b>フィルター・セクション .....</b>	<b>32</b>
フィルター・ボタン .....	32
ローパス - LP 24 & LP 12 .....	32
ハイパス - HP .....	33
バンドパス - BP .....	33
ノッチ .....	33
フィルター・フリケンシー .....	33
KBトラック .....	33
レゾナンス .....	33
フリケンシー・モジュレーション1 - LFO .....	33
フリケンシー・モジュレーション2 .....	33
<b>エンベロープ .....</b>	<b>33</b>
モジュレーション・エンベロープ .....	33
アンブ・エンベロープ .....	34
<b>LFO .....</b>	<b>34</b>
<b>ペロシティ .....</b>	<b>34</b>
<b>ボイス・セクション .....</b>	<b>34</b>
ボイス・モード:モノ .....	34
ボイス・モード:レガート .....	35
グラインド .....	35
ユニゾン .....	35
ビブラート .....	35
シンセ・サウンドを保存する .....	35
<b>アルペジエーター .....</b>	<b>35</b>

9 エフェクト

**オーバービュー ..... 36**  
 モノ/ステレオとエフェクトルーティングについて .....36

**スロット・エフェクト ..... 36**  
 スロット・エフェクトをオンにする .....36  
 スロット・エフェクトの設定をする .....36  
 (FOCUS) ボタン .....37  
 マスター・クロック .....37

**エフェクト1 ..... 37**  
 A-Pan (オート・パン) .....37  
 Trem (トレモロ) .....37  
 RM (リング・モジュレーション) .....37  
 Wa-Wa (ワウ) .....37  
 A-Wah 1&2 (オート・ワウ) .....37

**エフェクト2 ..... 38**  
 Phaser 1&2 .....38  
 Flanger .....38  
 Vibe .....38  
 Chorus 1&2 .....38

**ディレイ ..... 38**

**アンプ・シミュレーター/EQ ..... 38**  
 アンプ・モデル .....38  
 Drive .....38  
 EQセクション .....38

**グローバル・エフェクト ..... 39**  
 コンプレッサー .....39  
 リバーブ .....39

**ロータリー・スピーカー ..... 39**  
 シグナル・ルーティングについて .....39  
 ロータリー・パラメーター .....39

10 エクスターナル・セクション

**エクスターナル・セクション ..... 40**  
 セットアップする .....40

**エクスターナル・セクションを使う ..... 40**  
 オンにする .....40  
 キーボード・ゾーン .....40  
 オクターブ・シフト .....40  
 ピッチ・スティック/サスティン・ペダル・メッセージ .....40

**エクスターナル・パラメーター ..... 41**  
 ボリューム .....41  
 プログラム・チェンジ .....41  
 MIDI CC .....41  
 センド・オン・ロード .....41

11 メニュー

**システム・メニュー ..... 42**  
 Global Transpose .....42  
 Fine Tune .....42  
 Output Routing .....42  
 Organ Audio A/B Output .....42  
 Piano Audio A/B Output .....42  
 Synth Audio A/B Output .....42  
 Organ Keyboard Trig Point .....42  
 Sustain Pedal Type .....42  
 Sustain Pedal Use As Rotor .....42  
 Rotor/Latch Pedal Type .....42  
 Rotor/Latch Pedal Function .....43  
 Rotor Pedal Mode .....43  
 Ctrl Pedal Type .....43  
 Control Pedal Use as Swell .....43  
 Swell Pedal Type .....43  
 Swell Pedal Dest .....43  
 Memory Protection .....43

**サウンド・メニュー ..... 43**

Organ Key Click B3 .....43  
 Organ Tonewheel Mode .....43  
 Piano Pedal Noise .....43  
 Piano String Res .....43  
 Synth Vibrato Rate .....43  
 Synth Dly Vibrato Amount .....43  
 FX Delay Mode .....43  
 FX Rotary Speaker Acc .....43

**MIDIメニュー ..... 44**  
 MIDI Control Local .....44  
 MIDI Slot A/B Channel .....44  
 MIDI Organ A/B Channel .....44  
 MIDI Piano A/B Channel .....44  
 MIDI Synth A/B Channel .....44  
 MIDI Dual KB Channel .....44  
 MIDI Prog Change Mode .....44  
 MIDI Ctrl Change Mode .....44  
 Send MIDI Ctrl .....44

**エクスターナル・メニュー ..... 44**  
 Extern MIDI Mode .....44  
 Extern MIDI A/B Channel .....44  
 Extern MIDI A/B Volume .....44  
 Extern MIDI A/B Prog Change .....44  
 Extern MIDI A/B Bank Sel cc 00 .....44  
 Extern MIDI A/B Bank Sel cc 32 .....45  
 Extern MIDI A/B CC Number .....45  
 Extern MIDI A/B CC Value .....45  
 Extern MIDI A/B Send Wheel .....45  
 Extern MIDI A/B Send A.Touch .....45  
 Extern MIDI A/B Send CtrlPed .....45  
 Extern MIDI A/B Vel Curve .....45  
 Extern MIDI Send on Load .....45

12 Nord Sound Manager

動作環境 .....46

**インストール ..... 46**  
 USB Driverのインストール .....46  
 Sound Managerのインストール .....46

**オーバービュー ..... 46**  
 ツールバー .....47  
 タブ .....47  
 パーティション・メモリー・インジケーター .....47  
 右クリック .....47  
 ファイル・フォーマット .....47

**クイック・ツアー ..... 48**  
 ピアノをNord Stage 2に転送する .....48  
 ピアノを消去する .....48  
 新しいサウンドをダウンロードする .....48  
 ダウンロード・キュー .....48  
 サウンドをアップロードする .....48  
 パーティション全体をアップロードする .....49  
 サウンドをNord Stage 2にダウンロードする .....49  
 プログラム・パーティションを編集する .....49  
 サーチ・ボックス .....49  
 オート・セレクト .....49

**サウンド・マネージャー・リファレンス ..... 50**  
 ツールバー .....50

**メニュー ..... 51**  
 File .....51  
 Edit .....51  
 View .....51  
 Help .....52

**タブ ..... 52**  
 Piano - Program .....52  
 Search Box .....52  
 Loc - Location .....52  
 Name .....52  
 Category .....52

Size .....52  
 Ver - Version Number .....52  
 Info .....52  
 Footer Area .....52  
 Partition Memory Indicator .....52  
 Cancel Button .....52  
 Progress Bars .....52  
 Message/Text Area .....52  
 最新アップデートやサウンド .....52

13 MIDI

**MIDIインプリメンテーションについて ..... 53**  
**Nord Stage 2とMIDIについて ..... 53**  
 外部MIDI機器をコントロールする .....53  
 外部MIDIキーボードを使用する .....53  
 MIDIでレコーディングする .....53  
 Nord Stage 2を音源として使う .....54  
 ローカル・オン/オフ .....54  
 バニック .....54  
 USB MIDI .....54

**MIDIコントローラー・リスト ..... 55**  
**MIDIインプリメンテーション・チャート ..... 56**

I 付録:接続について

**オーディオの接続 ..... 57**  
 ヘッドフォン .....57  
 オーディオ・アウト1-4 .....57  
 モニター・イン .....57

**USBの接続 ..... 57**

**MIDIの接続 ..... 57**  
 MIDI IN .....57  
 MIDI OUT .....57

**譜面台 ..... 58**  
**ペダルを接続する ..... 58**  
 オルガン・スウェル・インプット .....58  
 ロータリー・スピード・ペダルを使用する .....58  
 ラッチ・ペダルを使用する .....58  
 サスティン・ペダル .....58  
 Nord Triple Pedal .....58  
 3つのペダル .....58

II 付録:ファクトリー・プリセット

**ファクトリー・プリセットとOS ..... 59**  
 インターナル・メモリー .....59  
 ファクトリー・プリセット .....59  
 工場出荷時の状態に戻す .....59  
 OSアップグレード .....59

III 索引

索引 ..... 60  
 Nord Stage 2 仕様 ..... 62

# 1 はじめに

## ありがとうございます!

この度は Nord Stage 2をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます! Nord Stage 2の開発で目標としたのは、Claviaの各製品の要素を取り込んだステージ・キーボードのフラッグシップ・モデルを作り上げることでした。オリジナルのNord Stageでの成功を受け、Nord Stage 2でもアコースティック/エレクトロメカニカル・キーボードの素晴らしいサウンドを忠実に再現しただけでなく、シンセサイザー・セクションもこれまで以上に使いやすくなるよう設計し、幅広いサウンドをお楽しみいただけます。

Nord Stage 2はクラシック・キーボードのサウンドだけでなく、自然なキーボードレスポンスなどの弾き心地も再現しました。ミディアム・ウェイテッド・ハンマー・アクション鍵盤を採用した88/76鍵モデル、または73鍵セミウェイテッド・ウォーターフォール鍵盤を採用したモデルからお選びいただけ、それぞれ重量はわずか18.5/16.5/9.7kgという軽量設計を実現しました。

## 主な特長

Nord Stage 2には次のような主な特長があります：

- B3、Vox、Farf (Farfisa) の3種のクラシック・オルガン・サウンドを忠実に再現したオルガン・セクション。
- グランド/アップライト・アコースティック・ピアノや、エレピの定番モデルやWurlitzer、Clavinetやエレクトリック・グランドを網羅したピアノ・セクション。メモリー容量は約500MB。
- アナログ・スタイルのみならず、サンプル・プレイバック、FM、デジタル・ウェーブフォームも搭載したサブトラクティブ・シンセシス・アーキテクチャーを採用したシンセ・セクション。
- 幅広く、自由度の高い音作りをサポートするエフェクト・セクション。
- ミディアム・ウェイテッド・ハンマー・アクションを採用した88/76鍵アフタータッチ付きキーボード・モデル、73鍵セミウェイテッド・ウォーターフォール鍵盤バージョンの3モデルをラインナップ。
- 外部MIDI機器を自在にコントロール可能なエクスターナル・セクションを装備。
- 複数のパラメーターをコントローラーで同時にコントロールできるパワフルなモーフ機能。
- インストゥルメントごとにスプリットやレイヤーを簡単にセットできるキーボード・ゾーン機能。

これだけでなく、Nord Stage 2のすべてのセットアップをメモリーでできるA/Bの独立したスロット機能も搭載しました。この機能により、6つのインストゥルメント・セクションと2つの独立したエフェクト・セクションにアクセスできるので!さらに、二段鍵盤のB3オルガン・エミュレーションや、インストゥルメントのあらゆるレイヤー (音色を重ねる) やスプリット (鍵盤上の音域で音色を使い分ける) も簡単に行えるのです。

## このマニュアルについて

本マニュアルはリファレンス・マニュアルとして使用できるように制作しました。また、機能の説明のほかに、その機能やほかの機能と組み合わせて使用するとき便利なヒントなどもご紹介しています。

## アドビAcrobat Readerでもご利用できます

Nordウェブ(www.nordkeyboards.jp)から無料でダウンロードできる本マニュアルのPDF版もご利用いただけます。PDF版では、リンク機能を使って目次から調べたいページへジャンプしたり、索引にある用語をクリックするだけで説明ページにジャンプできたりすることなどもできます。

## Nordウェブについて

Nordウェブ(www.nordkeyboards.jp、www.nordkeyboards.com(英文))では、Nord Stage 2をはじめその他のNord製品の最新情報を掲載してみなさまのアクセスをお待ちしております。Nord Stage 2用最新サウンドやソフトウェア・アップグレードなど、すべて無料でダウンロードすることができます。

## ファクトリー・プリセットに戻るときは…

工場出荷時のプログラム、サンプル、ピアノのデータはNord Sound Managerのバックアップ・ファイル形式でNordウェブからダウンロードできます。また、本機に付属のNord DVDにも収録されています。

## OSアップグレードについて

Nord Stage 2の最新OSバージョンもNordウェブからダウンロードできますので、Nordウェブに定期的にアクセスして最新情報をチェックしてください。

## フリー・サウンド

Nord Stage 2はオープン設計を採用していますので、すべてのピアノやサンプルを入れ替えることが可能です。この入れ替え作業はNord Sound Managerアプリケーションを使用して行います。

また、Nord Stage 2は次々と新たなサウンドが追加されているNord Piano LibraryやNord Sample Libraryと互換性があります。これらのサウンドは本機に付属のNord DVDにも収録されています。さらに、最新サウンドはNordウェブからダウンロードすることができます。

## 商標について

本マニュアルに記載のあらゆる商標やブランド名はそれぞれの所有者が保有する商標であり、Claviaとの一切の関係はありません。また、それらの商標やブランド名は本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

# 2 Nord Stage 2について

素晴らしいサウンド、最大限の表現力。この2つがNord Stage 2の最大の特長です。この2つをゴールとしてNord Stage 2を開発しました。ここでは、その主な機能をご紹介します。

## オルガン・セクション

トーンホイール・オルガンのデジタル・モデルを採用した最初の製品を発表してから10年が経ちました。Nord Stage 2のオルガン・セクションはNord C2コンポ・オルガンに搭載された第三世代のB3オルガン・モデルを採用しました。

B3サウンドをかつてないほど忠実に再現するNord Stage 2のオルガン・セクションは、オリジナルB3に内蔵された91枚のトーンホイールからの信号を膨大な時間をかけて解析するだけでなく、それぞれのトーンホイール同士の相関関係も忠実に再現したものをベースにしています。これにより、単にサウンドだけを再現するに留まらず、オリジナルB3の内部回路でリアルタイムに起きる現象のひとつひとつも忠実に再現しました。そのため、鍵盤高音部でのオクターブ繰り返しやトーンホイールのエネルギーロスもオリジナルそのままに再現できます。特にエネルギーロスによる穏やかなコンプ効果はオルガン・サウンドをオルガン・サウンドたらしめる重要な要素です。Nord Stage 2では、新品のオリジナルB3と同様にクリーンなタイプから長年使い古したサウンドなど、3種のトーンホイール・モデルを内蔵しました。

また、1960年代に活躍したVox Continental、Farfisa Compactの2大トランジスター・オルガンのサウンドも忠実に再現しました。さらに、Nord C2に搭載された最新版のロータリー・スピーカー・シミュレーションも装備しました。スピーカーに取り付けられたローターやホーンが回転することにより発生する広がりのあるサウンドは、Nord Stage 2のオルガン・サウンドをさらに迫真のリアル・サウンドに仕立て上げます。そしてコントロール面では機械式ドローバーに代わりLEDバー・グラフと「ドロー・ボタン」を組み合わせたパネルを採用し、直感的なサウンド・コントロールが可能になるだけでなく、プリセットの変更時にもセッティングを正しく表示できます。

## ピアノ・ライブラリーv5

Nord Stage 2はNord Piano Library v5と互換性があります。膨大な時間をかけて作り上げた最高のピアノ・サウンドをそのままNord Stage 2で使用できます。

ピアノ・サウンドは付属DVDにカテゴリーやサイズ別(アコースティック・グランド・ピアノおよびアップライト)で収録されています。また、最新ピアノ・サウンドはNordウェブサイト([www.nordkeyboards.jp](http://www.nordkeyboards.jp) または [www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com))から無料でダウンロードすることができます。

## スモール、ミディアム、ラージ

Nord Stage 2(そしてNord Piano Library互換のNord製品)のアコースティック・グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ・サウンドには、エクストラ・ラージ、ラージ、ミディアム、スモールのサイズがあります。このうち、ラージ、ミディアム、スモールは同じペロシティ・レイヤー数、ゾーン数で作成されています。つまり、サイズはスモールでもサウンド・クオリティやプレイアビリティはいつでも最高なのです。

スモール(Sml)は最小限のメモリー・スペースで作成されたピアノですが、サウンドはその限りではありません。スモールではストリング・レゾナンスは収録されていませんので、Nord Stage 2でスモール・ピアノを選択した場合、ストリング・レゾナンス機能は使用できません。

ミディアムでは演奏上重要な位置を占める中音域のストリング・レゾナンスを収録し、それ以外の最低音域や最高音域では収録していません。メモリー容量とサウンド・クオリティのバランスを取ったバージョンです。

ラージではすべての音域でストリング・レゾナンスを収録し、サウンド・クオリティはベストですがその分メモリー・スペースもかかります。

また、ピアノ・サウンドの中には全鍵サンプリングのXL(エクストラ・ラージ)バージョンもあります。しかもメモリー・スペースはラージよりもわずかに大きいだけです。

## ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、アコースティック・ピアノのすべて、または一部の弦が演奏中の弦の基音(ピッチ)や倍音に共鳴する音響現象のことです。ミディアムまたはラージのv5ピアノ・サウンドでNord Stage 2のストリング・レゾナンス機能をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で醸しだされる豊かな響きが得られます。

また、ストリング・レゾナンスはサスティン・ペダルを使用したときにもその効果が分かりやすくなります(ミディアム、ラージのアコースティック・ピアノ・サウンドを使用し、ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合のみ)。サスティン・ペダルを踏んだ状態で演奏すると、演奏したピッチに共鳴する弦の響きも加わり、さらに豊かなピアノ・サウンドをお楽しみいただけます。

ストリング・レゾナンスが生み出すもうひとつの効果にクレッシェンド効果があります。アコースティック・ピアノでは、同じ鍵盤を同じ強さで何度も打鍵すると、サウンドに変化が起こります。これはすでに振動している弦にハンマーが異なる位相で当たり、音量と音色に微妙な濃淡が付きまします。この効果をNord Stage 2でも再現できるのです。

## Nord Triple Pedal

Nord Stage 2はかつてない高い機能を誇るNord Triple Pedal(別売オプション)に対応しています。ペダルを踏んだ時のメカニカル・ノイズをダイナミックにコントロールしたり、ハーフ・ペダリング・テクニックを使用することも可能です。

△ Nord Triple Pedalをご使用の際は、本機のシステム・メニューで設定を行ってからご使用ください。

- ① [SHIFT] ボタンを押しながら、ディスプレイの下にある[SYSTEM/PROGRAM1] ボタンを押してシステム・メニューに入ります。
- ② バリュース・ダイヤルの上にある[PROGRAM PAGE >] ボタンを押して、「Sustain Pedal Type」を呼び出します。
- ③ バリュース・ダイヤルを回して「Triple」を選択します。[SHIFT] ボタンを押すとシステム・メニューから抜けて、Nord Triple Pedalを使用できます。

サスティン・ペダルは右側のペダルです。ペダルを踏むと、ペダルを離すまですべての音にサスティンがかかります。

左側のペダルはソフト・ペダルです。ウナ・コルダ(Una Corda)とも呼ばれています。このペダルを踏むと、演奏中のすべての音量がわずかに下がり、音色もわずかに丸い音になります。

センターのペダルはラッチ/ノステヌートです。このペダルの機能を使用するには、本機でこの機能のアクティベーションが必要となります。詳しくは、21ページの「ラッチ・ペダルとKBゲート」をご参照ください。

## ペダル・ノイズ

アコースティック・グランドやアップライト・ピアノのペダルを踏むと、ペダル機構内部の各種パーツから様々な音が出ます。これをNord Stage 2でも再現できるのです。サスティン・ペダルを踏むと、ダンパーが弦から外れる時の音や、その際に出る弦の音が聴こえます。

ペダルを離すと、ダンパーが弦の位置に戻ります。この時にも音が出ます。Nordサスティン・ペダルはダイナミック方式ですので、ペダル操作の強弱によりこれらのペダル・ノイズを音量をコントロールすることができます。例えば、ペダルから足を滑らせて離すとバネによりペダルが強く戻り、ペダル・ノイズも大きく出ます。

また、ペダルが下がり切った時に出る「フロア・サウンド」も再現できます。ペダルを一旦踏み込んだ状態から半分ほど戻してからさらに踏み込むと、そのサウンドがよく聴き取れます。

ペダルを戻して素早く踏み直すと、弦に触れていたダンパーが急激に外れることによりすべての弦が小さく発音するリッチなサウンドが出ます。これもNord Stage 2で再現できます。また、サスティン・ペダルを強く踏み込むことで出せる「ストンプ・サウンド」も再現できます。

## シンセ・セクション

Nord Stage 2のシンセ・エンジンはNord WaveのDNAを受け継いだパワフルなものです。クラシックなアナログ・シンセシス、3オペレータ方式のFMシンセシス、ウェーブテーブル・シンセシスを内蔵し、さらにNord Sample Libraryの膨大なサウンドも使用できます。

Nord Sample Libraryは、MellotronやChamberlinといったテープ式キーボードのビンテージ・サウンドを含む膨大かつ高品位なサウンド・ライブラリーで、これまでNord Wave、Nord Electro 3ユーザーから高い評価を頂いてきました。このライブラリーはNord Stage 2オーナーにもご利用いただけます。このライブラリーのサウンドは、Nord Sample Editorソフトウェア(Mac/PC)を介して本機にロードさせることができます。

一方アナログ・シンセシスはデュアルSaw、ハード・シンク、パルス・ウェーブ・モジュレーション、32種類の周波数比を備えた3オペレータFMシンセシスや、62波形を搭載したウェーブテーブル・シンセシス、サンプル・ベース・シンセシスを内蔵しました。また、サウンドの要となるフィルターは12/24dBローパス、ハイパス、バンドパス、ノッチを装備したマルチモード・フィルターを搭載し、アンプ・エンベロープ、モジュレーション・エンベロープ、LFO、ユニゾン・コントロールも装備しました。まさしくパワフルなシンセ・エンジンです。

シンセ・セクションにはさらに、本機のマスター・クロックや外部MIDIクロックに同期可能なアルベジエーターも装備しました。また、シンセLFOやエフェクトもマスター・クロックと同期可能です。

# 3 使い始める

ここからNord Stage 2の基本的な操作方法についてご紹介します。このチャプターは本機を安心してご使用していただけるための、いわばガイド・ツアーとして作成しました。基本的な操作方法などを可能な限りシンプルにご紹介しています。なぜなら、読むより弾くほうが好きだと分かっていますから!

## 接続する

- ① 電源コードを本機に接続し、コンセントに接続します。それからサスティン・ペダルやヘッドフォン、またはアンプ、ミキサーなどのオーディオ機器に接続します。
- ② 本機の電源を入れてから、オーディオ機器の電源を入れます。電源を入れる時はそれぞれの機器のボリュームにご注意ください。

接続に関する詳細は、57ページもご参照ください。

## プログラム

プログラム・エリアは、本体パネル中央のディスプレイの周囲にあります。パネル上のすべてのパラメーターをプログラムとしてメモリーでき、400個のプログラムをストックしておけます。

プログラムは4つのバンクに分けられ、それぞれのバンクはさらに5プログラムずつ20ページに分けられています。すべてのプログラムは書き換えも移動も可能です。

△ Dバンクに入っている100個のプログラムは、工場出荷時ではAバンクの100個と同じものが入っています。これで、ご購入後のファクトリー・プログラムを消すことなく、すぐに音色エディットをしてAまたはDバンクに保存することができます。

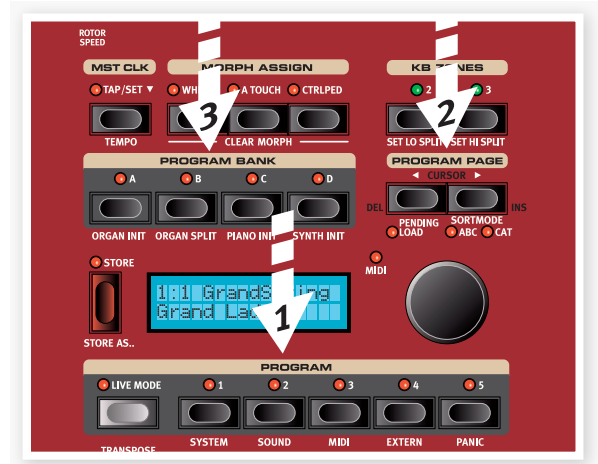
ファクトリー・プログラムは付属のNord DVDに収録されています。また、Nordウェブからもダウンロードできます。プログラム・メモリーを新品の状態に戻したい場合などにご利用ください。

## プログラムを選択する

- ① プログラムはディスプレイの下にある5つの〔PROGRAM〕ボタンを押して選択できます。また、ディスプレイの右にあるバリュー・ダイヤルを回すことで選択することもできます。
  - ② プログラムのページはバリュー・ダイヤルの上にある〔PROGRAM PAGE </>〕ボタンで切り替えることができます。
- ❗ プログラム名に「MW」や「AT」と書かれたものがいくつかあります。これらはそれぞれモジュレーション・ホイール、アフタータッチの略で、それらの機能を使うとサウンドが変化するようになっています。ぜひお試しください。

- ③ バンクはディスプレイの上にあるA~Dの〔BANK〕ボタンで切り替えることができます。

〔BANK〕、〔PAGE〕、または〔PROGRAM〕ボタンを押すと同時に新たなプログラムに切り替わります。また、ペンディング・ロード機能をオンにすることで、〔BANK〕または〔PAGE〕ボタンを押し、〔PROGRAM〕ボタンを押すまで実際にプログラムが切り替わらないようにすることも可能です。設定は〔SHIFT〕を押しながら〔PROGRAM PAGE <〕を押します。



💡 〔PROGRAM PAGE〕を長押しすると、ページがスクロールします。

## シフト・ボタン

Nord Stage 2のボタンの多くには「もうひとつの機能」があり、それらの機能は各ボタンの下にプリントされています。これらの機能やパラメーターにアクセスする場合は、〔SHIFT〕ボタンを押しながらアクセスしたい機能やパラメーターのボタンを押します。

- ❗ シフト・ボタンは、メニューから抜ける時や、保存操作を途中で中止する時にも使えます。





## ソート・モード

バリュー・ダイヤルを回してプログラムを切り替えるときに使用できるソート・モードには3種類があります。初期設定のモードは番号順です。バリュー・ダイヤルを回すと、番号順にプログラムが切り替わります。(バンクA、ページ1、プログラム1~5、バンクA、ページ2、プログラム1~5というように)では、その他のソート・モードも見てください。

- ① [SHIFT] ボタンを押しながら…
  - ② [PROGRAM PAGE >] ボタンを押します。
- これでアルファベット順のソート・モードになりました。バリュー・ダイヤルを回すとプログラムがアルファベット順に並び替わっていることが分かります。
- ③ 頭文字を変更する場合は、[PROGRAM PAGE] ボタンを押します。
  - ④ [SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM PAGE >] ボタンをもう一度押すと、カテゴリ別のソート・モードになり、プログラムはカテゴリ内でアルファベット順に並び替わります。

各プログラムは保存をする時、または Nord Sound Manager を使用してカテゴリに分類することができます。詳しくは17ページをご参照ください。

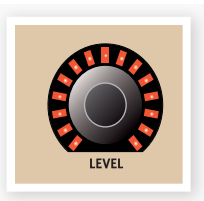
- ⑤ カテゴリを切り替える時は、[PROGRAM PAGE] ボタンを押します。
- ⑥ [SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM PAGE >] ボタンをもう一度押すと番号順のソート・モードに戻ります。

① ソート・モードはバリュー・ダイヤルを回してプログラムを切り替える時のみ有効です。[BANK]、[PAGE]、[PROGRAM] の各ボタンでプログラムを選択する場合は番号順になります。



## ノブについて

Nord Stage 2 には2種類のノブがあります。ひとつは周囲にLEDがあるバリュー・エンコーダータイプ。これはそのノブの設定値がLEDに表示されます。このタイプのノブが割り当てられているパラメーターはモーフ機能でコントロールすることができます。



もうひとつは右図のようなボリューム・タイプのノブです。シンセやエフェクト・セクションにあるノブです。プログラムを切り替えると、ノブの位置とそのパラメーターの設定値が一致していないことがありますが、ノブを回すとそのパラメーターの設定値が瞬時にノブを位置をキャッチしてノブの位置と一致します。



☀ [SHIFT] ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターの設定値を変更させることなく保存時の設定値がディスプレイに表示されます。

## ボタンについて



セレクター・ボタンは、丸や三角形のLEDが付いたいくつかの選択肢からひとつを選択するパラメーターに使用しています。ボタンを数回押して選択肢を順に切り替えて選択できます。

オン/オフ・ボタンは、機能のオン/オフやエフェクトのように一連の機能をまとめてオン/オフする時に使用します。ボタンの近くにはLEDがあり、オン/オフの状態を表示します。また、LEDはソースやゾーンを表示するものもあります。

① 図のようなエフェクトのオン/オフ・ボタンにはセレクター機能もあります。一度押すとエフェクトがオンになり、すぐにもう一度押すとエフェクトが切り替わります。

## プログラムをエディットする

プログラムのエディットは、ノブを回したりボタンを押したりして設定値を変更する、とても簡単なことです。ちょっとやってみましょう。

- ① バンク A、ページ1、プログラム1 (Imperial Grand Piano) を選択し、これをエディットしてみましょう。

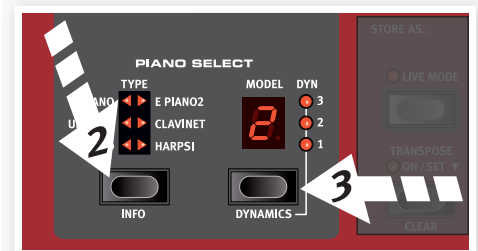


ピアノ・セクションのパネルはプログラム/ディスプレイ・エリアの左側にあります。現在選ばれているピアノ・タイプはグランド・タイプですね。

## 別のピアノ・サウンドを選ぶ

- ② ピアノ・タイプのセレクター・ボタンを数回押して6種類のタイプを巡回してみましょう。各タイプにはさらに複数のモデルがあります。
- ③ モデルLEDの下にあるピアノ・モデル・ボタンを数回押してピアノ・サウンドを切り替えて少しずつ弾いてサウンドの違いを確認します。

例えばピアノ・モデルが3種類ある場合、3の次は1となるように、循環して切り替わります。



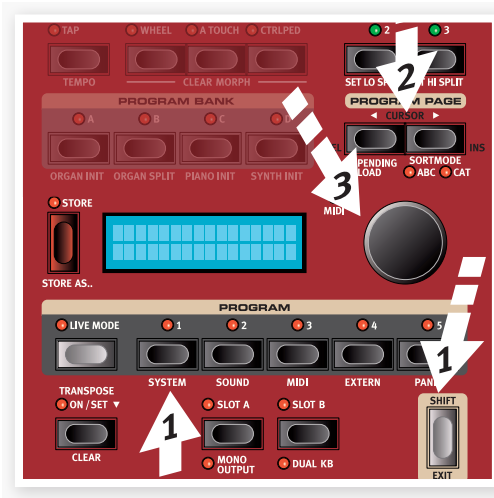
パラメーターの設定を変更すると、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの後ろにアスタリスク(\*)が付きます。



これは、そのプログラムの設定値が変更されてエディット中で、まだ保存されていないということを表示しています。この時、保存の操作をせずに別のプログラムを選ぶと、それまでのエディット内容は消えてしまい、次に同じプログラムを選んだ時にはエディットする前の状態に戻ります。

## メモリー・プロテクトをオフにする

Nord Stage 2はメモリー・プロテクトがオンの状態で出荷され、工場出荷時プログラムが誤って上書きされないようになっています。メモリー・プロテクトはシステム・メニューにあり、オフにすることができます。



- ① [SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM 1/SYSTEM] ボタンを押します。
- ② メモリー・プロテクトがディスプレイに表示されるまで [PROGRAM PAGE </>] を押します。
- ③ バリュー・ダイヤルを回してオフにします。
- ④ [SHIFT] ボタンを押してシステム・メニューから抜けます。

システム・メニューの各セッティングに関する詳細は、42ページの「システム・メニュー」をご参照ください。

## プログラムを保存する

- ① ディスプレイの左にある [STORE] ボタンを一回押し、保存操作に入ります。



- ② [STORE] ボタンのLEDが点滅し、プログラムの保存先を指定する画面がディスプレイに表示されます。
  - ③ エディットしたプログラムを元のプログラム番号に上書き保存する場合は、[STORE] ボタンをもう一度押します。別のプログラム番号に保存する場合は、[BANK]、[PAGE]、[PROGRAM] ボタンを使って保存先を指定します。
- △ 保存先を指定すると、そのプログラムをキーボードで演奏でき、消してもよいプログラムかどうかを確認することができます。
- ④ プログラムの保存先が決まりましたら、[STORE] ボタンを押してプログラムを保存します。
- ❗ [STORE] ボタンを押す前に [SHIFT/EXIT] ボタンを押すと保存作業を中止します。

「保存」と「別名で保存」の操作や、プログラムのカテゴリーの指定に関する詳細につきましては、17ページをご参照ください。

## ライブ・モードについて



Nord Stage 2のライブ・モードは、5つのテンポラリー・プログラム・バッファがあり、各バッファは保存操作を行うことなく自動的に保存作業を行います。

- ① [LIVE MODE] ボタンを押してライブ・モードを起動すると、以後すべてのパネル・セッティングの変更は、継続的にバックグラウンドで保存されます。
- ② Nord Stage 2の電源を切る、または別のプログラムを選択すると、それまでのパネル・セッティングはライブ・モード・プログラムに保存され、次回に電源を入れた時に(または別のプログラムからライブ・モード・プログラムに戻った時に)電源を切る寸前や、別のプログラムを選択する前のパネル・セッティングを呼び出すことができます。

ライブ・モード・プログラムを通常のプログラムとして保存する場合は、通常の保存操作で保存できます(左ページをご覧ください)。

プログラムを5つのライブ・モード・プログラムのいずれかに入れておくことも可能です。この場合、そのプログラムのセッティングは現在選択されているライブ・モードのセッティングと入れ替わります。

[LIVE MODE] ボタンをもう一度押しとライブ・モードから抜けて、通常のプログラムに戻ります。

## エフェクトをオンにする

- ① [REVERB] ボタンを押してリバーブをオンにします。
- ② リバーブ・セレクター・ボタンの上にある [DRY/WET] ノブでリバーブの量を調整します。
- ③ デレイ・セクションの [SOURCE] ボタンを押してデレイをオンにします。
- ④ この時、LEDが点灯しているインストゥルメントの信号がデレイに流れます。例えばピアノ・セクションのソースLEDが点灯してない場合は、[SOURCE] ボタンを何度か押して点灯するとピアノからの信号がデレイに入ります。
- ⑤ 2つのバリュー・エンコーダー・タイプのノブは、ソースごとのデレイのレイト/テンポ(デレイ・タイム)とデレイの音量を調整します。



ひとつのプログラムで複数のエフェクトを使用している場合、エンコーダーの間にある(FOCUS)ボタンでエディットするエフェクトを選択することができます。また、新たにエフェクトをオンにすると、そのエフェクトが自動的に選択され(フォーカス)されます。

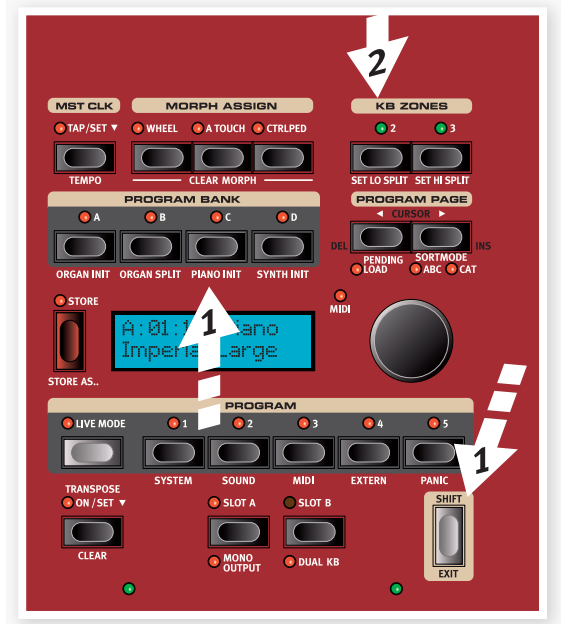
☀ (SHIFT) ボタンを押しながら(SOURCE) ボタンを繰り返し押すと、エフェクトソースを素早く切り替えることができます。

## 別のインストゥルメントをオンにする

① ピアノがオンの状態で、シンセのバリュー・エンコーダーの下にある(ON/OFF) ボタンを押します。すると、ピアノの音にシンセの音が重なります。

パネル上にあるすべてのシンセ・パラメーターは、自由にエディットすることができます。各パラメーターの詳細は、29ページからのリファレンス編をご参照ください。

☀ パラメーターのエディットすることなく設定値だけを確認したい場合は、(SHIFT) ボタンを押しながらそのパラメーターのノブを回します。すると、ディスプレイにそのパラメーターの設定値が表示されます。



② バリュー・ダイヤルの上にある(2 KBD ZONE) ボタンを押します。

この操作で、鍵盤が2つのゾーンにスプリット(分割)されます。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑のLEDで表示されます。また、(3 KBD) を押すと鍵盤が3つのゾーンにスプリットされ、それぞれのスプリット・ポイントで緑のLEDが点灯します。

## スロットについて

(PROGRAM) ボタンの下に(SLOT A)、(SLOT B) ボタンがあります。これらのボタンを使って、Nord Stage 2 のすべてのパネル・セッティングを記憶したセットアップに簡単にアクセスすることができます。それぞれのスロットに、オルガン/ピアノ/シンセ/エクスターナル/エフェクトのセットアップが記憶されています。

スロット・ボタンを活用することにより、2つの異なるサウンドを継ぎ目なく切り替えたり、オルガンと2種類のピアノやシンセをレイヤーしたりスプリットした分厚いサウンドのセッティングを作ることも可能です。では、スプリット作成してそれぞれのゾーンに異なるサウンドを割り当ててみましょう。

☀ (SLOT) ボタンを押しながら、バリュー・ダイヤルでコピーしたいサウンドを見つけ(SLOT) ボタンを離すと、そのセッティングをコピーすることができます。この操作で、コピーしたいサウンドのセッティングがエディット・バッファにコピーされます。そのセッティングをプログラムとしてキープしたい場合は保存操作を忘れずに行いましょう。

## スプリットを作成する

① スロット A がオンになっていることを確認し、(SHIFT) ボタンを押しながら(BANK C/PIANO INIT) ボタンを押します。

この操作で、ピアノ・セクションとすべてのエフェクトがピアノ・セクションに接続されます。INIT機能は新たにプログラムを作成する時に素早く行える便利な機能です。

## ピアノをアッパー・ゾーンにセットする

③ (SHIFT) ボタンを押しながら(UP-HI) LED が点灯し、(LO) LED が消灯するまで(PIANO ZONE SELECT) ボタンを数回押します。

この操作で、ピアノが鍵盤上の高音部にセットされます。必要に応じて(OCTAVE SHIFT) ボタンを使って音の高さを調整できます。



## シンセをロー・ゾーンにセットする

④ (SHIFT) ボタンを押しながら(LO) LED が点灯し、その他のLEDが消灯するまで(SYNTH ZONE SELECT) ボタンを繰り返し押しします。これでシンセが鍵盤上の低音部(ロー・ゾーン)にセットされます。



☀ (SHIFT) ボタンを押しながら(SET LO SPLIT)または(SET HI SPLIT) ボタンを繰り返し押すと、スプリット・ポイントの変更ができます。

## シンセ・サウンドをロードする

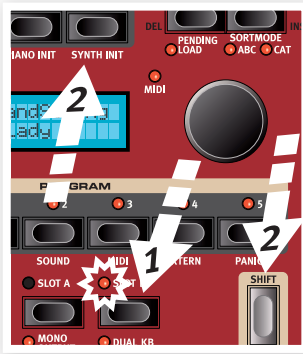


- ① (SHIFT) ボタンを押しながら (LOAD SOUND) ボタンを押します。この操作で Nord Stage 2 のシンセ・メモリー・エリアに収録されている 300 個のシンセ・パッチから選択できます。
- ② シンセ・セクションの LED ディスプレイの下にある小さなダイヤルでシンセ・パッチを選択します。
- ③ (SHIFT) ボタンを再度押してロード・サウンド・モードを解除します。

## レイヤーを作成する

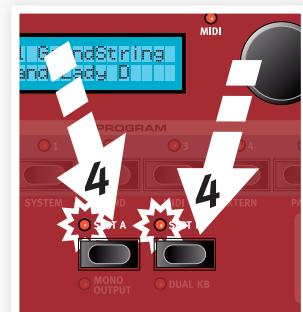
ピアノとシンセのスプリットにさらにサウンドを重ねてみましょう。

- ① (SLOT B) ボタンを押してスロット B をオンにします。これでもうひとつのオルガン、ピアノ、シンセ、エフェクトが使えます。
  - ② (SHIFT) ボタンを押しながら (BANK D/SYNTH INIT) ボタンを押します。
- これでシンセがオンになり、スロット B のすべてのエフェクトがシンセに接続されます。
- ③ (SHIFT) ボタンを押しながら (LOAD SOUND) ボタンを押し、オシレーターにある小さなダイヤルでピアノとシンセのスプリットに適したシンセ・パッチを選択します。



## 両方のスロットをオンにする

- ④ (SLOT B) ボタンを押しながら (SLOT A) ボタンを押して両方のスロットがキーボードで演奏できるようにします。この時、スロット A はピアノとシンセのスプリット、スロット B はシンセのレイヤーになります。



スロット・ボタンの上にある LED のうち、点滅しているほうがパネルでエディットできるスロットです。もう一方のスロットをエディットしたい場合は、エディットしたいほうのスロット・ボタンを押します。

ピアノとシンセなど、異なるインストゥルメントを組み合わせるとスプリットやレイヤーを作成することが可能ですが、オルガン・セクションではスロット A/B でひとつのオルガン・モデル (B3, Vox, Farf) しか使用できません。但し、スロット A/B を使用してひとつのオルガン・モデルでふたつの異なる音色をセットして二段鍵盤オルガンのように使用することは可能です。

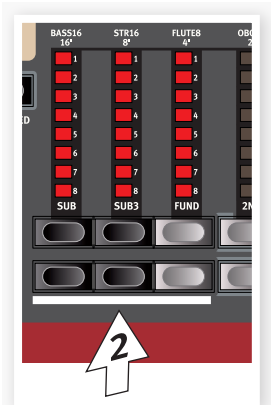
☀ エクスターナル・セクションもスプリットやレイヤーに使用できます。つまり、外部 MIDI 機器も本機の一部のように組み込むことができます。

- ⑤ スロットを組み合わせた状態を解除するには、キープしたいほうのスロット・ボタンを押しながら、オフにしたいほうのスロット・ボタンを押します。

## モーフ機能を使う

モーフ機能を設定すると、モジュレーション・ホイールやコントロール・ペダル、アフタータッチで複数の音色パラメーターを同時にリアルタイムにコントロールすることができます。設定は次の手順で行います：

- ① ここではドローバーをモジュレーション・ホイールでコントロールしてみましょう。(SHIFT) ボタンを押しながら (BANK B/ORGAN INIT) ボタンを押します。
- ② オルガン・モデルが B3 になっていることを確認し、ドローバーのうち左から 3 本 (Sub, Sub3, Fund) を下側のドローバー・ボタンで引き出した状態にします。



ドローバーを戻したい場合は、上側のドローバー・ボタンを押します。

- ③ ディスプレイの上部にあるモーフ・アサイン・グループの (WHEEL) ボタンを押しながら…
- ④ ドローバーの右 4 本をドローバー・ボタンで引き出します。この時、各ドローバーの量はそれぞれ LED がひとつ点灯して表示されます。これはモーフ機能によるコントロール量を示しています。
- ⑤ (WHEEL) ボタンを離してモーフ機能の設定は完了です。モジュレーション・ホイールを操作しながら少し弾いてみましょう。



モジュレーション・ホイールの動きに応じてドローバーも動き、音色に変化が起こります。

☀ モーフ・ソース (モジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、アフタータッチ) は、複数のパラメーターを同時にコントロールすることができます。

☀ ひとつのモーフ・ソースで一方のパラメーターを上昇させ、同時に他方を下降させる設定も可能です。これにより例えば、クロスフェードのようなことができます。

モーフ機能の詳細につきましては、19 ページをご参照ください。

## シンセサイザーについて

Nord Stage 2のシンセサイザーの主な機能を見ていきましょう。

- 1 (SHIFT) ボタンを押したままの状態、ディスプレイの上にある(BANK D/SYNTH INIT) ボタンを押します。
- 2 ノコギリ波が選択されるまで(OSCILLATOR) ボタンを押します。
- 3 フィルターの(FREQ) ダイアルを回しながら少し弾いてみましょう。



- 4 オシレーター部のLED ディスプレイの下にあるオシレーター・セクター・ダイアルを回してノコギリ波カテゴリーのその他の波形の音も聴いてみましょう。

- 5 LED ディスプレイに「dtn」と表示されていることを確認します。これがデュアル・ソー波形です。

- 6 セクター・ダイアルの左下にある(SHAPE) ダイアルを回して2つのノコギリ波のチューニングを半音単位で変えてみましょう。



- ① (SHAPE)、(FREQ)ダイアルは周囲にLEDがついています。このようなダイアルはモーフ機能でコントロールすることができます。

☀ (SHAPE)パラメーターは選択した波形によって役割が変化します。例えば、パルス波の場合はパルス幅の調整に使用しますが、波形によってはこのパラメーターで何も変わらないものもあります。

- 7 オシレーター・ボタンを押してサンプル波形(SAMP)を選択します。
- 8 オシレーター・ダイアルを回してサンプルを選択します。



サンプルは、Nord Sample Libraryから追加したり、Nord Sample Editorで新規作成して追加することも可能です。

サンプルはまずオシレーターで選択してからフィルターやエンベロープなどのパラメーターで音色を加工していきます。サンプルの追加方法など詳細につきましては、46ページの「Sound Manager」をご参照ください。

☀ シンセ音色は(SHIFT)ボタンを押しながら(VIBRATO)ボタンを押すことで他のインストゥルメントとは独立して最大300個まで保存できます。

## アルペジエーターを使う

では続いてアルペジエーターを使ってみましょう。

- 1 シンセ・セクションがオンになっていることを確認し、アタック・タイムを0にし、ディケイを250msにし、オシレーターの波形はノコギリ波を選択し、フィルターは開いた状態((FREQ)を上げる)にします。これでパーカッシブなサウンドになります。

必要に応じてMod Env(モジュレーション・エンベロープ)をフィルターのフリクエンシーにアサインすることもできます。

- 2 アルペジエーターの(ON/OFF) ボタンを押してオンにし、鍵盤でコードを押さながらアルペジエーターの(RATE) ノブを回します。これで、押さえているコードの構成音によるアルペジオになります。
- 3 コードを押さえたまま(DIRECTION/RANGE) ボタンを押してアルペジオのタイプを選択します。

ディレクションLEDがすべて消えている時は、アルペジオ・ディレクションはアップ(UP)になります。これは押さえたコードの最低音から最高音へ向かって順に発音し、最高音を発音すると再び最低音に戻るタイプです。他のディレクションにはダウン、アップ&ダウン、ランダムがあります。



- 4 (SHIFT) ボタンを押しながら(ARPEGGIATOR) ボタンを数回押しでレンジを選択します。

レンジLEDがすべて消えている時は、鍵盤で押さえたコードと同じオクターブでアルペジオ演奏します。2が点灯している時は元のオクターブをアルペジオ演奏してから1オクターブ上を演奏し、また元のオクターブに戻ります。3が点灯しているときは2のさらに1オクターブ上も演奏し、2と3の両方が点灯している状態では3よりもさらに上のオクターブまで演奏します。

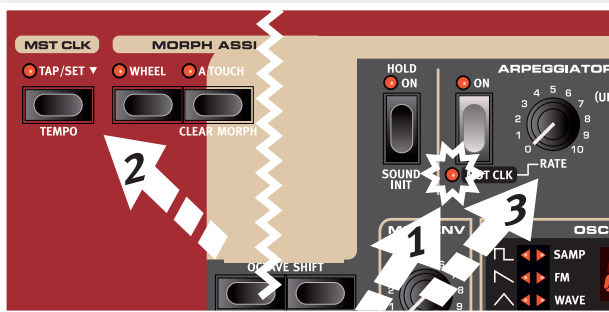
- 5 (ARPEGGIO HOLD) ボタンを押すと、鍵盤から手を放してもアルペジオ演奏をそのまま続けます。

シンセ・セクションのファクトリー・プログラムにアルペジエーターを使用したものもあります。ディスプレイに表示されるプログラム名の後ろに「ARP」と書かれているものや、アルペジオ・カテゴリーのプログラムでアルペジエーターを使用しています。

## マスター・クロック

マスター・クロック機能を使ってアルペジエーターとエフェクトを同期させてみましょう。

- ① (SHIFT) ボタンを押しながら (ARPEGGIATOR) ボタンを押して、アルペジエーターをマスター・クロックに同期させると、マスター・クロックLEDが点灯します。この時、演奏中のアルペジオは停止しますが、この後の手順で再び演奏が始まりますのでコードを押さえたまま、あるいはサステイン・ペダルを踏んだままにしておきましょう。
- ② (SHIFT) ボタンを押しながら (MST CLK) ボタンを押し、バリュー・ダイヤルでテンポを指定します。テンポはBPM表示です。ここでは120BPMに合わせてみましょう。テンポの指定が済みしたら、(SHIFT) ボタンをもう一度押してテンポ指定モードを解除します。



💡 (MST CLK) ボタンを4回タップするとタップ・テンポ入力ができます。

- ③ アルペジオ・レート・ノブを回すとマスター・クロックに比例した周期 (または音符) でアルペジエーターを演奏させることができます。ノブを回しながらLCDディスプレイをご覧ください。1/4は1/8の半分の「スピード」になります。また、数字の後ろにある「T」は三連符の意味です。ここでは1/8にしましょう。
- ④ ディレイをオンにし、(SOURCE) ボタンを数回押してシンセのLEDを点灯させ、シンセ・セクションをディレイのソースにします。

ディレイ・タイムをアルペジオのリズムに合うように慎重に合わせても良いのですが、他の方法もあります。ディレイ・タイムをアルペジオと同じクロックに同期させてみましょう。

- ⑤ (SHIFT) ボタンを押しながらエフェクト・ダイヤルの間にある (FOCUS/MST CLK) ボタンを押します。すると、MST CLK LEDが点灯します。



- ⑥ エフェクトの (RATE/TEMPO) ダイヤルを回し、ディレイ・タイムを設定します。
- ⑦ ここではアルペジオの半分の音価 (スピードは倍速) の1/16に合わせてみましょう。(AMOUNT) ノブを時計の12時の位置を超えない程度にし、アルペジオの音とディレイ音を聴いてみましょう。

アルペジオ、シンセ・セクションのLFO、ディレイ、2つのエフェクトはこの方法でマスター・クロックと同期させることができます。

この他にも、マスター・クロックはA/B2つのスロットに共通して使用できるので、それぞれスロット間でアルペジオやLFO、エフェクトの同期を行います。

マスター・クロックに比例した周期 (サブディビジョン) の組み合わせは何通りも考えられますので、色々試してみましょう。そして素敵な組み合わせが見つかりましたら友達などとどんどんシェアしましょう。

1/1よりも大きいサブディビジョンは1小節よりも長い周期になります。また、いくつかをマスター・クロックと同期させ、その他を同期させないというセッティングも行えます。

**これで Nord Stage 2 のガイド・ツアーは終了です。このツアーで本機の基本的な操作法をご理解いただけたと思います。**

**次のチャプターからリファレンス編が始まり、その後48ページからは Nord Sound Manager の解説が始まります。**

# 4 プログラム・セクション



プログラム・セクションは、プログラムの保存や呼び出しの他に、システム・メニューなどの設定を行うセクションです。プログラム・セクションの下端にあるボタンのシステム・メニューをはじめとする4つのメニューにつきましては、42ページからのチャプター11で詳しくご紹介します。

この状態でもう一方のスロット・ボタンを押すと、エディット・フォーカスがそのスロットに切り替わります。また、両方のスロットがオンになっている状態を解除して、片方のスロットのみを残したい場合は、残したいほうのスロット・ボタンを押しながら、オフにしたいほうのスロット・ボタンを押します。

## トランスポーズ・オン/セット

Nord Stage 2のトランスポーズは半音単位で最大±6半音まで行えます。設定は〔TRANSPOSE〕ボタンを押しながらバリュー・ダイアルで行います。もう一度〔TRANSPOSE〕ボタンを押すとトランスポーズが解除されます。

トランスポーズはプログラムごとにメモリーできます。

## 別のスロットからセッティングをコピーする

スロット・ボタンを押しながらバリュー・ダイアルを回します。この操作で別のスロットから現在選択しているスロットにセッティングをコピーできます。この時、ディスプレイにはNord Stage 2にメモリーされたすべてのプログラムがスロットごとに表示され、その中からコピーしたいスロットを選択できます。

## スロット・ボタンA & B

各プログラムには独立した2つのスロット A/B があります。各スロットにはそれぞれ3つのインストゥルメントとエフェクトのセッティングがメモリーできます。

2つのピアノやスプリット・オルガン(詳細は18ページをご参照ください)など、同じタイプのインストゥルメントを2つ同時に使用する場合は、両方のスロットをオンにします。

両方のスロットをオンにするには、両方のスロット・ボタンを同時に押します。これにより最大で6つのインストゥルメントと8つのエフェクト(エフェクト1&2、ディレイx2、アンブ・シミュレーター/EQx2)を同時に使用することができます。

片方のスロットLEDが点滅している時、そのスロットがエディット可能な(エディット・フォーカス)状態になっています。この状態で音色エディットを行うと、スロットLEDが点滅しているほうの音色が変化します。

## モノ・アウトプット

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SLOT A/MONO OUTPUT〕ボタンを押すと本機のすべてのサウンドとエフェクトがモノラルになります。これはプログラムごとではなく、グローバルのセッティングになりますので、電源を切るか、この設定を解除しない限りすべてのプログラムで有効となります。

- ❶ モノ・アウトプットを解除してもすべてのサウンドがステレオになるとは限りません。オルガン・セクションは常にモノラルですし、一部のピアノ・サウンドや、アナログ・シンセシス、FM、デジタル・ウェーブフォームもモノラルです。サンプルはステレオのものかほとんどです。
- ❷ ステレオのインストゥルメントをモノラルのエフェクトに接続すると、アウトプットはモノラルになります。詳細はエフェクトのチャプターをご覧ください。

## デュアルKB

デュアルKB機能を使うと、本機のMIDI INに接続した外部MIDIキーボードでスロットBを演奏することができます。

この時、本機のキーボードはスロットAをコントロールし、スロットBは外部MIDIキーボードでコントロールできます。なお、このモードでは本機のキーボードで両方のスロットを演奏することはできません。

この機能は2台のキーボードでNord Stage 2の音源を弾き分けたい場合などに効果的です。

デュアルKBモードのメリットは、面倒なMIDIの設定をすることなく、すぐに外部MIDIキーボードを使って本機のスロットBをコントロールできる点にあります。また、このモードをオン/オフすることで外部MIDIによる本機の音源部へのアクセスをオン/オフできるシンプルさも利点です。

もうひとつのメリットは本機のキーボードでスロットAを演奏している間に外部MIDIキーボードで演奏するスロットBの音色を本機のパネルでコントロールできる点が挙げられます。例えば、スロットAを本機のキーボードで演奏しながらスロットBのドローパー・セッティングを調整することも可能です。

デュアルKBモードは、各スロットの設定も含めてプログラムごとに保存ができます。これで複雑なキーボード・セッティングであっても、ボタンひとつで設定完了ですから、ライブなどのシチュエーションに最適です。

- ① デュアルKBモードのMIDIチャンネルは本機のMIDIメニューで設定します。詳しくは44ページをご参照ください。

## SHIFT/EXITボタン

パネル上のボタンには「もうひとつの機能」を備えたものが多くあり、(SHIFT) ボタンを押しながらアクセスするものがあります。(SHIFT) ボタンにより、ボタンの下にプリントされている機能を使うことができます。例えば、(SHIFT) ボタンを押しながら(PROGRAM 3) ボタンを押すと、MIDIメニューのパラメーターにアクセスできます。

例外的に、キーボード・ゾーンの設定やエフェクト・ソースの選択など、(SHIFT) ボタンを押さず、代わりにダブルクリックでアクセスできる機能もあります。

☀ (SHIFT) ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターをエディットすることなく保存された設定値をディスプレイで確認することができます。

☀ (SHIFT) ボタンを押しながらセクター・ボタン(PIANO TYPE)を除く)を押すと、セクターの選択肢が逆回りで切り替わります。

(SHIFT) ボタンは(EXIT) ボタンとしても機能します。メニューから抜けたり、保存操作を中止する時に使用します。



## ライブ・モード

ライブ・モードは「自動的に、かつ常にすべてを保存し続けるプログラム・メモリー」という特殊なものです。ライブ・モードをオンにすると、パネル上のセッティングの変更を絶えず保存し続けます。本機の電源を切ったり、別の通常のプログラムを選ぶと、その寸前のパネル・セッティングをライブ・メモリーに保存しますので、次に電源を入れたり、通常のプログラムからライブ・メモリーを選択すると、前回自動的に保存したセッティングを呼び出せます。Nord Stage 2には5個のライブ・メモリーがあります。

ライブ・メモリーの内容を通常のプログラムに移したい場合は、通常の保存操作でできます(本ページの「保存、別名で保存」もご参照ください)。

逆に通常のプログラムをライブ・メモリーに移すことも可能です。この場合、現在選択しているライブ・メモリーの内容が移してくるプログラムのセッティングに入れ替わります。またこの場合、プログラムからライブ・メモリーに移されたセッティングは、エディットをした時点で自動的に保存されますのでプログラムとして保存した状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

## プログラム・ボタン

5つのプログラム・ボタンで同一ページ内の5つのプログラムを瞬時に選ぶことができます。



### プログラムとは?

プログラムは本機のほぼすべてのセッティングをメモリーしたものです(システム機能は多くがグローバル・メモリーのため除きます)。Nord Stage 2の内部構造を理解するためにも、次の点にご留意ください:

- 各スロットには3種類のインストゥルメント、4基のエフェクト、エクスターナル・セクションの設定を独立してメモリーできます(オルガン・モデルは常に両方のスロットで共通して使用しますので除きます)。
- プログラムにはA/B両方のスロットのセッティングをメモリーできます。つまり、6つのインストゥルメント、8基のエフェクト、2つのエクスターナル・セッティングをひとつのプログラムにメモリーできます。
- またプログラムには、エクスターナルA&B MIDIチャンネル、 SEND・オン・ロード・セッティング(詳しくは44ページのエクスターナル・メニューをご参照ください)を除くすべてのエクスターナル・メニュー、各インストゥルメントのアウトプット・ルーティング(詳しくは42ページをご覧ください)をメモリーできます。
- グローバル・エフェクト(コンプレッサー/リバーブ)やロータリー・エフェクトは両方のスロットに共通で使用し、そのセッティングはプログラムにメモリーされます。
- スプリット、レイヤー(キーボード・ゾーン)、モーフ・アサインはプログラムの一部としてメモリーされます。

### システム、サウンド、MIDI、エクスターナル

プログラム・ボタンは、(SHIFT) ボタンと併用して4つのメニューの入り口としても機能します。各メニューのセッティングに関する詳細は42ページ以降のメニューのチャプターをご参照ください。

### パニック

(SHIFT) ボタンを押しながら5つ目のプログラム・ボタンを押すと、内部的にオール・ノート・オフ・メッセージが発生してすべての発音が止まると同時にパラメーターの一部も強制的にリセットされます。これはMIDIを使用した時やライブ時に音が止まらなくなった場合に使用します。

## 保存する、別名で保存する

(STORE) ボタンはエディットしたプログラムを保存する時に使用します。また、エディットしたプログラムの名前を変えて保存したり、カテゴリーを変えて保存する時にも使用します。保存動作そのものは、すでにプログラムがあるメモリー・ロケーションに上書き保存を行うものです。

- ① 工場出荷時の Nord Stage 2は、メモリー・プロテクトがオンの状態になっています。プログラムの保存を行う場合は、これをオフにします。詳しくは10ページをご参照ください。なお、ライブ・メモリーはメモリー・プロテクトの設定に関係なく動作します。



## プログラムを保存する

プログラム名やカテゴリを変更せずに保存する手順は次のとおりです：

- ① (STORE) ボタンを一回押します。すると、(STORE) ボタンと現在選択しているプログラムのプログラム・ボタンのインジケーターが点滅し、ディスプレイには「Store to X: X: X」(Xはそれぞれ現在選択しているバンク、ページ、プログラム・ナンバー)とプログラム名が表示されます。
- ② 次にこれから保存するプログラムのバンク、ページ、プログラム・ナンバーを選択します。選択にはバリュー・ダイヤルを使用します。この時、プログラムを5個のライブ・メモリーのうちひとつに保存することも可能です。保存先を選んでいる時は、選んだ保存先を音に出して確認できますのでキープしておきたかったプログラムを誤って上書きしてしまうことを防げます。

△ この時点で保存を中止したい場合は、(EXIT) ボタン(SHIFT)を押します。

- ③ 新しいプログラムの保存先が決まりましたら、(STORE) ボタンをもう一度押しして保存を確定させます。この時、ディスプレイに「Program Stored!」のメッセージが短い時間表示されます。

## プログラムに名前をつける

プログラムの名前やカテゴリを変えて保存する、いわゆる別名で保存する手順は次のとおりです：

- ① (SHIFT) ボタンを押しながら(STORE AS...) ボタンを一回押します。この時、(STORE) ボタンが点滅し、ディスプレイの上の行に「Name」と表示され、その右には現在のカテゴリ名が、下の行にはエディットしたプログラム名が表示されます。
- ② バリュー・ダイヤルを回してカテゴリを変更します。
- ③ (PAGE >) ボタンを押して新しいプログラム名の最初の文字の位置にカーソルを動かします。
- ④ 次の手順で新しい名前を入力します：

- 左右のカーソル移動は(PROGRAM PAGE) ボタンで行います。
- 文字の入力/変更はバリュー・ダイヤルで行います。使用できる文字はアルファベット(大文字、小文字)、数字、スペース、ハイフン(-)です。
- (SHIFT) ボタンを押しながら(INS) ボタン(PAGE >)を押すとカーソルの位置にブランクが入ります。
- (SHIFT) ボタンを押しながら(DEL) ボタン(PAGE <)を押すとカーソルの位置で文字を消去します。
- また、(KB ZONE 2) (KB ZONE 3) ボタンを押しながら入力する方法もあります。バリュー・ダイヤルで文字を選択し、(KB ZONE) ボタンを離すとカーソルが自動的にひとつ右へ移動します。

- ⑤ (STORE) ボタンをもう一度押し、通常の保存操作と同じ手順で新しい名前のプログラムが保存されます。

△ (STORE) ボタンをもう一度押す前に保存を中止したい場合は(EXIT) ボタン(SHIFT)を押します。

☀ プログラム名の変更(リネーム)やカテゴリの変更は Nord Sound Manager でも行えます。詳しくは52ページをご参照ください。

## カテゴリ

すべてのプログラムはカテゴリに分類されています。これは例えばオルガンの音色を探したいという時に便利です。カテゴリ名は右下の図のようにディスプレイの上の行に表示されます。



カテゴリは21種類あります。

カテゴリ		
Acoustic	FX	String
Bass	Grand	Synth
Clav	Harps	Upright
Arpeggio	Lead	Vocal
E Piano 1	Organ	Wind
Wurl (E Piano2)	Pad	User
Fantasy	Pluck	None

☀ カテゴリ・ソート・モードを使用して特定のカテゴリのみをディスプレイに表示させることもできます。詳しくは18ページをご覧ください。

## バリュー・ダイヤル

ディスプレイの右にあるバリュー・ダイヤルは、プログラムを選択したり、システム・パラメーターを設定したり、プログラム名の文字入力に使用します。



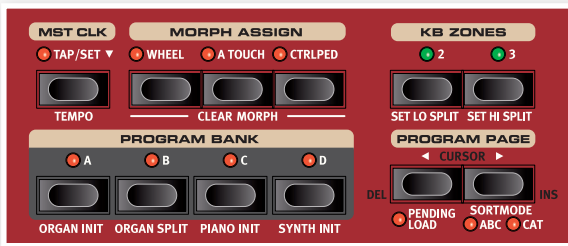
## MIDIインジケーター

MIDIインジケーターはMIDI端子から、またはUSBコネクタからMIDI信号を受信した場合(USB-MIDIがオンの場合)にLEDが光って表示します。

- ① MIDI信号を受信すると早い周期で点滅し、長い周期の点滅はNord Stage 2が実際に使用している(本機が受信して発音できるMIDIチャンネルの信号を受信した場合など)MIDI信号を表示します。

## プログラム・バンク・ボタン

{PROGRAM BANK}A~Dボタンを押してバンクを選択します。1バンクには20ページあり、1ページには5プログラムが入っています。



## オルガン、ピアノ、シンセ・イニシャライズ

これらのボタンは{SHIFT}ボタンと併用して現在選択しているプログラムを初期化する時に使用します。「初期化」とは、ひとつのインストゥルメントが音になり、すべてのエフェクトがそのインストゥルメントに接続され、他のインストゥルメントはすべてオフになることを指します。また、オンになったインストゥルメントのセッティングはそのプログラムに保存されているセッティングに戻ります。

☀ インストゥルメントがひとつもオンになっていないプログラムでも、すべてのセッティングはプログラムにメモリーされています。

## オルガン・スプリット

オルガン・スプリット・イニシャライズは、二段鍵盤のオルガンをシミュレートする際に使用します。本機の鍵盤のロワー・部分をスロットAが、アッパー・部分をスロットBがそれぞれ担当します。

## プログラム・ページ・ボタン

{PROGRAM PAGE <}、{PROGRAM PAGE >}ボタンは20あるプログラム・ページの選択に使用します。各ページには5個のプログラムがあり、各プログラム・バンクには20のページがあります。プログラム・ページ・ボタンを押すと、瞬時にそのページにあるプログラム・ナンバーをロードします。

## ペンディング・ロード

バンク・ボタンやプログラム・ページ・ボタン、あるいはバリュー・ダイアルで瞬時にプログラムが変わってほしくない場合は、ペンディング・ロードが有効です。{SHIFT}ボタンを押しながら{PROGRAM PAGE <}ボタンを押します。ペンディング・ロードがオンの場合、バンクやプログラム・ページ・ボタンやバリュー・ダイアルを操作すると、選択したバンクやページにあるプログラム名がディスプレイに表示されますが、各プログラムのセッティングはロードされません。またこの間、プログラム・ボタンのLEDが点滅し、ペンディング・ロードがオンになっていることを知らせます。ペンディング・ロードは、プログラム・ボタンを押してプログラムのセッティングがロードされると解除されます。

## ソート・モード

{SHIFT}ボタンを押しながら{PAGE >}ボタンを押すとカテゴリー・ソート・モードがオンになり、{SHIFT}ボタンを押しながらもう一度{PAGE >}ボタンを押すとアルファベット順のソート・モードになります。これらのモードで並び替えられたプログラムはバリュー・ダイアルで一覧できます。

カテゴリー・ソートではプログラムがカテゴリー別に表示されます。カテゴリーの変更は、ページ・ボタンのどちらかを押して行います。カテゴリー・リストは17ページをご参照ください。

アルファベット順のソートではプログラム名のABC順に表示されます。頭文字を変更する場合は、プログラム・ページ・ボタンのどちらかを押します。

- ① プログラム・バンク・ボタンやプログラム・ボタンはソート・モードとは関係なく使用できます。例えば、ABC順ソート・モードでBetty 1というプログラムを探したとします。そのプログラムはバンク2、ページ20、プログラム3だったとします。この時、{PROGRAM 4}ボタンを押すとプログラム名に関係なくバンク2、ページ20、プログラム4が選択できます。

## カーソル、デリート、インサート

{STORE AS...}を使った保存作業中に{PROGRAM PAGE}ボタンを押すとプログラム名のカーソル移動ができ、文字はバリュー・ダイアルで選択できます。

{SHIFT}ボタンを押しながら{DEL}や{INS}ボタンを押してプログラム名の文字のデリートやインサートが行えます。

## マスター・クロック

マスター・クロックを使用すると、アルペジエーターやシンセのLFO、ディレイやエフェクト1、2を同期させることができます。まったく同じ周期で同期させるだけでなく、それぞれ比例関係にある異なる周期で同期させることも可能です。これによりリズム的な効果を簡単に引き出せます。



{MST CLK}ボタンを4回タップするとテンポ入力が行えます。タップ入力が行わなかった場合、ディスプレイにはタップ入力がか回入力されたかが表示されます。

{SHIFT}ボタンを押しながら{MST CLK}ボタンを押してマスター・クロックのテンポを調整することができます。調整はバリュー・ダイアルで行います。{SHIFT}ボタンをもう一度押すと元のモードに戻ります。ここで設定したテンポはプログラムに保存されます。

また、マスター・クロック・テンポの設定は{TAP/SET}ボタンを押しながらでも行えます。

マスター・クロック・テンポが設定されると、そのテンポに対して比例関係にある様々なテンポ(サブディビジョン)で同期させることができます。マスター・クロックを変更してもこの関係を崩さずに同期できます。

サブディビジョンの詳細につきましては、各ユニット(LFO、アルペジオ、エフェクト)のページをご参照ください。

## モーフ・アサイン

モーフ機能は複数のパラメーターを1つの「ソース」でリアルタイム・コントロールできるパワフルな機能です。フットペダルでピアノとシンセ・サウンドの音量バランスをコントロールしたり、モジュレーション・ホイールでB3サウンドを劇的に変化させたり、アフタータッチでエフェクトを徐々に盛り上げさせたりすることを、同時に行えるのです。

プログラム・バンク・ボタンの上にある3つのモーフ・アサイン・ボタンがそれぞれのモーフ・ソースを表しています。

モーフ・アサインの設定は〔MORPH ASSIGN〕ボタンを押し、同時に変化させたいパラメーターを変化させたい方向に動かします。また、設定を行う前に変化させたいパラメーターの設定値をあらかじめ決めておくことが設定のコツです。



変化させるパラメーターの初期値(プログラムにメモリーされた設定値)を「ファースト・セッティング」(上図の左のダイヤル)とし、それからそのパラメーターを変化させた後のセッティング(セカンド・セッティング)に設定します。モーフ・ソースが最大値になった時点でセカンド・セッティングに達します。

※ 〔MORPH ASSIGN〕ボタンをダブルタップすると、ボタンを押し続けた状態になり、複数のパラメーターを設定する時間的余裕ができます。この状態はもう一度〔MORPH ASSIGN〕ボタンを押せば解除できます。

ひとつのモーフ・ソースで複数のパラメーターを同時にコントロールできます。また、パラメーターは数値が増える方向だけでなく、逆に減る方向にも設定できます。

※ モーフ機能は2つのスロットにまたがって動作します。

## モーフ・デスティネーション

ロータリー・エンコーダー(周囲にパラメーターの設定値を表示するLEDが付いているノブ)のパラメーターや、ロータリー・スピード、オルガン・ドローパーでモーフ機能を設定できます。同時にコントロールできるパラメーター数に制限はありません。

モーフ・ソースでコントロールできるパラメーターは次のとおりです：

- 個々のインストゥルメントのレベル
- シンセ・オシレーター・シェイプ
- シンセ・フィルターのフィルター・フリケンシー
- オルガン・セクションのドローパー
- 個々のエフェクトのレイト/テンポ
- 個々のエフェクトのアマウント(エフェクト量)
- エクスターナル・セクションのパラメーター・セッティング(詳しくは40ページをご参照ください)
- ロータリー・スピード(モジュレーション・ホイールでのみコントロール可能。スロー/ファストの切替ではなく、連続的にスピード・コントロールを行います。)

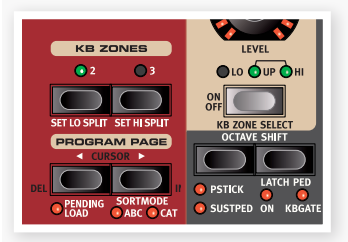
## モーフィングを消去する

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MORPH ASSIGN〕ボタンを押すとフォーカスされている(エディット可能状態の)スロットのモーフィングを消去できます。特定のモーフ・アサインのみを消去したい場合は、〔MORPH ASSIGN〕ボタンを押しながら消去したいパラメーターのモーフ・セッティング(セカンド・セッティング)が消えるようにノブを回します。

## KBゾーン

Nord Stage 2のキーボードは、ロー(LO)、アッパー(UP)、ハイ(HI)の最大3ゾーンにスプリットすることができます。どのインストゥルメント・セクションもどのゾーンに(あるいはすべてのゾーンに)アサインすることができます。

スプリットの設定はKBゾーン・ボタンで行います。スプリットをオンにし、〔SHIFT〕ボタンを押しながら各インストゥルメント(またはエクスターナル・セクション)のバリュー・ダイヤルの下にある〔KB ZONE SELECT〕ボタンでアサインしたいゾーンを設定します。



ゾーンを設定するとバリュー・ダイヤルの下にある緑のLEDでアサインしたゾーンを表示します。

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔KB2〕、〔KB3〕ボタンを押すとロー、アッパー、ハイの境界(スプリット・ポイント)を変更できます。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑のLEDで表示されます。

❶ KBゾーンの設定は両方のスロットに対して同時に有効となりますが、インストゥルメントのアサインはスロットごとに設定できます。

スプリットに関する詳細は20ページをご参照ください。

# 5 コモン機能

Nord Stage 2のインストールメントやエフェクト、エクスターナル・セクションで共通した機能をここで紹介します。

## インストールメント&エクスターナル・コントロール

Nord Stage 2には3種のインストールメント(オルガン、ピアノ、シンセサイザー)が内蔵されています。各インストールメントとも2パートのマルチティンパーです。つまり、各インストールメントごとに2つのサウンド・エンジンを搭載しているということです。これらの「エンジン」は内部的にA、B2つのスロットにそれぞれ接続されています。

- ① オルガン・セクションは他のインストールメントと少し異なり、実際には「エンジン」は1基ですが、それぞれ異なるローバー・セッティングを使用できる二段鍵盤に対応しています。

エクスターナル・セクションは外部MIDI機器をコントロールする時(あるいはシーケンサーなどにMIDIデータを送信する時)に使用します。スロットAとBとで異なるMIDIチャンネルで送信することができます。



## レベル・エンコーダー

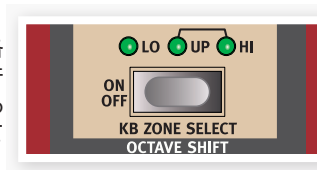
レベル・エンコーダーは各セクションのトップに配置され、各インストールメントの音量を調整できます。

インストールメントの音量はモーフ機能でリアルタイム・コントロールをすることも可能です。詳しくは18ページをご覧ください。また、エクスターナル・セクションのレベル・エンコーダーではMIDIデータを送信できます。



## オン/オフ・ボタン

オン/オフ・ボタンは各セクションや各インストールメントのオン/オフを行うボタンです。オンの時は対応するLEDが点灯し、緑のLEDで使用しているKBゾーンを表示します。また、KBゾーンへのアサインはシフト・ボタンを押しながら操作する以外に、このボタンをダブルタップすることでも行えます。



## KBゾーン・セレクト・ボタン

各インストールメントのキーボード・ゾーンへのアサインは、このボタンで行います。(SHIFT)ボタンを押しながらアサインしたいゾーンを選択します。

## スプリットを作成する

異なるインストールメントを鍵盤上の異なるエリアにアサインできるスプリット機能の設定は非常に簡単です。手順は次のとおりです：

- ① 2つのインストールメントのKBゾーンをそれぞれ設定します。設定が完了するとLED (LO/UP/HI) が点灯します。
- ② バリュー・ダイヤルの上にある[KB ZONES 2]ボタンを押します。これでキーボードがアッパーとローの2つのエリアに分割されます。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑のLEDで表示されます。
- ③ ロー側にインストールメントをアサインしましょう。まず[SHIFT]ボタンを押しながらアサインしたいインストールメントの[KB ZONE SELECT]ボタンを「LO」が点灯するまで押します。
- ④ 続いてもう一方のインストールメントをアッパーにアサインします。[SHIFT]ボタンを押しながらアッパーにアサインするインストールメントの[KB ZONE SELECT]ボタンをUP/HI両方のLEDが点灯するまで押します。

これで鍵盤上の2つのエリアにそれぞれインストールメントが配置されました。

[KB ZONE SELECT]ボタンをダブルタップして設定することも可能です。この方法は、[SHIFT]ボタンを使用することなく、片手で操作できるため便利な方法です。

[KB ZONES 3]ボタンを押すと3つのキーボード・ゾーンを使ったスプリットを作成できます。[SHIFT]ボタンを押しながらアサインしたいインストールメントの[KB ZONE SELECT]ボタンを(または[KB ZONE SELECT]ボタンをダブルタップ)押します。ゾーンは次のとおりです：

- LO/UP/HIのLEDがすべて点灯しているインストールメントはすべてのゾーン(ゾーン1~3)で音が出ます。
- LOのLEDのみが点灯している場合はゾーン1でのみ発音します。
- LO/UPのLEDが点灯している場合はゾーン1と2で発音します。
- UPのLEDのみが点灯している場合はゾーン2でのみ発音します。
- UP/HIのLEDが点灯している場合はゾーン2と3で発音します。
- HIのLEDのみが点灯している場合はゾーン3でのみ発音します。
- LEDがすべて消えている場合、そのインストールメントは本機のキーボードでは発音されず、外部MIDI機器からの信号により発音します(そのインストールメントが別のMIDIチャンネルに設定されている場合のみ)。この場合、本機のキーボードでは発音しませんが、音色エディットなどパネル上の操作は行えます。

## スプリット・ポイントの設定

ゾーン2と3のスプリット・ポイントの設定は、次の手順で行います：

- ・〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SET LO SPLIT〕ボタンを数回押しします。緑のスプリット・インジケーターが鍵盤上のスプリット可能な位置を移動します。スプリット・ポイントは各オクターブのCとFにあります。
- ・上記と同じ手順で〔SET HI SPLIT〕ボタンを数回押ししてゾーン3のスプリット・ポイントを設定します。

☀ 2つのゾーンでスプリットを設定する場合は、〔SET LO SPLIT〕ボタンでスプリット・ポイントを設定します。

❶ キーボード・ゾーン・スプリットはスロットA、Bの両方で共有します。

## レイヤーにする

2つまたは3つのインストゥルメントを同じキーボード・ゾーンにアサインすることを「レイヤーにする」といい、鍵盤を弾くと複数のインストゥルメントが同時に発音します。例えばピアノをアップパー・ゾーンとハイ・ゾーンにアサインし、オルガンをハイ・ゾーンにのみアサインするといったように、スプリットとレイヤーを併用することも可能です。2つのスロットを同時に使用するというレイヤーの方法もあります。

## オクターブ・シフト

〔OCTAVE SHIFT〕ボタンを使って、各インストゥルメントのピッチをオクターブ単位で変更できます。なお、変更は各インストゥルメントの発音範囲内で行えます。



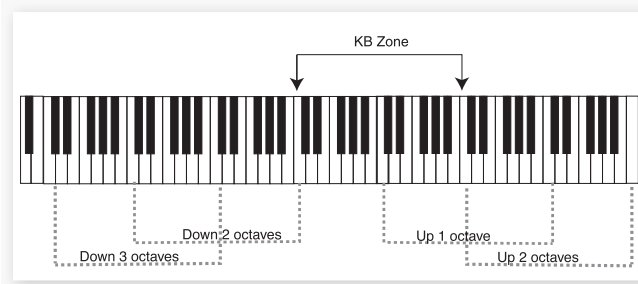
## ノート・レンジ

Nord Stage 2の各インストゥルメントには、それぞれ発音可能な範囲があります：

- ・オルガンは88鍵の最低音/最高音から上下1オクターブの範囲まで発音できます。
- ・ピアノは88鍵の最低音から1オクターブ下の範囲まで発音できます。
- ・シンセはオルガンと同様、88鍵の最低音/最高音から上下1オクターブの範囲まで発音できます。

各インストゥルメントとも、アサインされているキーボード・ゾーンに発音可能範囲を超えるピッチが含まれるようなトランスポーズを行うことはできません。また、インストゥルメントをキーボードの全域で発音させる場合は、最大で上下1オクターブまでのみトランスポーズを行えます。

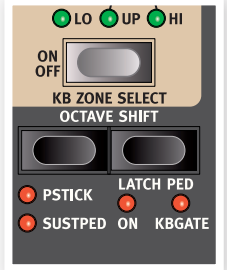
スプリットを使用していて、2オクターブのゾーンにピアノがアサインされている場合、そのピアノは上下にトランスポーズ可能ですが、そのゾーンがピアノの発音可能範囲に収まっている必要があります。逆に言えば、発音可能範囲に入っていれば、どんなゾーンの設定をしても発音できるということになります。



上図のように、C4～C6のキーボード・ゾーンにピアノをアサインしたとします。オクターブ・シフトを使用しない場合、ピアノはそのゾーンで実音で発音します。また、点線で表示したピッチもオクターブ・シフトを使って発音可能です。この例では2オクターブのゾーンではピアノを2オクターブにわたってトランスポーズすることができます。

## ピッチ・スティックとサスティン・ペダル

ピッチ・スティックとサスティン・ペダルに反応するかどうかは各インストゥルメントごと(またはエクスターナル・セクション)に設定できます。



〔SHIFT〕ボタンを押しながら、各インストゥルメントの左側の〔OCTAVE〕ボタンを押すと、そのインストゥルメントでサスティン・ペダルが使用できるようになります。この時、SUSTPED LEDが点灯します。再度〔OCTAVE〕ボタンを押すとピッチ・スティックが使用できる状態に切り替わり、もう一度押すと両方が使用可能になります。さらにもう一度押すと両方のLEDが消灯し、どちらにも反応しないようになります。

ピッチ・スティックのバンド・レンジは±2半音です。

ほとんどのファクトリー・プログラムでは、オルガンはピッチ・スティック、サスティン・ペダルのどちらにも反応しないように設定されています。ピアノはサスティン・ペダルのみ使用でき、シンセではほとんどのプログラムで両方が使用できるようになっています。但し例外的なプログラムもあります。また、この設定を変更してプログラムにメモリーしたい場合は忘れずに保存しておきましょう。

## ラッチ・ペダルとKBゲート

ラッチ・ペダル機能は、シンセのアルペジオのラッチ機能で、キーボードで押さえたコードや各ノートのサスティンをペダルでコントロールし、しかも他のインストゥルメントのサスティンに影響を及ぼさないという機能のことです。ラッチ機能は〔SHIFT〕ボタンを押しながら各インストゥルメントの右の〔OCTAVE〕〔LATCH PED〕ボタンを押してオンにします。この時ON LEDが点灯します。この機能は、ペダルを踏んだ時に弾いていた鍵盤にのみサスティンがかかるピアノのソステヌートとよく似ています。

Nord Triple Pedalを使用している場合、センターのペダルでラッチ・ペダル機能を使用できます。また、通常のサスティン・ペダルはローター/ラッチ・インプットに接続して使用することも可能です。ローター/ラッチ・インプットをすでにお使いで、新たにラッチ機能を使用する場合は、システム・メニューで設定を変更する必要があります。詳しくは43ページの「ローター/ラッチ・ペダル機能」をご参照ください。

KBゲート機能は、ラッチ・ペダルを踏んでいる間はインストゥルメントを発音させないようにする機能です。

これらの機能は同時に使用することが可能です。その時は両方のLEDが点灯します。

## アウトプット・ルーティング

Nord Stage 2には、4系統のオーディオ出力があります。各インストゥルメントのアウトプットをアウトプット1&2(デフォルト)または3&4(以上ステレオ)または3、4(モノ)へ自由にアサインできます。アウトプット・ルーティングはプログラムごとに設定できますが、すべてのプログラムに適用する(グローバル)ようにもできます。グローバル・セッティングはデフォルトの1&2になっています。グローバル・モードのデフォルト状態では、プログラムごとの設定を優先するようにメモリーされています。詳しくは42ページのシステム・メニューのCHAPTERをご参照ください。

## デュアル・スロット・セットアップ

〔SLOT A〕〔SLOT B〕の両方のボタンを押します。この時、両方のスロットLEDが点灯し、両スロットともオンになります。どちらかのスロットがフォーカスされている場合、そのスロットのエディットをパネル上で行えます。この時、フォーカスされているスロットのLEDが点滅します。スロットのフォーカスを切り替えるときは、そのスロット・ボタンを押します。

どちらかのスロットをオフにしたい場合は、残しておきたいほうのスロット・ボタンを押しながら、オフにしたいスロットのボタンを短く押します。

- ☼ 他方のスロットから現在オンになっているスロットへセッティングをコピーするには、コピー元のスロット・ボタンを押しながらバリュー・ダイヤルを回してコピー先のスロットを指定し、スロット・ボタンを放します。

両方のスロットをオンにすると1インストゥルメント・セクションにつき2つのサウンド、2つのエフェクト・セクションにアクセスできます。つまり、クラブネットとエレピ、あるいは2つのシンセというように2つのサウンドを同時に演奏することができます。

但し、オルガン・セクションについては少し事情が異なります。2つの完全に異なるサウンドではなく、オリジナルのB3や二段鍵盤のFarfisaやVoxのように、1つのオルガン・エンジンを二段鍵盤として使用できます。

## 外部キーボードを使う:デュアルKB

外部キーボードを使ってスロットBをコントロールするための手順は次のとおりです：

外部キーボードの送信MIDIチャンネルを設定し、同じチャンネルをNord Stage 2の「Dual KB」チャンネルに合わせます。設定はMIDIメニューで行います。詳しくは44ページをご参照ください。

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔DUAL KB〕ボタンを押します。すると、DUAL KBのインジケーターが点灯します。

Nord Stage 2の鍵盤はスロットAをコントロールし、外部キーボードはスロットBをコントロールします。この時、両方のパネルをアクティブにすることはできません。

この機能は、ライブなどのシチュエーションでNord Stage 2とセカンド・キーボードでNord Stage 2のサウンドを弾き分けたい場合に効果的です。デュアルKB機能をオンにすることにより、面倒なMIDIの設定などを省略してすぐに演奏することができます。また、この機能は本機のパネルから簡単にオンにすることができ、すぐにセカンド・キーボードを本機の「第2鍵盤」にすることができます。

もう1つのメリットは、どちらのスロットもエディット可能な点です。本機の鍵盤は常にスロットAを、外部キーボードは常にスロットBをコントロールします。例えば、本機の鍵盤でスロットAのサウンドを片手で弾きながら外部キーボードで演奏するスロットBのエディット（ドローバーなど）を同時に行えるのです。

- ❶ デュアルKBの設定は、スロットのセッティングとともにプログラムにメモリーされます。つまり、複雑なキーボードのセッティングもボタン1つで切り替えることができ、ライブにうってつけの機能です。

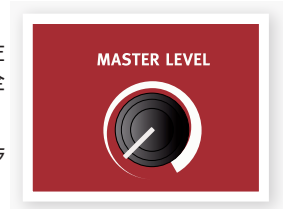
## さらに多くのキーボードを使用する

Nord Stage 2を2台以上のキーボードでコントロールしたい場合もあるかも知れません。例えば、2台の外部キーボードで本機のオルガンを演奏し、本機の鍵盤ではピアノを弾きたいという場合などが考えられます。本機の自由度の高いMIDI設定機能により、これも問題なく行えます。詳しくはMIDIチャプターをご参照ください。

## マスター・レベル

マスター・レベル・コントロールはパネルの左上部にあります。ここでNord Stage 2の全体音量とヘッドフォン出力を調節します。

- ❶ マスター・レベル・コントロールはプログラムにメモリーされません。



# 6 オルガン



Nord Stage 2のオルガン・セクションには、トーンホイールB3オルガン、Vox、Farfisaの2種類のトランジスター・オルガンを忠実に再現した3タイプのオルガン・モデルが内蔵されています。

オルガン・セクションには次の3つのメイン・エリアがあります：

- ベーシックなオルガン・サウンドを生み出すドローバー・セクション
- パーカッション・エフェクトをコントロールするパーカッション・エリア (B3オルガン・モデルのみ)
- ビブラート/コーラス・エリア (オルガン・モデルによって使用できるエフェクトや効果のかかり方が異なります)

ドローバー・ボタンを押している間に逆方向のボタンを押すこともできます。

Farfモデルでは、ドローバー・ボタンはレジスターのオン/オフ操作を行うスイッチとして動作します。

## オルガン・モデルを選択する

オルガン・モデルの選択は[ORGAN MODEL]ボタンで行います。なお、1プログラムにつき使用できるオルガン・モデルは1つのみです。

## ドローバー・ボタン

Nord Stage 2のドローバーは機械式ドローバーに代わり、ボタンとLEDバー・グラフを採用しました。これによる大きなメリットはプリセットやプログラムを切り替えたときに常に正しいセッティングを表示できる点にあります。また、ボタンでのドローバー操作も無理なく自然に行なえます。

本機のドローバーはオリジナル・オルガンの機械式ドローバーと同様、引き出して音が出て、押し込むと音が小さくなる方式を採用しています。

ドローバー・ボタンは押し続けると自動的に音量が増減するようになっていますので、何度も繰り返しボタンを押す必要がありません。

☀ ドローバーはモジュレーション・ホイールやコントロール・ペダルを使用して劇的に音色を変化させることができるモーフ機能でコントロールすることができます。

## B3モデル

B3モデルはクラシックなエレクトロメカニカル・トーンホイール・オルガンを忠実にデジタル・モデルで再現したものです。オリジナル・サウンドのあらゆるニュアンスを余すところなく忠実に再現できる革新的な技術を採用して実現したこのモデルには、次のような主な特長もあります：

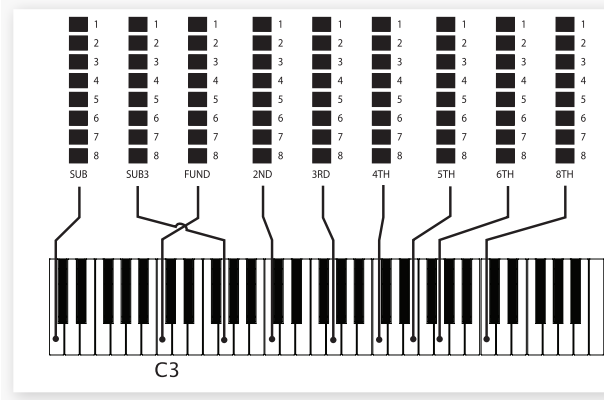
- オリジナルのコーラス、ビブラート・スキャナーを忠実に再現。
- ドローバー内部で不規則に発生するコンタクト・バウンスをモデリング。
- オルガン・サウンドの「ボディ」を構成するオリジナルの内蔵プリアンプのユニークな周波数特性を忠実に再現。
- トーンホイール回路で発生するエネルギー・ロスによるコンプレッション効果のシミュレーション
- オリジナル同様のトーンホイール・チューニングを採用。
- 驚異的に素早いキーボード・レスポンス。
- 全鍵ポリフォニック。

## B3ドローバー

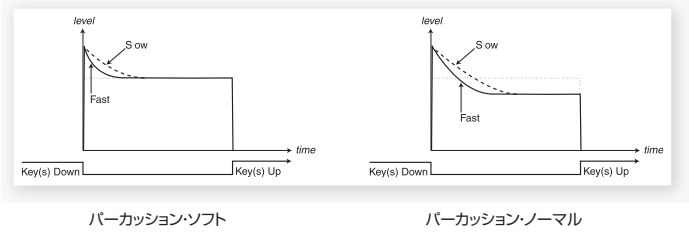
トーンホイール・オルガンの各ドローバーの倍音のインターバルは、ドローバーの下にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作法につきましては、前ページの「ドローバーボタン」をご覧ください。各ドローバーからは打鍵したピッチに対して一定の比率の倍音が発音されます。

下図はC3を打鍵した時に発音する9本のドローバーのピッチ・インターバルを示したものです。SUB3ドローバーは、実際にはFUND(ファンダメンタル: 基音)の5度上のピッチですが、多くの場合、聴感上は基音よりも低いピッチに聴き取られます。



〔VOLUME SOFT〕ボタンはパーカッションの音量をノーマルとソフトの切替を行います。また、〔DECAY FAST〕ボタンはパーカッションのディケイのスロー/ファスト切替を行います。



〔HARMONIC THIRD〕ボタンはパーカッション・エフェクトのソースとなる倍音を2ndまたは3rdから選択する時に使用します。

△ パーカッションはレイヤーやスプリットを使用していない場合は、スロットAまたはスロットBのどちらかで使用できます。なお、レイヤーやスプリットを使用している場合は、スロットBでのみ使用できます。

## キー・クリック・コントロール

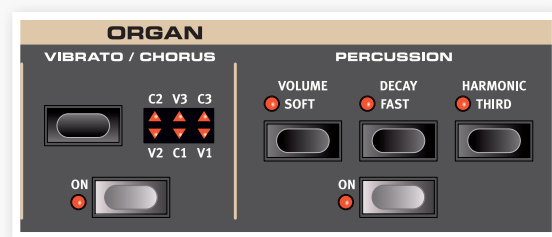
オリジナルのキー・クリックは鍵盤の接点でランダムに発生するコンタクト・バウンスによるもので、当初は設計ミスと捉えられていました。ところがこの設計ミスによるサウンドがミュージシャンの間で好評となり、今ではオルガン・サウンドに欠かせないファクターの1つになっています。キー・クリックのレベルはサウンド・メニューで設定できます。詳しくは44ページをご参照ください。

☆ B3モデルには3種のトーンホイール・モデルがあり、これらはサウンド・メニューで切り替えることができます。新品同様のクリーンなサウンドから長年使い古したサウンドまで、劇的にサウンドが変化しますのでぜひお試しください。

## ビブラート&コーラス

トーンホイール・オルガンに内蔵されたオリジナルのビブラート&コーラス・スキャナーは、モジュレーションがかかったディレイ・ラインと回転式スキャナーを組み合わせたものでした。ビブラート・エフェクトには、オーディオ信号にフェイズ・シフターが接続されていました。コーラス・エフェクトでは、フェイズ・モジュレーションされた音が原音にミックスされていました。

Nord Stage 2ではオリジナルと同様、3種のコーラス(C1~C3)と3種のビブラート(V1~V3)を使用できます。〔VIBRATO/CHORUS〕セレクトボタンでこのうちの1種を選択できます。このエフェクトは、スロットごとにオン/オフできます。



## オルガン・プリセット I & II

1プログラム内に2つのオルガン・プリセットをスロットごと、オルガン・モデルごとにメモリーできます。オルガン・プリセットは、プログラムやスロットを切り替えることなく、オルガン・サウンドをクイックに切り替えるためのものです。



プリセット I&IIの切替は〔PRESET II〕ボタンで行います。各プリセットにはドローバーのセッティング、ビブラート/コーラスのオン/オフがメモリーできます。

## パーカッション

パーカッションは、1基のエンベロープ・ジェネレーターで構成され、2ndまたは3rdの倍音を発音し、サウンドにさらなるアタックを追加できるエフェクトです。

エンベロープ・ジェネレーターは、打鍵時にわずかの瞬間だけ開きます。パーカッションはシングル・トリガーでノン・レガートのエフェクトですから、他に打鍵している音がない時でないとは発音しません。言い換えれば、単音やコードを弾いている時に、それらの音が完全にリリースしない間に別の鍵盤を打鍵(レガート奏法)しても、その音にはパーカッションがかからないということです。このため、すべての音にパーカッションをかけたい場合は、前の音を完全にリリースさせてから次の音を打鍵するノン・レガートで演奏する必要があります。



## Voxモデル

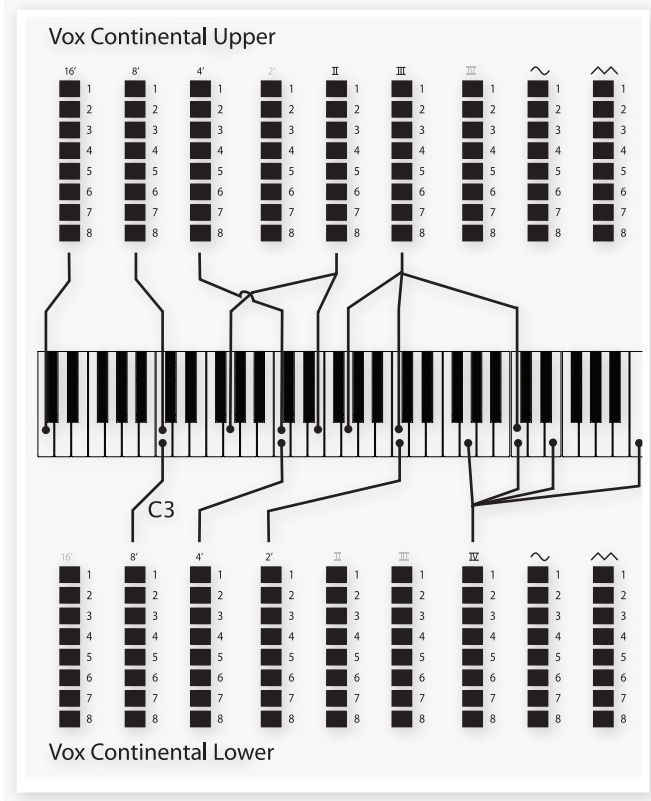
オリジナルのVox™オルガンは1960年代初期に出現したすべてのトランジスター式コンポ・オルガンの中で最も有名なオルガンと言えます。トランジスター技術の普及により、オルガンをコンパクトでポータブルな楽器として開発できるようになりました。トーンホイール式オルガンの分厚く力強いサウンドと比べて、トランジスター式オルガンのサウンドは一般的に耳につく線の細いものでしたが、一聴してすぐにそれと分かる特徴的なサウンドと高い可搬性、そしてクールなデザイン(リバースカラーのキーボードやクローム・フィニッシュの「Zフレーム」スタンドなど)で当時は絶大な人気を誇りました。そのサウンドはやがて時代を超えたクラシックなものとなり、Nord Stage 2で忠実に再現されました。

## Voxドローバー

Voxモデルの各ドローバーの名称は、ドローバーLEDの直上の行にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作方法につきましては、23ページの「ドローバー・ボタン」をご参照ください。

Voxモデルでは7本のドローバーで各倍音の音量をコントロールして音色を作ります。各倍音は打鍵したノートと一定比率のピッチになります。下図は、C3を打鍵した時の各ドローバーのインターバルを示したものです。図のとおり、アッパーとローワーでドローバーの構成が異なりますが、Nord Stage 2でもそれを忠実に再現しています。



アッパーとローワーの右端のドローバーは図のようなインターバルの倍音を1つにまとめたもので、フィルターを通したソフトでダークなサウンドと、フィルターを通さないブライトで耳につくサウンドの2種類があります。

△ 右端のドローバーが完全に押し込まれた状態(音量が0の状態)になると、Voxオルガンは音が全く出なくなります。

## ビブラート

Voxモデルにはいくつかのビブラートとコーラスがあり、ビブラート・セクションの〔ON〕ボタンでオン/オフを切り替えられます。ビブラートのV3セッティングはオリジナルを忠実に再現したものです。

Voxモデルのビブラートは上下鍵盤(スウェル/グレート)に共通してかかります。

## Farfモデル

Farfisaオルガンは、特徴的なブザーのようなサウンドから、これまで製造されたすべてのオルガンで最もそれと分かるサウンドのビンテージ・キーボードですが、実はサウンド・バリエーションが豊富な点もこのオルガンの大きな特徴なのです。Fluteはソフトな音、Oboeは耳につく音、Trumpetはブライトな音というように、各音色名はその楽器音をシミュレートしたものではなく、その端的な特長を楽器名に例えたものです。

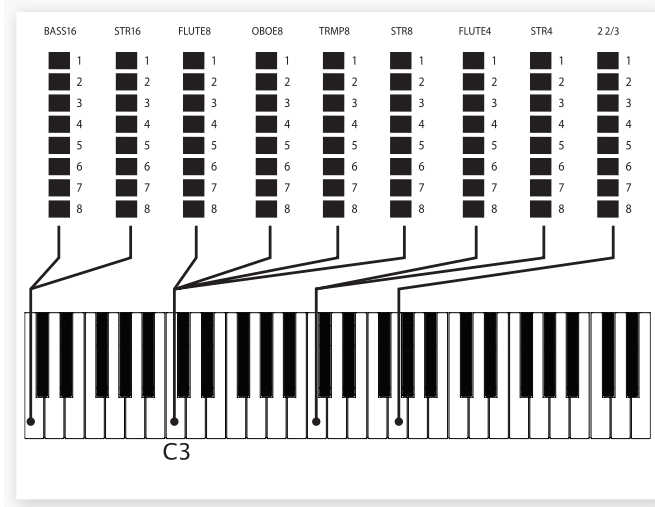
## Farfレジスター

Farfモデルの各ドローバー/レジスター名は、ドローバーLEDの上の1行目にプリントされています。

Farfモデルではドローバーはオン/オフ・スイッチ、または「レジスター・セレクター」として機能します。オリジナルのFarfisaオルガンでは、ドローバーではなく、インストゥルメント・ボイス(実際には異なるフィルター・セッティング)を切り替えるスイッチが装備されていました。このため、ドローバー・ボタンも各ボイスのオン/オフ・スイッチとして動作します。ドローバーLEDの5~8でオンになっているボイスを、1~4はオフになっているボイスをそれぞれ表示します。以下の表はオリジナルのレジスター名をまとめたものです。

レジスター・セレクター	ボイス	パネル上の表記
1	Bass 16	BASS16
2	Strings 16	STR16
3	Flute 8	FLUTE8
4	Oboe 8	OBOE8
5	Trumpet 8	TRMP8
6	Strings 8	STR8
7	Flute 4	FLUTE4
8	Strings 4	STR4
9	基音に対してオクターブと5度上のブライトな音	

下の図はC3を打鍵した時の各ボイスのピッチ・インターバルを示したものです。ピッチが同じボイスがありますが、音色のキャラクターはそれぞれ異なります。



## ビブラート

オリジナルのFarfisaオルガンのビブラートはそれぞれ周期の異なるライトとヘビーという2種類の基本的なビブラート・モードがありました。Farfモデルでも複数のタイプのビブラート、コーラスを内蔵し、ビブラート・セクションの〔ON〕ボタンでオン/オフできます。

V1、V2、V3の各セッティングはオリジナルを忠実に再現したものです。また、Farfモデルではビブラートは両方のスロットに共通してかかります。

## スウェル・コントロール

スウェルはエクスプレッション・ペダルでコントロールするオルガン特有の機能です。これは単なるボリューム・コントロールではなく、B3では特殊な方法を使用しており、音量とともに音色も微妙に変化しているのです。Nord Stage 2でスウェル・コントロールを使用する場合は、一般的なエクスプレッション・ペダルを本機リアパネルの〔ORGAN SWELL〕インプットに接続(58ページをご参照ください)し、ペダルの設定をシステム・メニューで行います(42ページをご覧ください)。

エクスプレッション・ペダルが1つしかない場合でも、システム・メニューでモーフ機能のコントローラーとスウェル・ペダル機能を切り替えて使用できます。詳しくは43ページをお読みください。

## ロータリー・スピーカー

ロータリー・スピーカーのコントロールはオルガン・セクションにあります。ロータリー・スピーカーおよびそのセッティングに関する詳細は、39ページのエフェクト・リファレンスをご参照ください。

# 7 ピアノ

## ピアノ・サウンド

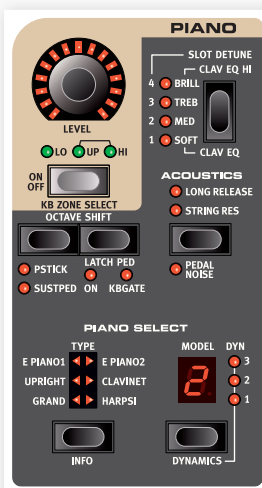
Nord Stage 2のピアノには6種類のタイプがあり、各タイプにはさらにいくつかのインストゥルメント・モデルがあります。ピアノ・インストゥルメントはNord Sound Managerを使用してUSB経由で自由に追加することができます(詳細は46ページの「Sound Manager」をご参照ください)。

工場出荷時の状態では、厳選されたアコースティック、エレクトリック・ピアノや、ハーブシコードなどの高品位サウンドが内蔵されています。これらのサウンドはサウンドそのもののみならず、それぞれの楽器ならではのあらゆるニュアンスも余すところなく収録すべく、膨大な時間を費やして作成されたものばかりです。各ピアノ・インストゥルメントは各音域を細かく、しかも数多くの強弱も含めて作成しました。そのため、あらゆるサウンドがナチュラルで弾き心地よいものばかりなのです。

すべてのピアノ・インストゥルメントはフラッシュ・メモリーに保存されていますので、Nordから無料で公開される新規インストゥルメントなどを自由に追加したり入れ替えたりすることが可能です。ピアノ・サンプルのメモリー容量は約500MBです。

❶ Nord Sound Managerから本機にピアノ・インストゥルメントを転送(ダウンロード)すると、そのインストゥルメントのタイプに応じたメモリー・ロケーションに自動的に保存されます。

ピアノ・インストゥルメントを使用するプログラムにはそのピアノ・インストゥルメントのタイプやモデル・ナンバーを識別するデータが入っています。そのため、本機にロードされていないピアノ・インストゥルメントを必要とするプログラムを選択すると、タイプ、モデルLEDが点滅し、ロードされていないモデル・ナンバーを表示します。この場合、同じタイプの別のモデルを選び直すか、またはNord Sound Managerを使用して必要なインストゥルメントを本機にロードしましょう。



## ピアノ・セレクト

### タイプ

{PIANO TYPE}セレクトターでピアノのタイプを選択します。

タイプ	内容
Grand	アコースティック&エレクトリック・グランド・ピアノ
Upright	アップライト・ピアノ
E Piano 1	エレクトリック・ピアノ(ティン)
E Piano 2	エレクトリック・ピアノ(リード)
Clavinet	クラビネット
Harpsi	ハーブシコード

❶ ピアノ・タイプはNord社社のHansという人が設定しましたので、別のピアノ・タイプに変更することはできません。

### インフォ

{SHIFT}ボタンを押しながら{TYPE/INFO}ボタンを押すと、その時選択していたピアノの名前や簡単な説明、バージョン・ナンバーがディスプレイに表示されます。

### モデル

各ピアノ・タイプには本機のメモリー内容に応じてそれぞれいくつかのピアノ・モデルが入っています。{MODEL}ボタンを押して、欲しいサウンドを選択します。この時、モデル・ナンバーがLEDディスプレイに表示され、モデル・ネームがLCDディスプレイの2行目に表示されます。

△ 不慮の事故などでフラッシュ・メモリーに保存されているデータに破損が起きた場合、本機の電源投入時にデータが破損されている旨のメッセージがLCDディスプレイに表示されます。また、そのデータを使用しているプログラムを選択するとタイプおよびモデルLEDが点滅します。{SHIFT/EXIT}ボタンを押して本機の使用を続けられますが、早めにNord Sound Managerを使用して破損したデータの消去とリロードをしてください。

### クラビネット

オリジナルのClavinet D6では、ロッカー・スイッチでピックアップの組み合わせを選択できました。Nord Stage 2でも{TYPE}ボタンでクラビネットを選択し、{MODEL}ボタンを押すことでこの機能を忠実に再現しています。

## ピックアップ・タイプ

Clav Model A	「ネック」側のピックアップを使用したソフトなサウンド
Clav Model B	「ブリッジ」側のピックアップを使用したブライトなサウンド。
Clav Model C	両方のピックアップを同位相で出力したパワフル・サウンド。
Clav Model D	両方のピックアップを使用し、位相を反転させ、基音成分がほとんど打ち消された線の細いサウンド。

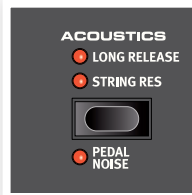
## ダイナミクス

{SHIFT} ボタンを押しながら {MODEL} ボタンを押すと、ダイナミクス・レスポンスを選択することができます。これでレスポンス・カーブを変更することができ、お好みのタッチで演奏することができます。

すべてのLEDが消灯している場合、デフォルトのカーブが使用されています。ダイナミクス・セッティング1はデフォルトと比べてややライトなタッチで最大ベロシティに達し、2ではよりライトなタッチで、3はもっともライトなレスポンス・カーブです。

## アコースティックス

アコースティックス機能によりストリング・レゾナンスやメカニカル・ノイズなど、ピアノ・サウンドをよりリアルに演奏することができます。



## ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、演奏しているピッチの基音や倍音成分にピアノの他の弦が共鳴する音響現象のことです。

この機能をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で起きている豊かで素晴らしい音響現象をすべての音域で再現します。

また、サスティン・ペダルを踏んでいくつかのノートを打鍵しても、ストリング・レゾナンスの音を聴き取れます。

- ① ストリング・レゾナンス機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。また、スモール (SmI) バージョンのグランド、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノはこの機能をサポートしていません。

## ロング・リリース

ロング・リリースをオンにすると、アコースティックまたはエレクトリック・ピアノのリリースがわずかに長くなります。これは、アコースティックやエレクトロメカニカル・インストゥルメントのダンパー・テンションを調整するのと同じ効果となります。また、リリースのかかり具合はノートごとにタッチの強弱に反応するようになっています。

- ① ロング・リリース機能はv5.3以降のピアノ・サウンドに対応しており、この機能に対応していないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。

## ペダル・ノイズ

ペダル・ノイズはNord Triple Pedal (別売オプション) を本機に接続した時に使用できる機能です。この機能をオンにすると、アコースティックやエレクトリック・ピアノのサスティン・ペダルから発生するメカニカル・ノイズを再現することができます。また、Nord Triple Pedalはダイナミック方式を採用していますので、サスティン・ペダルを踏む力具合でノイズの量を調節することができます。

- ① ペダル・ノイズ機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。

## Nord Triple Pedal

Nord Stage 2は3本ペダルを装備したNord Triple Pedal (別売オプション) に対応しています。このペダルを使用することにより、Nord Stage 2のパワフルな機能をさらに引き出すことが可能です。

- ① ペダル・ノイズ機能は、対応したピアノを選択した場合にのみ使用できます。

## ハーフ・ペダリング

Nord Triple Pedalでは、ハーフ・ペダリングに対応したピアノの選択時にハーフ・ペダリング・テクニックを使用することができます。

## ソステヌート

センターのペダルはソステヌート/ラッチ・ペダルです。このペダルを使用すると、その時打鍵していた音のみにサスティンがかかり、その他の音にはサスティンがかかりません。なお、この機能は{SHIFT} ボタンを押しながら右の{OCTAVE} ボタンを押してラッチ・ペダル機能をオンにすることで使用できます。オンにすると、{LATCH PED} LEDが点灯します。

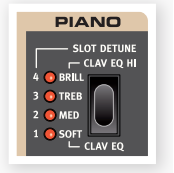
## ソフト・ペダル

左のペダルはソフト・ペダル、別名ウナ・コルダです。このペダルを踏むと、すべての音域で音量がわずかに下がると同時にわずかに丸みを帯びた音色になります。

## スロット・デチューン/Clav EQ

### Clav EQ

オリジナルのクラビネットでは、ピックアップ・セクター以外に4つのロッカー・スイッチがあり、内蔵EQをコントロールすることができました。これらのEQセッティングをNord Stage 2でも再現しました。{SLOT DETUNE/CLAV EQ} ボタンを押して、オリジナルと同様にBrilliant/Treble, Medium/Softのセッティングを選択できます。



- ① Medium/Softのセッティングは{SHIFT} ボタンを押しながら {SLOT DETUNE/CLAV EQ} ボタンを押すと選択できます。

### スロット・デチューン

スロットA、Bの両方を使ってレイヤーにしている場合、各スロットのチューニングをわずかにずらすデチューン機能を使用できます。なお、この機能はピアノ・サウンドでのみ使用できます。

# 8 シンセ



## はじめに

Nord Stage 2のシンセ・セクションは、オルガンやピアノ以外の様々なサウンドを簡単に作り出せるライブ向けシンセサイザーとして設計しました。コンパクトさと使いやすさを重視しながらも、突き刺さるようなリード、図太いベース、ゆらめくようなパッドやキラキラとしたベル系など、あらゆるタイプのシンセ・サウンドを作り出せます。このチャプターではシンセ・セクションのすべてのパラメーターをご紹介します。

このシンセ・セクションは、忠実にモデリングされたアナログ・スタイルの波形を基本とした減算合成(サブトラクティブ:倍音を豊富に含んだオシレーター波形をフィルターで加工する)タイプのシンセサイザーですが、FM(周波数変調)やウェーブテーブル・シンセシスや、サンプル波形もオシレーター波形に使用できます。Nord Sample Libraryの膨大なストックをサンプルとして利用できるほか、ユーザー自身のオリジナルサンプルもNord Sample Editorを使用することにより作成できます。

サブトラクティブ・シンセシスでは、倍音を豊富に含んだブライトなオシレーター波形を出発点とし、フィルターで倍音を削り取ることで音色を作り出します。また、発音中にフィルターのカットオフ・フリクエンシーをモジュレーションさせることにより、ダイナミックな音色変化を生み出します。

シンセ・セクションには、パルス・ウィズス・モジュレーションやオシレーター・シンク、FMアマウントのコントロールなど、ダイナミックでリッチなサウンドを生み出す様々なパラメーターを内蔵しています。また、リアルタイムの音色変化に欠かせないエンベロープを2基、LFOを1基搭載しました。

シンセ・セクションの最大同時発音数は18ボイスで、これを各スロットにダイナミック・アロケーション(必要なボイス数を互いに融通しあう)方式でシェアします。2つのスロットを同時に使用すれば、2つの異なる音色をレイヤーにしたり、スプリットにすることができます。これにより極めて複雑なシンセ・サウンドを作り出すことも可能です。

## オシレーター

設計に多大な時間を費やし、パワフルで多様なサウンドを生み出すオシレーター・セクションには、アナログ、FM(周波数変調)、デジタル・ウェーブテーブル、サンプル・プレイバックという4種のアーキテクチャーを装備しています。各アーキテクチャーはそれぞれに特化したアルゴリズムを内蔵し、(SHAPE)ノブでコントロールすることができます。

例えば、アナログ・カテゴリーには様々な波形(ハード・シンクの有無を含む)が内蔵され、(SHAPE)ノブでパルス・ウィズス・モジュレーションやシンク・オシレーターのピッチなど、それぞれの波形に特化した音色変化が得られます。この(SHAPE)パラメーターはLFOやモジュレーション・エンベロープでコントロールし、ダイナミックなサウンドを作り出すことも可能です。また、(SHAPE)パラメーターはモーフ機能でコントロールすることもできます。

さらに、このオシレーター・セクションには各ボイスにつき複数のエクストラ・オシレーターを内蔵した波形もあり、これらはユニゾン・パラメーター(35ページをご参照ください)で使用することができます。これらのパーティクル・オシレーターは発音数を消費することなく分厚いサウンドを作り出すことができます。

## シェイプ

シェイプ・コントロールは、各波形やアルゴリズムによりそれぞれ異なる方式でオシレーター波形のサウンドを様々なに変化させることができるパラメーターです。モジュレーション・エンベロープやLFOによるコントロールに加えて、モーフ機能を使ってモジュレーション・ホイールやアフタータッチ、エクスペッション・ペダルでリアルタイムにコントロールすることができます。

① ウェーブテーブル・セクションでは(SHAPE)ノブは使用しません。



## シェイプ・モジュレーション

{SHAPE MOD}ノブはシェイプ・パラメーターによるモジュレーション量を調整するノブです。シェイプ・パラメーターはモジュレーション・エンベロープやLFOでモジュレーションすることができます。

## ウェーブフォーム・セレクター・ボタン

{WAVEFORM}セレクター・ボタンでオシレーターのカテゴリーを選択し、LEDディスプレイの下にあるセレクター・ダイヤルで波形やアルゴリズムを選択します。

## アナログ波形

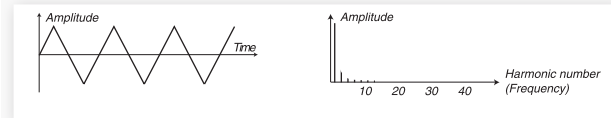
アナログ波形には三角波、ノコギリ波、パルス波があり、それぞれにセレクター・ダイヤルで選択できる4種のバリエーション波形があります。概略を下の表にまとめました。

表示	波形	内容
---	通常の三角波、ノコギリ波、パルス波	無加工の波形です。
ShP	シェイプで変化する波形	三角波：シェイプ・コントロールで倍音が増えます。 ノコギリ波：シェイプ・コントロールにより位相が最大180°変化するノコギリ波が追加され、最大値ではピッチが1オクターブ変化したようなサウンドになります。 パルス波：シェイプ・コントロールでパルス幅を調整します。
dtn	デチューン可能なデュアル波形	2つの波形のピッチをシェイプ・ノブで±1オクターブの範囲で調整できます。
Snc	シンク波形	ハード・シンク用のセカンド・オシレーターのピッチを調整できます。

波形を変更すると、その名前がLCDディスプレイに短時間表示されます。

## 三角波

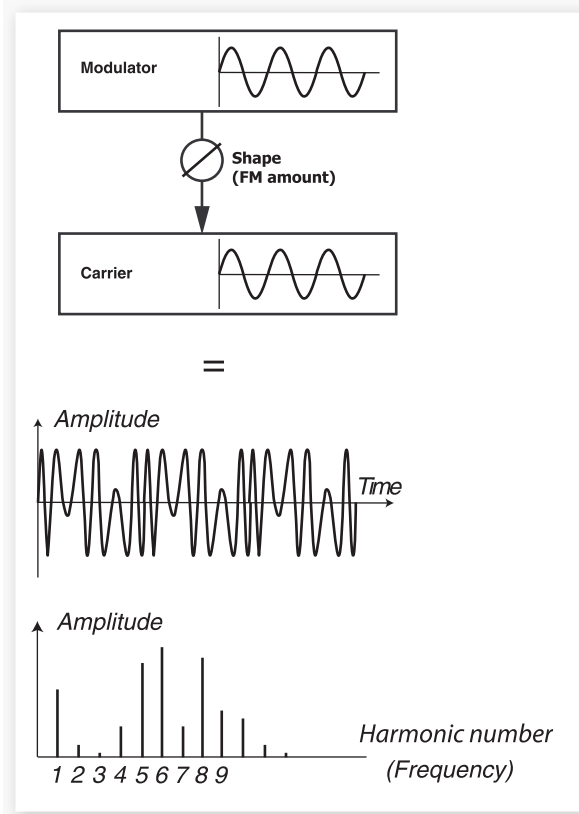
三角波は、奇数次倍音のみをわずかに含んだ波形です。



☞ オシレーター・シンクを使用する時は、(SHAPE)や(SHAPE MOD)をモーフ・アサインやモジュレーション・エンベロープでコントロールすると倍音構成に連続的な変化が起こり、効果的です。

## フリケンシー・モジュレーション

フリケンシー・モジュレーション(FM: 周波数変調)、あるオシレーター(モジュレーター)が別のオシレーター(キャリア)の周波数を変調(モジュレート)することが基本的な考え方です。キャリアはさらに別のオシレーターをモジュレートすることもあります。Nord Stage 2のFMシンセシスでは、最高3つまでのオシレーター(オペレーター)を直列に配置し、モジュレーターの一部にフィードバックを備えたものも含め、様々なFM アルゴリズムを内蔵しています。



上の図は2個のオペレーターによるFMシンセシスの概念図で、深くFM変調した結果の波形を示したものです。

変調後の波形はオペレーター自身のサイン波と比べてはるかに多くの倍音を含み、変調の深さによってサウンド・キャラクターも大きく変化します。

FMシンセシスには、オシレーターの数やフィードバックの有無、各オシレーターの周波数比が異なる多くのFMアルゴリズムを内蔵しています。

- FMアルゴリズムの選択は、ウェーブフォーム・ダイヤルで行います。
- (SHAPE)パラメーターでモジュレーション量やフィードバック量を調整できます。

FMアルゴリズムは1オシレーター、2オシレーター、3オシレーターの基本タイプがあり、それぞれにフィードバックを備えています。デフォルト状態ではフィードバックはオフになっています。

(SHAPE)ノブでFMアmount(変調の深さ)とフィードバック量をコントロールします。ノブを回すとすべてのモジュレーター出力が同時に上がります。FMアmountが増加する(変調が深くなる)につれ、倍音の量も多くなります。(SHAPE)パラメーターをモジュレーション・エンベロープやLFOでコントロールすると音色が連続的に変化します。また、モーフ機能を使ってモジュレーション・ホイールやアフタータッチ、ペダルでコントロールすることも可能です。

各アルゴリズムはそれぞれ固定の周波数比になっています。必要に応じてこれらのアルゴリズムを選択して使用します。アルゴリズムを選択すると、そのアルゴリズムのオペレーター数や周波数比、フィードバックの有無などがLCDディスプレイに表示されます。LEDディスプレイには周波数比が表示され、フィードバックがあるアルゴリズムにはドットが付きます。下の表はすべてのアルゴリズムの周波数比やフィードバックの有無などをまとめたものです。

## FMアルゴリズム

LED	LCD	内容 (FB= フィードバック)	
	Sin	1-OP (+FB)	キャリアのみ FB 付き
1 1	2-OP 1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=1:1	
2 1	2-OP 2:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=2:1	
3 1	2-OP 3:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=3:1	
4 1	2-OP 4:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=4:1	
5 1	2-OP 5:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=5:1	
6 1	2-OP 6:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=6:1	
7 1	2-OP 7:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=7:1	
8 1	2-OP 8:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=8:1	
9 1	2-OP 9:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=9:1	
1.1	2-OP 1:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:1	
2.1	2-OP 2:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=2:1	
3.1	2-OP 3:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=3:1	
4.1	2-OP 4:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=4:1	
5.1	2-OP 5:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=5:1	
6.1	2-OP 6:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=6:1	
7.1	2-OP 7:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=7:1	
8.1	2-OP 8:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=8:1	
9.1	2-OP 9:1 (+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=9:1	
1 1 1	3-OP 1:1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=1:1:1	
2 1 1	3-OP 2:1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=2:1:1	
3 1 1	3-OP 3:1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=3:1:1	
5 1 1	3-OP 5:1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=5:1:1	
9 1 1	3-OP 9:1:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=9:1:1	
2 2 1	3-OP 2:2:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=2:2:1	
4 2 1	3-OP 4:2:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=4:2:1	
8 2 1	3-OP 8:2:1	キャリア+モジュレータ 周波数比=8:2:1	
1.1 1	3-OP 1:1:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:1:1	
1.2 1	3-OP 1:2:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:2:1	
1.3 1	3-OP 1:3:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:3:1	
1.5 1	3-OP 1:5:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:5:1	
1.9 1	3-OP 1:9:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:9:1	
1.F2	3-OP 1:1:2(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=1:1:2	
2.F2	3-OP 2:1:1(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=2:1:2	
3.F2	3-OP 3:1:2(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=3:1:2	
5.F2	3-OP 5:1:2(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=5:1:2	
9.F2	3-OP 9:1:2(+FB)	キャリア+モジュレータ+ FB 周波数比=9:1:2	

☞ ヒント! 1オペレーター・アルゴリズムで、(SHAPE)ノブを0にすると純粋なサイン波になります。

## ウェーブテーブル

このカテゴリには62種類の様々な特徴のデジタル波形が内蔵されています。これらの波形は他のカテゴリでは得られないようなサウンド・キャラクターで、リッチで興味深いサウンドの波形を厳選しました。また、波形の作成には、鍵盤上の全域で使用しやすいように先進的なウェーブテーブル・シンセシス技術を採用しました。

デジタル波形の中にはスペクトラム上複数のピークを備えたボイスのようなサウンド作りに適したもの(3, 7, 8, 12)や、複数のスペクトラムをオーバーラップさせたもの(5, 6, 18, 19)などもあります。他にも倍音成分を非常に多く含むつつ、基音成分が希薄なもの(21, 23, 26, 27)などもあります。これらの波形を使用して、異なるフィルター・セッティングにするだけでも、かなり豊富なサウンド・バラエティーを得られます。

- ① デジタル・ウェーブテーブル・カテゴリを選択した時は、(SHAPE)ノブは使用しません。

## サンプル

サンプル・カテゴリではNord Sample Libraryからのサンプルをオシレーター・の波形として使用することができ、後段のフィルターなどで加工することができます。これにより、Nord Stage 2のシンセ・セクションは非常に幅広いサウンドを得ることができます。Nord Sample Editorを使用すればユーザー自身によるオリジナル・サンプルを本機にロードさせることも可能です。

Nord Stage 2のサンプル・メモリーは最大で約384MBのNord Sample Libraryフォーマットのファイルをメモリーできます。また、各サンプル・ファイルは自由に入れ替えることができます。なお、工場出荷時の状態でも非常に多くのサンプル・ファイルが内蔵されていますが、本機に付属のDVD-ROMやNord ウェブサイト(www.nordkeyboards.com)にはさらに膨大なサンプルがあります。

サンプルの選択は(WAVEFORM)ダイヤルで行います。

## スキップ・サンプル・アタック

サンプル使用時は、(SHAPE)コントロールでスキップ・サンプル・アタック機能が使えます。この機能をオンにすると、サンプルの再生開始ポイントが波形の先頭ではない別のスタート・ポイントから再生され、サンプル波形のアタック部分の大部分が、すべてをバイパスさせることができます。

## ロード・サウンド

シンセ・セクションで作ったサウンドをプログラムとして保存すると、当然ながら他のセクションのセッティングも含めて1つのプログラムとして保存されます。ところが、シンセ・セクションだけはプログラムとは関係なくシンセ・サウンドだけを独自に保存したり、呼び出したりすることができます。この方法で、お気に入りのシンセ・サウンド・ライブラリーを構築していつでも必要なときにアクセスすることができます。

### シンセ・サウンドを選択する

Nord Stage 2には300個のシンセ・サウンド/パッチ専用のメモリー・ロケーションがあります。シンセ・サウンドの選択は、(SHIFT)ボタンを押しながら(WAVEFORM)ボタンを押し、(WAVEFORM)セレクター・ダイヤルを回すと行えます。各シンセ・サウンド名はLCDディスプレイに表示され、同時に本機で演奏できる状態になります。

## フィルター・セクション

フィルターは音色のキャラクターを決定づける最も重要なコンポーネントのひとつです。オシレーターによって生み出された倍音構成をフィルターで加工し、同時にフィルターは様々な機能で変調させることができます。Nord Stage 2では、クラシカルなシンセサイザー・フィルターの様々な特徴を受け継いだ設計を採用しました。

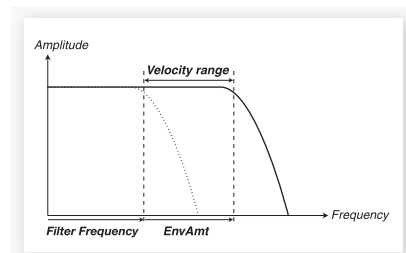
Nord Stage 2には複数のフィルター・タイプがありますが、基本的なパラメーターは共通しています。(FREQUENCY)はカットオフ・フリケンシーを、(RESONANCE)はレゾナンスをそれぞれコントロールします。



### フィルター・ボタン

フィルター・タイプの選択は(FILTER)ボタンを押して行います。Nord Stage 2に搭載されたフィルターを1つずつご紹介します：

## ローパス - LP 24 & LP 12



カットオフ・フリケンシーよりも高域の成分は弱められ、低域成分はそのまま通過します。

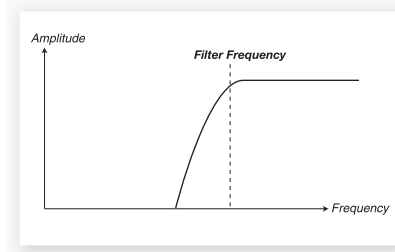
LP12(12dB/oct)のフィルターは24dBのフィルターよりも多くの高域成分を残す特性があります。このタイプのフィルターは初期のOberheimシンセサイザーで採用されていました。また、12dBフィルターは2ポール・フィルターとも呼ばれています。

LP24はクラシックないわゆる「シンセ・フィルター」で、MinimoogやProphet-5などに採用されたタイプのフィルターです。このタイプのフィルターは24dB/octのスロープにより、12dBフィルターよりも急激に高域成分をカットします。別名、4ポール・フィルターとも呼ばれています。

- これらのLPフィルターでは、カットオフ・フリケンシー周辺の帯域を強調するレゾナンスを使用できます。レゾナンスを上げるとサウンドは少し細くなります。

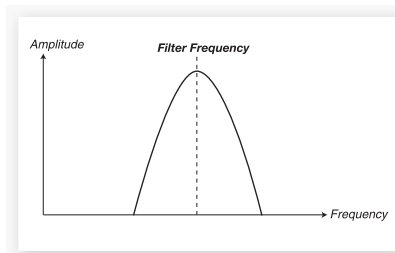


## ハイパス - HP



HP では、フィルター・フリケンシーより低域が弱められ、高域はそのまま通過します。

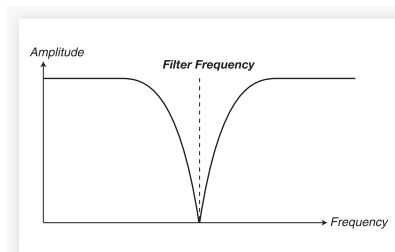
## バンドパス- BP



バンドパス・フィルターは、フィルター・フリケンシー周辺の信号を通し、フィルター・フリケンシーよりも高域、低域を弱めます。

- ・レゾナンスは通過させる帯域の幅を調整します。

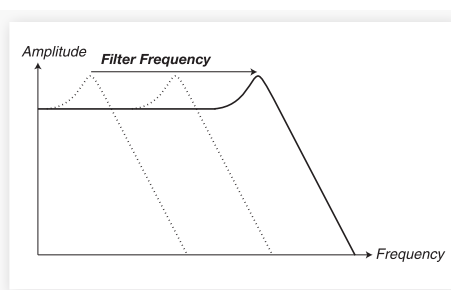
## ノッチ



ノッチ・フィルターは、バンドパス・フィルターとちょうど反対の動作、つまりフィルター・フリケンシー周辺の帯域をカットし、その他の帯域を通過させます。

- ・レゾナンスはノッチ・フィルターがカットする帯域の幅を調整します。

## フィルター・フリケンシー



フィルター・フリケンシーでカットオフ・フリケンシー、つまりフィルターがカットし始める周波数を設定します。このパラメーターはモーフ機能でコントロールすることができます。

上の図はローパス・フィルターにおける3つの異なるフィルター・フリケンシーのようすをイラストにしたものです。図の左からスロープまでの範囲が、フィルターから通過できる帯域となります。スロープから右の帯域はフィルターによって弱められます。このスロープが左へ行くほどサウンドはソフトになります。スロープの頂点にある「こぶ」はレゾナンスで作られます。以上、理科の時間でした。

## KBトラック

音響の基本をおさらいをしましょう。オシレーター波形のピッチが上がると、その波形の倍音も一緒に上がります。それをフリケンシー固定のフィルターに通した場合、ピッチが上がるにつれてこもった音になってしまいます。この現象を解消するのが、KBトラックの役割です。

KBトラックがオフの場合、フィルター・フリケンシーの設定は演奏する音程に関わらず常に一定です。オンの場合、演奏する音程に応じてフリケンシーが移動します。

## レゾナンス

レゾナンスは、フィルターの特性をさらに細かく調整するパラメーターです。レゾナンスが上がるとカットオフ・フリケンシー周辺の帯域が強調され、サウンド全体は徐々に線が細くなります。さらに上げると、カットオフ・フリケンシー周辺の帯域で起きていた共鳴現象が一層強くなり発振を始めます。つまり、もうひとつの音がフィルターから発生するので、この発振しているピッチは、フィルター・フリケンシーの設定で変化します。



## フリケンシー・モジュレーション1 - LFO

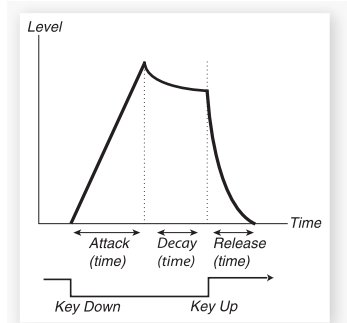
フィルター・フリケンシーはロー・フリケンシー・オシレーター、つまりLFOでコントロールすることができます。モジュレーション量は(FREQ MOD 1)ノブで設定できます。

## フリケンシー・モジュレーション2

(FREQ MOD 2)ノブは2種類のモジュレーション量をコントロールします。ノブを時計の12時の位置から右に回すとモジュレーション・エンベロープによるモジュレーション量の調整、逆に左へ回すとベロシティでフィルター・フリケンシーを変化させるモジュレーション量を設定できます。

## エンベロープ

エンベロープは「音のかたち」、つまり打鍵してから音が鳴り終わるまでの時間的変化を作り出します。



## モジュレーション・エンベロープ

モジュレーション・エンベロープは3ステージ・タイプのエンベロープで、音色の時間的変化を作り出す場合に使用します。例えば、フィルター・フリケンシーに使用した場合、ブライツなアタックを作り出したりします。モジュレーション・エンベロープの各ステージは次のとおりです：

### アタック

アタックは打鍵してからエンベロープが最大値に達するまでの時間を設定します。(ATTACK)ノブを時計回りに回すとアタック・タイムが長くなります。



## ディケイ

鍵盤が押されている状態が続き、アタックの段階を終了すると、エンベローブはゼロレベルに向かって降下します。この時間を〔DECAY〕ノブで調整します。ディケイ・タイムが最大の場合、鍵盤から手が離れるまでエンベローブは最大値をキープし続けます。

## リリース

鍵盤から手が離れると、エンベローブはリリースの段階に入ります。このリリースにかかる時間を〔RELEASE〕ノブで設定します。

## アンプ・エンベローブ

アンプは、オシレーターからスタートした信号の最終段階にあり、ここで音量をコントロールします。アンプをエンベローブでモジュレーションさせると、サウンドが鳴り始めてから消えるまでの時間的な変化を作り出すことができます。この音量の時間的な変化は、私たちが音を聴き分ける際に非常に重要としているファクターの一つです。この設定次第でサウンドは「ソフトな音」、「ハードな音」、「短い音」、「伸びのある音」などになります。

アンプ・エンベローブも、モジュレーション・エンベローブと同様、3ステージ構成です。



## アタック

〔ATTACK〕ノブで打鍵時に音量がゼロから最大値になるまでの時間を設定します。アタックの設定値が高い場合、サウンドの音量は徐々に上がる「フェイドイン」の状態になります。

## ディケイ

鍵盤が押されている状態が続き、アタックの段階を終了すると、エンベローブはゼロレベルに向かって降下します。この時間を〔DECAY〕ノブで調整します。ディケイ・タイムが最大の場合、鍵盤から手が離れるまでエンベローブは最大値をキープし続けます。

## リリース

鍵盤から手が離れると、エンベローブはリリースの段階に入ります。このリリースにかかる時間を〔RELEASE〕ノブで設定します。

## LFO

LFOはLow Frequency Oscillator(ロー・フリクエンシー・オシレーター)の略で、次のような特徴の波形を出力します：

- LFOは一般的に非常に低い周波数の波形を出力します。
- LFOは一般的に可聴帯域の周波数を使用せず、Nord Stage 2のオシレーターにある〔SHAPE〕パラメーターやフィルター・フリクエンシーのモジュレーションといった、シンセサイザーの他の機能のモジュレーションに使用します。

LFOの周期(周波数)は〔RATE〕ノブで設定します。レンジは0.03Hz～523Hzです。

〔WAVE SELECTOR〕ボタンでLFOの波形を選択します。



波形	内容
	<b>矩形波(LED消灯時)</b> ぶつ切りのような変化、例えばトリルやハッキリとしたトレモロなどに使用します。
	<b>ノコギリ波</b> 傾斜のあるモジュレーションに使用します。
	<b>三角波</b> ナチュラルなビブラートやアナログ・シンセのパルス・ウィズス・モジュレーションなどに使用します。
S/H	<b>サンプル&amp;ホールド</b> ランダムなモジュレーションを生み出します。

## マスター・クロック

〔SHIFT〕ボタンを押しながらLFOの〔WAVEFORM〕ボタンを押すとLFOの周期がNord Stage 2のマスター・クロックと同期します。

LFOがマスター・クロックと同期している場合、〔RATE〕ノブではマスター・クロックのテンポに対する相対的な比率(サブディビジョン)をコントロールします。1/2はクロックのテンポに対する2分音符、1/4は4分音符、1/8は8分音符というようになります。マスター・クロック機能に関する詳細は18ページをご参照ください。

## ベロシティ

### アンプ・エンベローブ・ベロシティ

〔AMP ENV VELOCITY〕LEDの点灯時は、キーボード・ベロシティでシンセ・サウンドの音量をコントロールできます。



### モジュレーション・エンベローブ・ベロシティ

〔MOD ENV VELOCITY〕LEDが点灯しているときは、モジュレーション・エンベローブの出力レベルをキーボード・ベロシティでコントロールできます。鍵盤を強く弾くほどモジュレーション・エンベローブでコントロールしているパラメーターの変化が大きくなります。

## ボイス・セクション

このセクションで、シンセ・セクションの様々なボイス・モードを設定できます。モノフォニックやポリフォニック、グライド(ポルタメント)の設定や、パワフルなユニゾン・モードも使用できます。



### ボイス・モード:モノ

モノ・モードでは単音のみを発音し、ちょうど昔のモノフォニック・シンセと同じようになります。打鍵中に別の鍵盤を弾くと、後に弾いたほうのピッチに替わります。この時、後に弾いた方の鍵盤から手を離すと最初に弾いた音がリトリガーされます。

モノ・モードをオンにすると、セレクター・ボタンにある〔MONO〕LEDが点灯します。

## ボイス・モード:レガート

レガート・モードもモノ・モードと同様、単音のモードです。モノ・モードとの違いは、最初に打鍵した手を離さないうちに別の鍵盤を弾く(レガート奏法)と、次の音のピッチに移りますが、エンベロープは前の音のものを途中の段階のまま使い、エンベロープは新たにトリガーしません。

但し、打鍵した手を離してから次の鍵盤を弾いた(ノンレガート)場合は、次の音はエンベロープの先頭から発音します。

## グライド

[GLIDE]ノブがゼロ以外の位置にある場合、グライド機能がオンになります。グライド機能とは、最初に弾いたピッチと次に弾いたピッチとの間を滑らかにつなぐ機能で、ポルタメントとも呼ばれています。グライド機能はレガートおよびモノ・モードでのみ使用できます。グライドのかけ方は一定の比率でピッチが変化する、いわゆる「コンスタント・レイト」を採用していますので、最初に弾いたピッチと次に弾いたピッチの間隔が広い場合は、次に弾いたピッチに達するまでに時間がかかります。グライドの深さは[GLIDE]ノブで設定します。

レガート・モードがオンの場合、グライドはレガート奏法をした時のみかかりますので、グライドをかけたい場合とかけない場合とを弾き分けることができます。

## ユニゾン

Nord Stage 2のシンセ・オシレーターには、いくつかの「隠れた」オシレーターが内蔵されています。その数はアルゴリズムによって異なりますが、多くの場合2基から4基の間です。ユニゾン機能をオンにすると、それぞれわずかにデチューンされたサウンドが元のサウンドに足され、非常に分厚いクラシックなシンセ・サウンドになります。なお、このユニゾン機能は発音数を減らすことなく使用できるのです!



ユニゾン用オシレーターの数およびデチューン量は、ユニゾン・セレクター・ボタンで切り替えられます。

セッティング1、2、3はクラシックなデュアル・オシレーター・デチューン効果が得られ、数字が大きくなるほどデチューンが深くなります。

MULTI1、2、3のセッティングでは複数のボイスによるデチューン効果となり、非常にパワフルなサウンドになります。

## ビブラート

ビブラートは、オシレーター・ピッチをモジュレートしてナチュラルなビブラートをかけることができます。



このビブラートには3種の方法があり、ビブラート・セクションのセレクター・ボタンで切り替えることができます:

アフタータッチ(A T)が選択されている場合、アフタータッチでビブラートをかけることができます。

DLY1、2、3が選択されている場合、ビブラートが時間をかけて徐々にかかります。この時間の長さは、サウンド・メニューで設定できます。詳しくは42ページをご参照ください。

WHLが選択されている場合、ビブラートの深さをモジュレーション・ホイールで調整できます。

## シンセ・サウンドを保存する

シンセ・サウンドを保存するには、[SHIFT]ボタンを押しながらビブラート・セクションにある[STORE SYNTH]ボタンを押します。すると、ウェーブフォーム・ディスプレイが点滅を始めます。ウェーブフォーム・セレクター・ダイヤルで保存先のメモリー・ロケーションを選択します。

シンセ・サウンドに名前を付ける場合は、プログラムのリネームと同様、[PAGE]ボタンを押してカーソルを移動させ、バリュー・ダイヤルで文字を選択します。詳しくは16ページをご参照ください。

[STORE SYNTH]ボタンをもう一度押して保存が完了します。

❶ 保存作業を途中でキャンセルしたい場合は、[SHIFT]ボタンを押します。

## アルペジエーター

アルペジエーターは、鍵盤上でコードを押さえると、そのコードの構成音を1音ずつ次々に演奏する機能です。パラメーターは、ディレクション、レンジ、スピードの3つです。Nord Stage 2のアルペジエーターでは、4種のディレクション(UP、DOWN、UP/DOWN、RANDOM)を複数のオクターブ・レンジで演奏します。アルペジオのスピードは[RATE]でコントロールする場合と、本機のマスター・クロック機能と同期させる方法の2通りがあります。



[HOLD]ボタンで鍵盤から手を離してもアルペジオ演奏を続けます。

[ON]ボタンを押してアルペジエーターをオンにします。[ARPEGGIO]セレクター・ボタンでディレクションを設定します。LEDが消灯しているときはアップ(低い音から高い音へ順に演奏)になります。その他にダウン(DN: 高い音から低い音へ順に演奏)、アップ&ダウン(U/D: 低い音順に演奏し、次に高い音順に演奏)、ランダム(RND: 構成音をランダムに演奏)があります。

[SHIFT]ボタンを押しながら[ARPEGGIO]セレクター・ボタンを押すとオクターブ・レンジを切り替えられます。LEDがすべて消えている状態では、弾いたピッチのままでアルペジオ演奏をします。最大4オクターブまでレンジを選択できます。

[RATE]ノブでアルペジオのテンポを設定します。テンポはBPMでLCDに表示されます。[RATE]の設定が非常に高い場合、ディスプレイでの表示は通常の4分音符単位のテンポに代わって8分音符または16分音符単位のテンポ表示になることがあります。例えば「84:8」と表示されている場合、8分音符単位のテンポ表示ですので、実際のテンポは168BPMとなります。

[SHIFT]ボタンを押しながらアルペジオの[ON]ボタンを押すとアルペジエーターはNord Stage 2のマスター・クロックと同期します。この時[RATE]ノブでアルペジオのサブディビジョンを選択することができます。サブディビジョンとはマスター・クロックに対する相対比のことです。1/2は2分音符、1/4は4分音符、1/8は8分音符となります。また、「T」は三連符です。

マスター・クロックとテンポの設定方法につきましては、18ページをご参照ください。

### サウンドを初期化する(SOUND INIT)

シンセ・サウンドをまっさらの状態から音作りしたい時などにイニシャライズ機能を使用します。この機能を使用するとその時選択していたシンセ・サウンドがデフォルトの基本セッティングになります。方法は[SHIFT]ボタンを押しながらアルペジオの[HOLD]ボタンを押します。

# 9 エフェクト



## オーバービュー

Nord Stage 2のエフェクトは大きく分けて次の3つのメイン・カテゴリーに分類できます：

**スロット・エフェクト** - 各インストゥルメントごと(スロットごと)に使用できるエフェクトです。スロット・エフェクトはメインのエフェクト・セクションとAmpSim/EQセクションにあります。すべてのスロット・エフェクトはスロットA/Bでそれぞれ独立していますので、各プログラムではそれぞれ異なる2つのスロット・エフェクトを使用できます。これらのエフェクトはマスター・クロックとの同期も可能で、非常にクリエイティブなサウンド作りに役立ちます。

**グローバル・エフェクト** - すべてのインストゥルメントに同時にかかり、アウトプットのCH1 & 2にルーティングされています。グローバル・エフェクトにはコンプレッサーとリバーブがあり、フロント・パネルのいちばん右側にあります。

**ロータリー・スピーカー**はスロット・エフェクトと似た動作をしますが、わずかに異なる点があります。詳しくは39ページのロータリー・スピーカーの項目をご覧ください。

## モノ/ステレオとエフェクト・ルーティングについて

エフェクトの中にはモノ・イン/モノ・アウトのものや、ステレオ・イン/ステレオ・アウトのもの、あるいはモノ・イン/ステレオ・アウトのものがあります。これらの構成は各エフェクトの項目でご紹介します。

## スロット・エフェクト

### スロット・エフェクトをオンにする

スロット・エフェクトをオンにするには、各エフェクト・セクションの最下部にある〔ON〕ボタンを押します。すると、LEDが点灯してどのインストゥルメントにエフェクトがアサインされているかを表示します。〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SOURCE〕ボタンを押すと、エフェクトがかかるインストゥルメントを切り替えられます。



エフェクトがかかるインストゥルメントを選択する方法には〔SOURCE〕ボタンをダブルタップする方法もあります。この方法は〔SHIFT〕ボタンを使用する必要がなく、片手で操作できますので便利です。

### スロット・エフェクトの設定をする

メインのエフェクト・セクション(EFFECT 1/EFFECT 2/DELAY)にある〔RATE/TEMPO〕、〔AMOUNT〕ノブで各エフェクトの音作りをします。この2つのノブでコントロールするパラメーターはエフェクトごとに異なり、各エフェクトごとに次ページ以降でご紹介します。〔RATE/TEMPO〕、〔AMOUNT〕ノブはモーフ機能でコントロールすることも可能です。詳しくは19ページをご参照ください。

## (FOCUS) ボタン

複数のエフェクトをオンにしている場合(エフェクト1と2など)で、それぞれのエフェクトをエディットする時は(FOCUS)ボタンでエフェクトを切り替えて行きます。(FOCUS)ボタンにあるLEDで、どのエフェクト(エフェクト1、エフェクト2、ディレイ)がフォーカスされている(エディット可能な状態)かを表示します。



## マスター・クロック

マスター・クロックに同期可能なエフェクトを選択している場合で、(SHIFT)ボタンを押しながら(FOCUS)ボタンを押すと、マスター・クロックとの同期を開始します。この時、(RATE/TEMPO)ノブの動作は通常のものからマスター・クロックに対するサブディビジョンに切り替わります。

サブディビジョンの中にはキチンと割り切れるものだけがあるとは限りません。ディレイには感じの良いスウィング感や三連符になるものもあります。例えば、1/4S(スウィング)や1/4T(三連符)、1/4D(符点4分音符)などがあります。また、LFOやエフェクト1、2では周期の長いサブディビジョン(4/1、2/1など)もあり、これらは小節をまたぐような長い周期になります。

### エフェクト・オフ時にエフェクト・タイプを選択する

エフェクトがオフの場合でも、オフになっているエフェクトのエフェクト・セレクター・ボタンでエフェクト・タイプを選択できます。セレクター・ボタンを1回押すと、セレクターLEDが短時間点灯してその時選択していたエフェクトを表示します。また、セレクター・ボタンを繰り返し押すと、エフェクトをオンにしないでエフェクト・タイプを切り替えることができます。この方法で、実際にエフェクトをオンにする前に正しいエフェクトを選択したかどうかを確認できます。

この機能はエフェクト1、2、アンプ・シミュレーション・モデル、リバーブで使用できます。

また、エフェクト・オフの状態でもエフェクトのエディットを行えます。この場合、設定値はディスプレイに表示されます。

## エフェクト1

エフェクト1セクションには6種類のモジュレーション・タイプのエフェクトがあり、セレクター・ボタンで切り替えます。エフェクト1に入っているエフェクトは、次のとおりです：



### A-Pan(オート・パン)

オート・パンは左右のアウトプット間をスムーズにサウンドが行き来するエフェクトです。

パンニングのスピードと広がりはそれぞれ(RATE/TEMPO)と(AMOUNT)ノブでコントロールします。また、オート・パン・エフェクトはステレオ・イン/ステレオ・アウトです。

### 応用例:インストゥルメントのパンポットとして使う

A-Panエフェクトをインストゥルメントのマニュアル・パンポットとして使うことができます：

- 1 パンを振りたいインストゥルメントのエフェクト1をオンにし、エフェクト・タイプからA-Panを選びます。

- 2 (RATE/TEMPO)ノブを0にセットし、(AMOUNT)ノブでミキサーのパンポットと操作する要領で左右間のお好きな位置に定位させることができます。

## Trem(トレモロ)

トレモロは音量をモジュレートして周期的に変化させるエフェクトで、エレクトリック・ピアノによく使われます。トレモロ・エフェクトはステレオ・イン/ステレオ・アウトです。

(RATE/TEMPO)と(AMOUNT)ノブでトレモロの周期と深さを調節します。トレモロ・エフェクトの出力レベルは、(AMOUNT)が0の時に最大になりますのでご注意ください。

## RM(リング・モジュレーション)

リング・モジュレーションは2つの入力信号を互いに掛け算するエフェクトで、不協和なベルのような音になります。Nord Stage 2のリング・モジュレーションでは、インストゥルメントからの信号とエフェクト内蔵のサイン波を掛け算するようになっています。

(RATE/TEMPO)ノブでサイン波のピッチを、(AMOUNT)ノブでリング・モジュレーションの深さをコントロールします。このエフェクトは、モノ・イン/モノ・アウトです。

## Wa-Wa(ワウ)

ワウ・モジュレーションは別名「Quack」とも呼ばれる非常に特徴的なエフェクトで、エレクトリック・ピアノによく使われます。クラビネットでもぜひお試しください。このエフェクトはローパス・タイプのフィルターを使ったもので、フィルターのフリケンシーをモジュレートさせていますので、スワイプする時にサウンド・キャラクターが大きく変化します。ワウ・エフェクトはモノ・イン/モノ・アウトです。

(RATE/TEMPO)ノブでワウのペダル・ポジションを、(AMOUNT)ノブでエフェクト音と原音のバランス(ドライ/ウェット)を調整します。

(RATE/TEMPO)パラメーターをモーフ機能にアサインし、エクスプレッション・ペダルでコントロールすることも可能です。詳しくは19ページをご参照ください。

## A-Wah1&2(オート・ワウ)

オート・ワウ1、2はワウ・エフェクトのバリエーションです。オート・ワウは入力信号の音量変化(エンベロープ・フォロワー)でフィルターのフリケンシーをコントロールする、いわば「ペロシティ・センシティブ」なエフェクトです。(RATE/TEMPO)ノブでワウのレンジを、(AMOUNT)ノブでドライ/ウェットのバランスをそれぞれ調整します。

オート・ワウ2も1と同様の動作ですが、サウンド・キャラクターが異なります。

オート・ワウはモノ・イン/モノ・アウトです。

## エフェクト2

エフェクト2セクションにはビンテージ・スタイルのエフェクトが6種類入っています。

### Phaser 1&2

フェイザー1&2は70年代に活躍したBi-Phase、Small Stoneをベースにしたエフェクトです。

フェイザー・エフェクトはいわゆるスイープ・サウンドが特徴的で、エレクトリック・ピアノによく合うエフェクトです。フェイズ・シフトの周期は(RATE/TEMPO)ノブで、フェイズ・シフトの深さは(AMOUNT)で調整します。このエフェクトはモノ・イン/モノ・アウトです。

### Flanger

フランジャーは強烈的なコム・フィルター効果を生み出すエフェクトです。うねりの周期は(RATE/TEMPO)ノブで、効果の深さは(AMOUNT)ノブで調整します。フランジャーはモノ・イン/モノ・アウトです。

### Vibe

バイブ・エフェクトもあるビンテージ・エフェクターからヒントを得て開発したエフェクトです。一般的なフェイザーとは異なる方法でフェイズ・フィルターを多段階に配列したものです。このエフェクトはモノ・イン/モノ・アウトです。

### Chorus 1&2

コーラス・エフェクトは、わずかにデチューンされたオーディオ信号の「コピー」を原音とミックスして音に厚みを加えるエフェクトです。「コピー」サウンドのデチューンの周期を(RATE/TEMPO)ノブで、エフェクト量を(AMOUNT)ノブで調整します。このエフェクトはステレオ・イン/ステレオ・アウトです。

## ディレイ

ディレイは、リビート・エコーを作り出すエフェクトです。ディレイ・タイムは(RATE/TEMPO)ノブで設定します(20~750ms)。(RATE/TEMPO)ノブを回すと、ディレイ・タイムとともにそれに対応するテンポやそのテンポでのサブディビジョンがディスプレイに短時間表示されます。(AMOUNT)ノブで原音とディレイ音のバランスを調整します。

(FEEDBACK)ノブでディレイを繰り返す量を調整します。ディレイは、ステレオ・イン/ステレオ・アウトです。

ディレイには2種類のモードがあります。アナログ・モードとノーマル/デジタル・モードの2種類です。アナログ・モードは(RATE/TEMPO)ノブの動きに応じてディレイ音のピッチが揺れ動くモードです。ノーマル/デジタル・モードではそれは起きません。モードの切替はサウンド・メニューで行います。詳しくは43ページをご参照ください。

### ピンポン・モード

(SHIFT)ボタンを押しながらタップ・テンポ・ボタンを押すとピンポン・モードになります。このモードでは、ディレイ・リビートを左右のチャンネルに交互に出すことができます。ディレイ・タイムを短くすると、リビートが非対称になり、リバース・エフェクトの初期反射音のようなサウンドになります。



### タップ・テンポ

(TAP TEMPO)ボタンを使用して曲のテンポに合ったディレイ・タイムを設定することができます。方法は、欲しいディレイ・タイムのテンポを(TAP TEMPO)ボタンで数回叩くと、あとは自動的にディレイ・タイムが調整されます。

(TAP TEMPO)LEDが点灯している間にディレイ・タイムを計算しますので別のテンポを入力する際は、LEDが消えるのをお待ちください。また、タップ・テンポ入力中はディレイ音のピッチは変わりません。

## アンプ・シミュレーター/EQ

このエフェクトは3バンドEQとアンプ/スピーカー・キャビネット・シミュレーターを組み合わせたエフェクトです。アンプやスピーカー・シミュレーターは複数のタイプがあり、それぞれ周波数特性が異なり、ゲインやロードなどの反応も異なります。これらのアンプやスピーカー・キャビネットのサウンド・キャラクターを利用して、ライン楽器にありがちなクリーン過ぎるサウンドをよりオーガニックに、完璧なサウンドに仕上げます。

このエフェクトならではの現象に、オーバードライブがあります。このサウンドは長年の間、多くのミュージシャン達が愛好してきたものです。このアンプ・シミュレーターでは、組み合わせるアンプとキャビネットごとに歪み方も忠実にモデリングし、リアルなサウンドをお楽しみいただけます。

アンプ・モデルを選択していない場合は、このセクションは通常のEQとオーバードライブ・エフェクトになります。

アンプ・モデルを使用し、(DRIVE)ノブが上がっている状態ではモノ・イン/モノ・アウトになり、アンプ・モデルを使用していない場合は、ステレオ・イン/ステレオ・アウトになります。



### アンプ・モデル

アンプ・モデルの選択は、セレクター・ボタンで行います。アンプ・モデルには次のタイプがあります：

モデル	内容
JC	Roland Jazz Chorusのキャビネットをチューブ・アンプで駆動したサウンドのシミュレーション
Small	Wurlitzer 200Aの内蔵スピーカーをチューブ・アンプで駆動したサウンドのシミュレーション
Twin	Fender Twinのチューブ・アンプとスピーカー・キャビネットのシミュレーション

### Drive

(DRIVE)ノブでアンプ・シミュレーター・セクションのオーバードライブ量を調整します。オーバードライブがかかると(DRIVE)LEDが点灯します。

### EQセクション

トレブル、ミッド、ベースの3バンドイコライザーです。ミッドは周波数可変タイプです。各バンドの周波数はトレブルが4kHz、ミッドは200Hz~8kHz、ベースは100Hzです。ブースト/カット量は±15dBです。

## グローバル・エフェクト

グローバル・エフェクトを音にすると、コンプレッサーとリバーブがかかります。なお、これらのエフェクトはアウトプットCH1/2とヘッドフォンに流れる信号にのみかかり、アウトプットCH3/4へ流れる信号にはかかりません。どちらのエフェクトもステレオ・イン/ステレオ・アウトです。

### コンプレッサー

コンプレッサーはダイナミクスを均等にするエフェクトで、低いレベルの音を持ち上げ、高いレベルの音を下げます。これにより、タイトでパンチのあるサウンドになり、特にライブでのミックスがしやすくなります。〔ON〕ボタンでコンプレッサーがオンになります。〔AMOUNT〕ノブでコンプレッサーのかかり具合を調整します。



### リバーブ

リバーブ・セクションは、様々な音響環境で発生する自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。このセクションには6タイプのリバーブがあり、それぞれ残響の長さや密度が異なります。各タイプを選択すると、そのタイプのLEDが点灯します。

ホール・リバーブは大ホールの音響特性をシミュレートしたもので、長い残響音が特徴です。ステージ・リバーブはそれよりもやや短めの残響音、ルームは短い残響音にアンビエンスをプラスしたものです。

〔Reverb 1〕はメロウなサウンドで、〔2〕はよりブライトなサウンド・キャラクターです。

〔DRY/WET〕ノブでリバーブ音と原音のバランスを調整します。

ロータリーの回転が切り替わる速度を、サウンド・メニューで設定することができます。詳しくは43ページをご参照ください。

ロータリー・スピードは段階的に切り替える以外に、モーフ機能を使って無段階にコントロールすることができます。これにより、ファストやスロー、ストップ以外のスピードにもセットできます。

〔DRIVE〕ノブでオーバードライブの量を調整できます。これはオリジナルのロータリー・スピーカーのプリアンプ部で発生するオーバードライブを再現したものです。

サスティン・ペダルまたはフットスイッチを〔ROTOR SPEED〕ペダル・インプットに接続すると、ロータリー・スピードをペダルでコントロールできます。詳しくは58ページをご覧ください。

### シグナル・ルーティングについて

ロータリー・エフェクトは本機の内部では、その他のエフェクトの後段に接続されています。そのため、スロットA/Bの両方をオンにした場合、両方のサウンドがミックスされた信号がこのエフェクトに入ります。これは例えば、スプリット・オルガン機能を使って二段鍵盤オルガンのように使用する場合、オリジナルのオルガンと同様、どちらのサウンドにもロータリー・エフェクトがかかるということになります。

① 〔DRIVE〕パラメーターは入力するインストゥルメントのレベル設定によって効き具合が大きく変わります。インストゥルメントの音量が非常に小さいと、オリジナルと同様、ドライブできる量も非常に限定的になります。例えばスウェル・ペダルでオルガンの音量を上げると、ロータリー・エフェクトでのオーバードライブ量もその分だけ増えます。

### ロータリー・パラメーター

ロータリー・スピーカーのスピードが切り替わる速度は、サウンド・メニューで設定できます。詳しくは43ページをお読みください。

## ロータリー・スピーカー

Nord Stage 2のロータリー・スピーカーは、回転するローターやホーンはもちろんのこと、オリジナルの内蔵プリアンプの特性も忠実に再現したものです。このエフェクトはモノ・イン/ステレオ・アウトです。

- ロータリー・エフェクトはスロット・エフェクト同様、インストゥルメントごとにオン/オフできます。操作は〔SOURCE〕ボタンで行います。
- ロータリーのファスト/スロー切替は〔SLOW/STOP〕ボタンで行います。
- このエフェクトにはスピード切替以外にストップ・モードもあります。ローターの回転を止めるには、〔STOP MODE〕ボタンを押し、次に〔SLOW/STOP〕ボタンを押します。止まっている状態は、エフェクトがオフになっているということではなく、実際にローターが静止している状態のことです。この状態から〔SLOW/STOP〕ボタンを押すと、回転スピードが徐々に上がりファストになります。これは、ファストとストップしかなかった初期のロータリー・スピーカーの動作を再現したものです。



# 10 エクスターナル・セクション

## エクスターナル・セクション

Nord Stage 2には外部MIDI機器をコントロールする機能が搭載されています。これがエクスターナル・セクションです。外部MIDI機器のコントロールに必須となるすべての機能があり、本機の内蔵音源や機能を操作するのと同じくらい簡単に使用することができます。

エクスターナル・セクションは、インストゥルメント・セクションとほぼ同様の動作をします。キーボード・ゾーンの設定もインストゥルメント・セクションと同様です。このセクションでは多目的の〔PARAMETER〕ノブを備え、MIDIボリュームやコンティニューアス・コントローラー・メッセージの設定が行えます。〔PARAMETER SELECT〕ボタンを押し、送信したいパラメーターを選択します。

MIDIチャンネルやプログラム・チェンジ、コンティニューアス・コントローラー・メッセージやその他MIDI関連の細かな設定は、エクスターナル・メニューで行えます(44ページをご参照ください)。また、これらの設定はプログラムごとにメモリーできますので、プログラムを切り替えるだけ簡単に外部MIDI機器にアクセスすることができます。



### セッティングする

- ① MIDIケーブルをNord Stage 2のMIDI OUTから外部MIDI機器のMIDI INに接続します。
- ② 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔EXTERN〕ボタンを押して、エクスターナル・メニューに入ります。
- ③ 〔PAGE〕ボタンを押して「Extern MIDI A/B」ページにアクセスします。
- ④ バリュースティックで送信MIDIチャンネル(1~16)を選択します。〔SLOT A〕〔SLOT B〕ボタンを押してスロットごとに設定できます。〔EXIT〕ボタン(〔SHIFT〕)を押してメニューから抜けます。
- ⑤ 外部MIDI機器のMIDIチャンネルをこの時設定したMIDIチャンネルに合わせます。

## エクスターナル・セクションを使う

### オンにする

インストゥルメント・セクションをオンにする操作と同様、〔PARAMETER〕ノブの下にある〔ON〕ボタンを押してエクスターナル・セクションをオンにします。

### キーボード・ゾーン

エクスターナル・セクションはスロットごとにあり、インストゥルメント・セクションと同様にキーボード・ゾーンを使ってレイヤーやスプリット作成することができます。エクスターナル・セクションがLOゾーンにのみアサインされている場合、外部MIDI機器はそのゾーンを演奏した時にのみ反応します。

エクスターナル・セクションには通常のキーボード・ゾーンに加え、本機のキーボードをまったくアサインしないオプションもあります。これは、本機のキーボードをアサインしないだけで、ピッチ・スティックや〔PARAMETER〕ノブからはMIDI信号を送信できるというものです。このオプションは、キーボードによるノート・データを送信としない外部MIDI機器をコントロールする際に便利です。このオプションは〔SHIFT〕ボタンを押しながらエクスターナル・セクションの〔ON〕ボタンを押すと選択でき、この時、ゾーンのLEDは消え、パラメーターのLEDが点灯します。

キーボード・ゾーンの設定方法は、20ページをご参照ください。

### オクターブ・シフト

エクスターナル・セクションの〔OCTAVE SHIFT〕ボタンの動作は、インストゥルメント・セクションとまったく同様です。シフト・レンジは外部MIDI機器で発音できる範囲やその時アサインしている外部MIDI機器でのキーボード・ゾーンのレンジによります。

### ピッチ・スティック/サスティン・ペダル・メッセージ

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔PSTICK〕または〔SUSTPED〕ボタンを押すと、Nord Stage 2から外部MIDI機器へピッチ・ベンドやサスティン・ペダル・メッセージをエクスターナルMIDIチャンネルで送信できます。この時〔PSTICK〕または〔SUSTPED〕LEDが点灯します。



## エクスターナル・パラメーター

パラメーター・セクションには3つのセレクト・ボタンと〔PARAMETER〕ノブ（ロータリー・エンコーダー）があります。操作法はいたってシンプルです。セレクト・ボタンでパラメーターを選び、〔PARAMETER〕ノブで設定するだけです。

〔PARAMETER〕ノブはモーフ機能でコントロールすることができます。詳しくは18ページをご参照ください。これにより、外部MIDI機器へ送信するMIDIパラメーターをモジュレーション・ホイールやエクスプレッション・ペダル、アフタータッチでコントロールすることができます。

パラメーター・セレクト・ボタンで次のパラメーターを選択できます：

### ボリューム

ボリューム（VOLUME）が選択されると、〔PARAMETER〕ノブでMIDIボリューム（CC7：0～127）を送信できます。これにより外部MIDI機器のレベルをコントロールできます。なお、外部MIDI機器でこのMIDI CCメッセージを受信できるように設定する必要がある場合がありますのでご注意ください。

### プログラム・チェンジ

プログラム・チェンジ（PROG CHANGE）を選択すると、〔PARAMETER〕ノブでMIDIプログラム・チェンジ・メッセージ（0～127）を送信でき、外部MIDI機器のプログラムを選択することができます。この機能は他のパラメーターと動作が少し異なり、〔PARAMETER〕ノブの周囲にあるLED1つで1プログラムとなりますので、127個すべてのプログラム・チェンジ・メッセージにアクセスするためには、このノブを何周か回します。なお、外部MIDI機器側でMIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信できる状態に設定する必要がある場合がありますのでご注意ください。

△ エクスターナル・セクションを使用しなくても本機でバンク、ページ、プログラムを選択した時にMIDIプログラム・チェンジ・メッセージを送信ことができ、外部MIDI機器で受信してしまうことがあります。このような場合、スロットA、スロットBのMIDIチャンネルがエクスターナルMIDIチャンネルと同じチャンネルになっていないかどうかをご確認ください。また、MIDIメニューでエクスターナル・セクション以外からMIDIプログラム・チェンジ・メッセージの送信をオフにすることもできます。

外部MIDI機器のプログラムがバンクとプログラムで構成されている場合、エクスターナル・メニューでバンク・チェンジ・メッセージを送信できるようにするオプションもあります。詳しくは44ページをご参照ください。

## MIDI CC

この機能により、外部MIDI機器へMIDIコントロール・チェンジ・メッセージを送信することができます。まず最初にエクスターナル・メニューでどのMIDIコントロール・チェンジ・メッセージを送信するかを設定する必要があります。手順は次のとおりです：

- ① 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔EXTERN〕ボタンを押してエクスターナル・メニューに入ります。
- ② 〔PAGE〕ボタンで「Extern MIDI CC Number」を選択します。
- ③ バリュー・ダイヤルでMIDI CCナンバー（0～119）を選択します。この時、外部MIDI機器のどのパラメーターがどのMIDI CCナンバーに対応しているかを確認する必要があるかも知れません。
- ④ 〔EXIT〕ボタン（SHIFT）を押してメニューから抜けます。

MIDI CCナンバーの設定が完了しましたら、エクスターナル・セクションの〔MIDI CC〕ボタンを押すとMIDI CCメッセージを送信できる状態になり〔PARAMETER〕ノブでコントロールすることができます。この時、外部MIDI機器側でMIDI CCメッセージを受信できる状態に設定する必要がある場合もありますのでご注意ください。

## SEND ON LOAD

SEND ON LOAD機能がオンの場合、Nord Stage 2でプログラムを選択した時にプログラム・チェンジ、MIDIボリューム、MIDI CCメッセージを送信します。この機能を使用しない場合は、エクスターナル・メニューにある「Send On Load」をオフにします。

# 11 メニュー

システム、サウンド、MIDI、エクスターナルの各メニューで設定を変更すると、その場で本機全体の設定として有効となると同時に自動的に保存され、次に変更するまでキープされます。各メニューには〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕、〔SOUND〕、〔MIDI〕、〔EXTERN〕の各ボタン〔PROGRAM 1〕～〔PROGRAM 4〕を押して入ります。メニュー内の各パラメーターの選択は〔PAGE <〕、〔PAGE >〕ボタンを使用し、設定の変更はバリュー・ダイヤルで行います。また、メニューから抜けるには〔EXIT〕ボタン〔〔SHIFT〕〕を押します。

❶ 例外的に「MIDI Local On/Off」の設定は自動的に保存されず、Nord Stage 2の電源投入時に必ずオンになります。

## システム・メニュー

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔PROGRAM 1/SYSTEM〕を押すとシステム・メニューに入ります。各設定は〔PAGE <〕、〔PAGE >〕ボタンで選択できます。バリュー・ダイヤルで設定を変更するとき、〔SLOT A〕、〔SLOT B〕ボタンを押して設定を変更したいスロットを選択できます。設定変更が終わりましたら〔EXIT〕ボタン〔〔SHIFT〕〕を押してメニューから抜けます。

### Global Transpose

この設定はNord Stage 2全体のトランスポーズを半音単位でセットします。プログラムごとに保存できるパネル上でのトランスポーズ機能を使用した場合、ここでの設定値と足されて実行します。

レンジ: ±6半音(デフォルト値 = 0)

### Fine Tune

Nord Stage 2のピッチを細かい精度でチューニングします。

レンジ: ±50セント(デフォルト値 = 0)

### Output Routing

Nord Stage 2のインストゥルメントの出力先は、本機全体としてのグローバル設定、またはプログラムごとの設定の2通りで設定できます。プログラムでのアウトプットの選択は、個々のプログラム・パラメーターとして保存されます。このパラメーターで「Global」を選択した場合、本機のオーディオ信号の出力先は、個々のプログラムでの設定値よりも優先してすべてのプログラムで同じ設定になります。

レンジ: Global(デフォルト値)、Program

### Organ Audio A/B Output

オルガン・セクションのオーディオ信号の出力先(ステレオ・ペアまたはモノ・アウト)を設定します。Output Routingが「Program」に設定されている場合、これらの設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 1 & 2(デフォルト値)、3 & 4、3、4

### Piano Audio A/B Output

ピアノ・セクションの各スロットの出力先(ステレオ・ペアまたはモノ・アウト)を設定します。このパラメーターを選択し、〔SLOT A〕または〔SLOT B〕ボタンを押してそれぞれのスロットでの設定を行います。Output Routingが「Program」に設定されている場合、これらの設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 1 & 2(デフォルト値)、3 & 4、3、4

### Synth Audio A/B Output

シンセ・セクションの各スロットの出力先(ステレオ・ペアまたはモノ・アウト)を設定します。このパラメーターを選択し、〔SLOT A〕または〔SLOT B〕ボタンを押してそれぞれのスロットでの設定を行います。Output Routingが「Program」に設定されている場合、これらの設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 1 & 2(デフォルト値)、3 & 4、3、4

### Organ Keyboard Trig Point

オルガン・サウンドのキーボードトリガー設定を行います。「High」に設定されている場合、オルガン・サウンドは鍵盤を完全に押し込まれる前の浅いタッチの段階で発音します。これは、オリジナルのトーンホイール・オルガンの動作に近いモードです。

レンジ: High、Low(デフォルト値)

### Sustain Pedal Type

サスティン・ペダルには極性があり、ペダルと本機の極性が合っていないとペダルを踏んでいない時にサスティンがかかってしまい、踏んだ時にサスティンが止まります。このような場合、このパラメーターで極性を反転させます。

レンジ: Open、Closed(デフォルト値)、Triple (Nord Triple Pedal)

### Sustain Pedal Use As Rotor

サスティン・ペダル1つでサスティン・ペダルとローター・スピード・ペダルの機能を使い分けたい場合、このパラメーターで設定します。

レンジ: On、Off(デフォルト値)

### Rotor/Latch Pedal Type

〔ROTOR/LATCH〕インプットに接続したペダルの極性が本機と合っていない場合に、このパラメーターで極性を反転させます。

レンジ: Open、Closed(デフォルト値)

## Rotor/Latch Pedal Function

{ROTOR/LATCH}インプットに接続したペダルの機能をローター・スピードまたはラッチ/ノズテヌートのどちらかに切り替えます。

レンジ: Latch, Rotor(デフォルト値)

## Rotor Pedal Mode

{ROTOR/LATCH}インプットに接続したペダルがモーメンタリー・タイプのもので、ローター・スピードをコントロールしている場合、このパラメーターでペダルを踏んだ時の動作を切り替えます。「Hold」の場合、ペダルを踏んでいる間だけファスト(またはスロー:ペダルの極性によってどちらかになります)になり、ペダルから足を離すとスローになります。「Toggle」の場合は、オン/オフタイプのペダル・スイッチのようにペダルを踏む都度スピードが切り替わります。

レンジ: Hold(デフォルト値)、Toggle

## Ctrl Pedal Type

Nord Stage 2は多くのブランドのコントロール・ペダルを{CTRL PEDAL}インプットに接続できます。コントロール・ペダルを使用する際、このパラメーターで主な各ペダルの特性に合わせます。

ⓘ お使いのペダルがこのパラメーターのプリセットにない場合、このパラメーターを設定中に、コントロール・ペダルを操作すると、ディスプレイにペダルのレンジが0から100のパーセンテージで表示され、最適なセッティングを見つけ出すのに有効です。

レンジ: Roland EV-5(デフォルト値)、Roland EV-7、Yamaha FC-7、Korg (EXP-2 & XVP-10)、Fatar (& Studiologic VP/25)

## Control Pedal Use as Swell

{CONTROL PEDAL}インプットに接続したコントロール・ペダルをスウェル・ペダルとして使用する場合に、このパラメーターを設定します。「Yes」に設定した場合、別のペダルを{ORGAN SWELL}インプットに接続していても、ここでの設定が優先され、どちらのペダルを使用してもスウェル・ペダルとして使用できてしまいますのでご注意ください。

レンジ: No(デフォルト値)、Yes

## Swell Pedal Type

スウェル・ペダルの設定を行います。詳細は上の「Ctrl Pedal Type」をご覧ください。

レンジ: Roland EV-5(デフォルト値)、Roland EV-7、Yamaha FC-7、Korg (EXP-2 & XVP-10)、Fatar (& Studiologic VP/25)

## Swell Pedal Dest

{SWELL PEDAL}インプットに接続したペダルのコントロール先を設定します。「Organ」の場合、オルガン・セクションにのみスウェル・コントロールが効き、「All」の場合は、ピアノ、シンセの各セクションのボリューム・コントロールとしても動作します。

レンジ: Organ(デフォルト値)、All

## Memory Protection

工場出荷時、このパラメーターは「On」になっています。この場合、プログラムやシンセ・サウンドを保存することはできません。プログラムなどをエディットして保存する場合、この設定を「Off」にします。なお、メニューの各設定やライブ・パッファはこの設定に関係なく保存されます。

レンジ: On(デフォルト値)、Off

## サウンド・メニュー

{SHIFT}ボタンを押しながら{PROGRAM 2/SOUND}ボタンを押してサウンド・メニューに入ります。{PAGE <}または{PAGE >}ボタンで各パラメーターを選び、バリュー・ダイヤルで設定を変更できます。変更が終わりましたら{EXIT}ボタン({SHIFT})を押してメニューから抜けます。

## Organ Key Click B3

B3オルガン・モデルのキー・クリックのレベルを設定します。

レンジ: Low, Normal(デフォルト値)、High

## Organ Tonewheel Mode

B3オルガン・モデルのトーンホイール・クロストークやケーブル・リーケージのレベルを設定します。

レンジ: Clean, Vintage 1(デフォルト値)、Vintage 2

## Piano Pedal Noise

Nord Triple Pedalを使用し、ペダル・ノイズ機能をオンにした場合の、ピアノのペダル・ノイズのレベルを設定します。

レンジ: +/-6dB(デフォルト値 = 0dB)

## Piano String Res

ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合の、ストリング・レゾナンスのレベルを設定します(アコースティック・ピアノ・モデルのミディアム、ラージ、エクストラ・ラージ・サイズでのみ使用可能)

レンジ: +/-6dB(デフォルト値 = 0dB)

## Synth Vibrato Rate

シンセ・ビブラートの周期(スピード)を設定します。

ⓘ この設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 4.00~8.00Hz(デフォルト値 = 6.00Hz)

## Synth Dly Vibrato Amount

シンセ・セクションでディレイ・ビブラートがオンになっている時のディレイの長さを設定します。

ⓘ この設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 0~50 cent(デフォルト値 = 25 cent)

## FX Delay Mode

ディレイ・エフェクトの{RATE/TEMPO}ノブを操作した時に、ディレイ音のピッチが変化するかどうかを設定します。「Analog」の場合、ピッチが変化し、「Normal」の場合は変化しません。

レンジ: Analog(デフォルト値)、Normal

## FX Rotary Speaker Acc

ロータリー・スピーカーのスピードを切り替えた時に、スピードが徐々に変化する速さを設定します。

レンジ: Low, Normal(デフォルト値)、High

## MIDIメニュー

{SHIFT} ボタンを押しながら{PROGRAM 3/MIDI} ボタンを押して MIDIメニューに入ります。{PAGE <}、{PAGE >} ボタンで各パラメーターを選び、パリュール・ダイヤルで設定を変更します。この時、{SLOT A}、{SLOT B} ボタンで設定を変更したいスロットを選択できます。変更が完了したら{EXIT} ボタン({SHIFT})を押してメニューから抜けます。

### MIDI Control Local

Nord Stage 2の鍵盤、フロント・パネルの接続を内部音源とプログラム、またはMIDI信号のみを送信するか(ローカル・コントロール)の設定をします。ローカル・オンが通常モードで、ローカル・オフの場合は、フロント・パネルとキーボードはMIDI信号のみを送信し、内部音源のコントロールや発音は行いません(音が出ない状態になります)。

レンジ: On(デフォルト値)、Off

- ❶ このパラメーターの設定は本機の電源投入時に必ず「On」になります。

### MIDI Slot A/B Channel

スロットA/BのMIDIチャンネルを設定します。

レンジ: 1~16, USB1~USB16, Off(デフォルト値: A=ch1, B=ch2)

### MIDI Organ A/B Channel

オルガン・セクションA/BのMIDIチャンネルを設定します。「Off」以外に設定した場合、そのオルガン(AまたはB)はKBゾーンにまったくアサインされなくなり、このパラメーターで設定したチャンネルのMIDI信号を受信した時のみ発音します。

レンジ: 1~16, USB1~USB16, Off(デフォルト値)

### MIDI Piano A/B Channel

ピアノ・セクションA/BのMIDIチャンネルを設定します。「Off」以外に設定した場合、そのピアノ(スロットAまたはB)はKBゾーンにまったくアサインされなくなり、このパラメーターで設定したチャンネルのMIDI信号を受信した時のみ発音します。

レンジ: 1~16, USB1~USB16, Off(デフォルト値)

### MIDI Synth A/B Channel

シンセ・セクションA/BのMIDIチャンネルを設定します。「Off」以外に設定した場合、そのシンセ(スロットAまたはB)はKBゾーンにまったくアサインされなくなり、このパラメーターで設定したチャンネルのMIDI信号を受信した時のみ発音します。

レンジ: 1~16, USB1~USB16, Off(デフォルト値)

### MIDI Dual KB Channel

デュアルKBモードをオンにした場合の外部MIDIキーボードのMIDIチャンネルを設定します。詳しくは15ページをご参照ください。

レンジ: 1~16, Off(デフォルト値 = 16)

### MIDI Prog Change Mode

MIDIプログラム・チェンジ・メッセージの送信/受信設定を行います。

- ❶ ここでの設定は本機のプログラムのみに対する設定で、エクスターナル・セクションの設定ではありません。

レンジ: Off, Send, Receive, Send & Receive(デフォルト値)

### MIDI Ctrl Change Mode

MIDIコントローラー・メッセージの送受信設定を行います。

レンジ: Off, Send, Receive, Send & Receive(デフォルト値)

### Send MIDI Ctrl

選択したスロットのすべてのパラメーター・セッティングをMIDIコントローラー信号としてダンブ送信することができます。{STORE} ボタンを押すと送信が始まります。

レンジ: Slot A, Slot B

## エクスターナル・メニュー

{SHIFT} ボタンを押しながら{PROGRAM 4/EXTERN} ボタンを押すとエクスターナル・メニューに入ります。{PAGE <}、{PAGE >} ボタンでパラメーターを選び、パリュール・ダイヤルで設定の変更ができます。変更が完了したら{EXIT} ボタン({SHIFT})でメニューから抜けます。

- ❶ エクスターナル・メニューのほとんどのパラメーターはスロットごとに設定できます。
- ❷ エクスターナル・メニューのほとんどのパラメーター・セッティングはプログラムごとに保存されます。例外はExtern MIDI A/B Channelが「Global」に設定された場合と、Send on Loadです(このパラメーターは常にグローバルです)。

### Extern MIDI Mode

エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルは2通りの方法で設定できます。ひとつはグローバルに、もうひとつはプログラムごとに設定できます。「Global」が選択された場合は、エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルA/Bはすべてのプログラムで同じ設定になります。「Program」の場合は、エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルA/Bはプログラムごとに保存されます。

レンジ: Global, Program(デフォルト値)

### Extern MIDI A/B Channel

エクスターナル・セクションの各スロットから送信するMIDIチャンネルを設定します。

レンジ: 1~16(デフォルト値: Slot A=14, Slot B=15), USB1~USB16

### Extern MIDI A/B Volume

エクスターナル・セクションはMIDIボリューム・メッセージ(0~127)を送信でき、外部MIDI機器のレベルをコントロールできます。

レンジ: Off(デフォルト値)、0~127

### Extern MIDI A/B Prog Change

エクスターナル・セクションはMIDIプログラム・チェンジ・メッセージ(0~127)を送信し、外部MIDI機器のプログラムを切り替えることができます。

レンジ: Off(デフォルト値)、1~128

### Extern MIDI A/B Bank Sel cc 00

コントロール・チェンジ・アドレス00(cc00)のMIDIバンク・セレクト・メッセージを設定します。

レンジ: Off, 0~127

## Extern MIDI A/B Bank Sel cc 32

コントロール・チェンジ・アドレス32(cc32)のMIDIバンク・セレクト・メッセージの値を設定します。

- ① バンクのナンバリング方法とMIDIとの関係は、機器によって異なりますので、このパラメーターを設定する際は、お使いの外部MIDI機器の取扱説明書でご確認ください。

レンジ: Off(デフォルト値)、0~127

## Extern MIDI A/B CC Number

エクスターナル・セクションの[MIDI CC]をオンにした時に送信するMIDIコントローラー・ナンバーを設定します。

レンジ: MIDI CC 0~119(デフォルト値 = 2)

## Extern MIDI A/B CC Value

選択したMIDI CCナンバーの値を送信します。

レンジ: Off(デフォルト値)、1~127

## Extern MIDI A/B Send Wheel

モジュレーション・ホイールのMIDIデータ(CC1)を送信するかどうかを選択します。

レンジ: Yes(デフォルト値)、No

## Extern MIDI A/B Send A.Touch

アフタータッチのMIDIデータを送信するかどうかを選択します。

レンジ: Yes(デフォルト値)、No

## Extern MIDI A/B Send CtrlPed

本機の[CONTROL PEDAL]インプットに接続したコントロール・ペダルからエクスプレッションMIDIデータ(CC11)を送信するかどうかを選択します。

レンジ: Yes(デフォルト値)、No

## Extern MIDI A/B Vel Curve

エクスターナル・セクションに適用するベロシティ・レスポンス・カーブを設定します。

レンジ: Soft、Norm、Hard

## Extern MIDI Send on Load

本機でプログラムを切り替えた時に、エクスターナル・セクションのプログラム・チェンジ、ボリューム、MIDI CC メッセージも自動的に送信するかどうかを選択します。

レンジ: Off(デフォルト値)、On

# 12 Nord Sound Manager

Nord Sound ManagerはNord Stage 2本体内の様々なメモリー・エリア(「パーティション」と呼びます)の管理、構築を行うためのアプリケーションソフトウェアです。また、Nord Stage 2へピアノ・サウンドやプログラムを転送(「ダウンロード」と呼びます)する際に使用したり、Nord Stage 2本体内のメモリーからピアノ・サウンドやプログラム(これらを「サウンド」と呼びます)をコンピュータへ転送(「アップロード」と呼びます)する際にもこのアプリケーションを使用します。Nord Sound Managerにはサウンドを本体にダウンロードする様々な方法があり、また同時にNord Stage 2のメモリー全体のバックアップやリストア機能もあります。

## 動作環境

Nord Sound ManagerはMac OS X 10.4以降、Windows XP、Windows 7、Windows Vistaに対応しています。なお、WindowsコンピュータでNord Sound Managerを使用される際は、Clavia USB Driver version 3.0以降をインストールする必要があります。

- ❶ Nord Stage 2のOSアップデートやUSB Driver、インストールのための手順書はNord ウェブサイト([www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com)(英文))から入手できます。また、本機に付属のDVDにも収録されています。

## インストール

### USB Driverのインストール

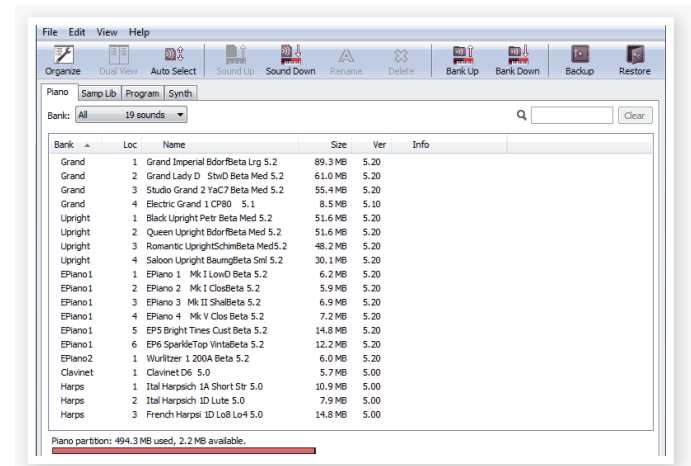
- ❶ Mac OS Xユーザーの方はこの手順は不要です。

- ① Windowsコンピュータ(XP、Vista、7)ユーザーの方は本機付属DVD内にあるClavia USB Driver v3.0 Setup.exeをダブルクリックします。
- ② 画面に表示される指示に従って操作を進めます。
- ③ インストール完了後、Nord Stage 2を接続するとUSB Driverが起動します。コンピュータとNord Stage 2はUSBケーブルで接続します。
- ④ Nord Stage 2がコンピュータに接続されると、USB Driverが自動的に起動し、Windowsタスクバーのノーティフィケーション・エリアに確認画面が表示されます。

### Sound Managerのインストール

- ① **Windowsユーザー**：本機付属DVD内のNord Sound Managerフォルダを開き、Nord Sound Manager v5.x Setup.exeを実行し、指示に従って慎重に作業を進めます。インストールが完了すると、本アプリケーションはスタートメニューからアクセスできます。
  - ② **Mac OS Xユーザー**：本機付属DVD内のNord Sound Managerフォルダを開き、Nord Sound Manager 5.x.dmgをダブルクリックし、Nord Sound Managerアプリケーションをアプリケーション・フォルダにドラッグします。
- △ Nord Sound Manager、Clavia USB DriverはNordウェブ([www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com))からダウンロードできます。その他のアップデートなども随時行っておりますので、定期的にアクセスしてください。

## オーバービュー

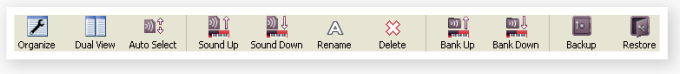


ピアノ、サンプル、プログラム、シンセの各パーティションをタブで切り替えて表示することができます。

Nord Stage 2がコンピュータに接続されていない場合、各ページやアイコン、メモリー・ロケーションは薄く表示されます。

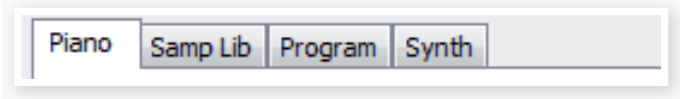
- △ Nord Sound ManagerはNord Stage 2と常にオンライン状態にありますので、本アプリケーション上での操作はすぐさまNord Stage 2本体内のメモリー内容を書き換えるようになっていきます。例えば、Nord Sound Manager上にリスト表示されているピアノやプログラムを消去すると、そのサウンドはNord Stage 2本体のフラッシュ・メモリーから消去されてしまいますので十分にご注意の上操作してください。

## ツールバー



Nord Sound Managerでよく使う機能は、ツールバーから直接にアクセスできます。使用したい機能のアイコンをクリックすると、さらに詳細な操作や確認のためのダイアログなどが表示されます。

## タブ



作業をしたいパーティションの選択は、タブで行います。ピアノ・パーティションの編集をする場合はPianoタブ、サンプル・パーティションはSamp Libタブ、ProgramやSynthタブではプログラムやシンセ・サウンドのファイル管理が行えます。本アプリケーションとこのチャプターでは、個々のピアノやサンプル、プログラムを「サウンド」と呼んでいます。

☞ コンピュータのキーボードのコントロールを押しながらタブを押すと本アプリのタブを切り替えることができます。

リストの見出しをクリックしてリストの内容をロケーション、名前、サイズ、バージョン、作成日順に昇順または降順で並べ替えることができます。

## パーティション・メモリー・インジケーター

画面下部にあるメモリー・インジケーターで、選択したパーティションのメモリー使用状況を確認できます。赤いエリアは使用中メモリー、緑は空き容量です。

## 右クリック

サウンドの上で右クリックをすると、次のようなコンテキスト・メニューが表示されます：

### Select in Instrument

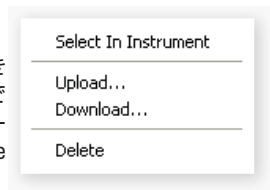
リスト上で選択したサウンドをNord Stage 2上でも選択させる時に使用します。

### Upload

選択したサウンドをNord Stage 2からコンピュータのハードディスクにアップロードします。

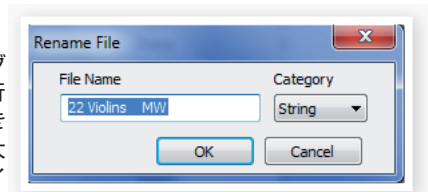
### Download

このオプションはサウンドが入っていない空きロケーション上で右クリックした時のみ使用できます。このオプションでコンピュータのハードディスク上にあるファイルをNord Stage 2の空きロケーションにダウンロードします。



### Rename

サウンドのリネームとプログラムのカテゴリー設定を行います。リネームに使用できる文字はアルファベット(大文字/小文字)、0~9、ハイフン(-)です。また、文字は最長16文字まで入ります。その他の文字を使用した場合、本アプリケーションのリストに表示されませんのでご注意ください。



❶ ピアノとサンプルはリネームできません。これらのアイテム上で右クリックしてもリネームのオプションは使用できません。

### Delete

選択したサウンドをNord Stage 2のメモリーから消去します。

## ファイル・フォーマット

本アプリケーションとNord Stage 2で作成または使用できるファイルの拡張子は、次のとおりです：

- .npro : Nord Piano Libraryのピアノ・ファイルです。
- ❶ Nord Stage 2はバージョン5以降のピアノ・ファイルに対応しています。
- .nsmp : Nord Sample Libraryのサンプル・ファイルです。
- .ns2p : Nord Stage 2のプログラム・ファイルです。
- .ns2s : シンセ・サウンドのファイルです。
- .ns2b : Nord Stage 2のバックアップ・ファイルです。

コンピュータ上の他のファイルと同様、これらのファイルもリネームやメーグルに添付したり、コピー、ムーブ、消去や不測の事態に備えて別のハードディスクに保管しておくことができます。

## クイック・ツアー

Nord Sound Manager の各機能をご紹介します。

### ピアノをNord Stage 2に転送する

工場出荷時のNord Stage 2のピアノ・パーティションは、ピアノ・サウンドで満載の状態になっています。ここへ新たにピアノをダウンロードする場合、あらかじめ入っていたピアノ・サウンドを一部デリートする必要があります。デリートするピアノを後で使用したい場合、それらは本機の付属DVDに収録されていますのでそちらをご利用ください。また、www.nordkeyboards.comのライブラリー・エリアからも入手できます。

### ピアノを消去する

- ① Nord Stage 2とコンピュータをUSB ケーブルで接続し、Nord Sound Managerを起動します。
- ② Pianoタブを選択し、Nord Stage 2のピアノ・パーティションの内容を表示します。
- ③ デリートするピアノを選択し、ツールバーにあるデリート・アイコンをクリックします。

あるいはデリートしたいピアノを右クリックし、表示されるコンテキスト・メニューからデリートを選択することも可能です。または、デリートしたいピアノを選択し、コンピュータのキーボードのバックスペースまたはデリート・キーで消去することもできます。

- ④ 確認のダイアログが表示され、確認すると選択したピアノはデリートされます。

### 新しいサウンドをダウンロードする

- ① **ドラッグ&ドロップによる方法**：新しいサウンドが入っているコンピュータのハードディスクのフォルダを開きます。
- ② 開いたフォルダとNord Sound Managerの画面の両方が見えるように位置を調整します。
- ③ 新しいサウンドを本アプリケーションのリストの空いているところへドラッグします。ドラッグ先がグレーになってからマウス・ボタンを離します。
- ④ ドラッグが完了するとClean Deleted Space処理が自動的に始まり、新しいピアノがNord Stage 2にダウンロードされます。Nord Stage 2のメモリー空き容量が足りない場合、本アプリケーションの画面左下のテキスト・エリアにメッセージが表示されます。

☀ ビュー・メニューのオーガナイズ・オプションがオンの場合、新しいサウンドをバンク内のどの空きロケーションでもドラッグ&ドロップできます。このオプションがオフの場合、新しいサウンドは自動的にバンク内の最初の空きロケーションに入ります。また、Nord Stage 2のモデル・セレクターで様々なロケーションを選択できます。

- ❶ ピアノ・サウンドはそれぞれカテゴリー別に分類され、それぞれ決められたバンクに入るようになっています。例えば、エレクトリック・ピアノはグランド・バンクには入れられません。同様に、グランド・ピアノはクラビネット・バンクには入りません。

- ① **ツールバーまたはメニュー・コマンドを使う方法**：ツールバーのSound Downアイコンをクリックします。ファイル・メニューにも同じコマンドがあります：Sound Download (Ctrl-D)
- ② ブラウズ画面からダウンロードしたいサウンドが入っているフォルダ、サウンドを選択し、Openをクリックします。これでサウンドはバンクに追加されます。

### ダウンロード・キュー

ドラッグ&ドロップでもツールバーやメニュー・コマンドによる方法でも、複数のサウンドを順々に追加することができます。これらのサウンドはダウンロード・キューに一旦入ります。必要に応じてNord Stage 2のメモリーが消去され、サウンドを追加した順にダウンロードが行われます。

- ① サウンドを追加したいパーティションを選択します。
- ② コンピュータのハードディスクから追加したいサウンドをNord Sound Managerのリストの空きエリアにドラッグします。
- ③ 別のサウンドをリストの空きエリアにドラッグします。

1	EPiano 1 Mk I Low Deep 5.1	6.2 MB	Downloading... (17%)
2	EPiano 2 Mk I ClosIdeal 5.1	5.9 MB	Queued
3	EPiano 3 Mk II Shallow 5.1	6.8 MB	Queued
4	EP5 Bright Tines CustomMod 5.1	14.8 MB	5.10
1	Wurlitzer 1 200A 5.0	5.9 MB	5.00
1	Clavinet D6 5.0	5.7 MB	5.00
2	Ital Harpsich 1B Long Stri 5.0	9.7 MB	5.00

ダウンロード・キューに入ったファイルは太字で表示されます。

- ④ ダウンロード待ちの状態をキャンセルしたい場合は、待ち状態のすべてのファイルをデリートするか、Cancelボタンをクリックします。Nord Stage 2側でメモリー・クリーン処理が始まっている分につきましては、キャンセルできません。

待ち状態のファイルをキューから削除するには、デリートしたいファイルを右クリックするか、ツールバーやメニューからデリート・コマンドを選択することで行えます。

☀ ダウンロード・キューにあるファイルは、ダウンロード・キュー処理中に移動または消去されません。

### サウンドをアップロードする

- ① コンピュータのハードディスクにアップロードしたいサウンドが入っているパーティションを開きます。
- ② バンクとサウンドを選択します。シフト・キーを押しながらクリックすると複数の隣り合ったファイルを選択でき、コントロール・キーを押しながらクリックすると複数の隣り合っていないファイルを選択できます。下図は複数のプログラムを選択した状態の例です。

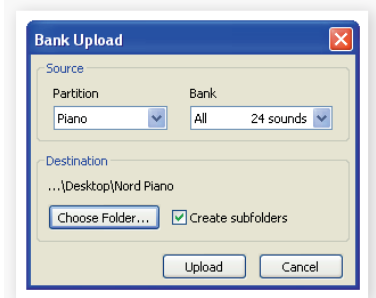
Loc	Name	Categor
1	The Grand	Grand
2	Eltons Piano	Grand
3	ZawiTines	EPiano
4	SparkleTop	EPiano
5	HardTines	EPiano

- ③ ツールバーのSound Upアイコンをクリックするか、選択したサウンドを右クリックしてUploadを選択します。するとブラウズ画面が表示され、サウンドのアップロード先を指定できます。なお、アップロード処理は選択したサウンドの容量によって時間がかかる場合があります。



## パーティション全体をアップロードする

- ① アップロードするパーティション(とバンク)がNord Sound Manager上で選択されていることを確認します。この後表示されるダイアログでバンクの変更もできます。
- ② ツールバーのBank Upをクリック、またはファイル/バンクメニューから Upload(Ctrl-Shift-U)コマンドを選択します。アップロードするバンクが正しいことを確認し、コンピュータのアップロード先を指定します。

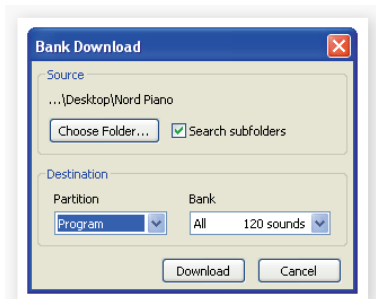


バンク・リスト下部にあるドロップダウンメニューからAllを選択することでバンク全体のサウンドを選択することも可能です。この場合も、パーティション全体がコンピュータにアップロードできます。

Create Subfoldersのオプションにチェックを入れてオンにすると、アップロード先のフォルダ内にパーティション/バンク/サウンドという階層構造を自動的に作成します。

## サウンドをNord Stage 2にダウンロードする

- ① ツールバーのBank Downをクリック、またはファイル/バンクメニューからDownload(Ctrl-Shift-D)コマンドを選択します。
  - ② ダウンロード先のバンクが正しいことを確認し、ダウンロードするフォルダ(コンピュータ側)を選択します。
- ❗ ダウンロードの最終確認をするダイアログにあるDownloadをクリックすると、指定したバンク(Nord Stage 2側)の内容が、ダウンロードするファイルと入れ替わります。



デスティネーション・バンクのドロップダウンからAllを選択すると、ダウンロードするファイル(サウンド)が入っているフォルダを階層構造ごとNord Stage 2にダウンロードできます。また、Search Subfoldersがオンの場合、階層構造のトップ・フォルダをダウンロードするファイルとしてブラウザできます。

## プログラム・パーティションを編集する

ドラッグ&ドロップで400プログラムあるプログラム・パーティションを編集することができます。

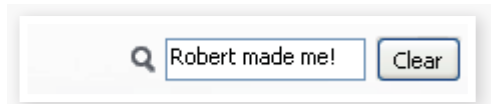
- ① ビューメニューのOrganizeがオンになっていることを確認します。
- ② 移動させたいプログラムを選択し、移動先へドラッグします。

プログラムを空きロケーションにドロップすると、プログラムは空きロケーションにムーブ(移動)します。また、プログラムを別のプログラムが入っているロケーションにドロップすると互いのプログラムの位置が入れ替わります。

- ③ プログラムを選択し、コントロールキーを押しながらドラッグするとプログラムがコピーされてドロップしたロケーションにペーストされます。

## サーチボックス

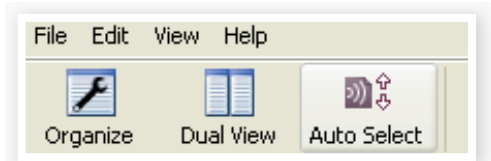
- ① サーチボックスに文字を入れて検索すると、該当したプログラムなどのサウンドのみがリストに表示されます。



これは名前が重複したプログラムを見付け出す時などに便利です。

## オート・セレクト

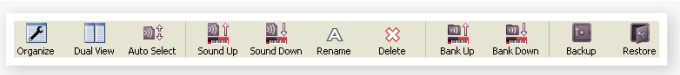
ツールバーのAuto Selectアイコンをクリックすると、オート・セレクト機能のオン/オフができます。



オート・セレクトがオンの場合、ピアノ・サウンドやプログラムをコンピュータの矢印キーでスクロールすることができ、カーソルが当たったサウンドはNord Stage 2上でも同時に選択された状態になります。

☛ Nord Sound Manager上でピアノ・サウンドやプログラムをダブルクリックすると、そのサウンドがNord Stage 2上でも選択された状態になります。

# サウンド・マネジャー・リファレンス ツールバー



## Organize

オーガナイズ機能がオンの場合、選択したパーティション/バンク内のすべてのサウンドだけでなく、空きロケーションも表示します。これで例えば、リストの中間部にある空きロケーションにファイルをドラッグすることが可能になります。この機能がオフの場合、リストに表示されるのはサウンドだけとなり、リスト内の編集はできません。

## Dual View

デュアル・ビュー機能がオンの場合、画面が2つのリストに分割して表示されます(プログラム・パーティションを選択している場合)。この時、ドロップダウン・メニューを使って2つのバンクを表示することができます。また、プログラムの入れ替えはドラッグ&ドロップで行えます。バンクをまたいだドラッグ&ドロップも可能です。

## Auto Select

オート・セレクト機能がオンの場合、ピアノまたはプログラム・リストをコンピュータの矢印キーでスクロールすることができ、選択したサウンドはNord Stage 2上でも選択された状態になります。

## Sound Up

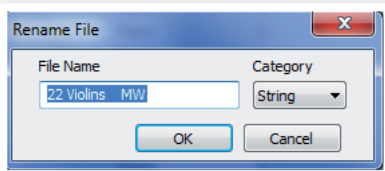
サウンド・アップ機能を使ってサウンドをNord Stage 2からコンピュータにアップロードできます。

## Sound Down

サウンド・ダウン機能を使ってサウンドをコンピュータからNord Stage 2の選択したパーティション内のメモリー可能ロケーションにダウンロードできます。

## Rename

リネーム機能を使ってプログラムの名前を変更することができます。最長16文字までの名前を付けることができ、使用できる文字はアルファベット(大文字/小文字)、0~9の数字、ハイフン(-)です。それ以外の文字はNord Sound Managerのリストに表示されません。



- ❗ ピアノとサンプルはリネームできませんので、それらを選択した時はこの機能は使用できません。

## Delete

デリート機能は、選択したサウンドを削除する機能です。実行前に最終確認のダイアログが表示されます。また、コンピュータのキーボードのバックスペースまたはデリート・キーでも削除できます。

- ❗ ピアノを削除すると、そのピアノを使用したすべてのプログラムで音が出なくなってしまうのでご注意ください。

ピアノを削除して空きスペースができた場合、そのスペースはすぐに別のサウンドに使用することはできません。これは、空きスペースができてそのスペースを完全にクリーンな状態にする処理を行わないと、別のデータを格納できないというフラッシュ・メモリーの特性によるものです。この処理は、ピアノを追加する際に自動的に行われますが、手動で行うこともでき、その場合はファイル・メニューからClean Deleted Spaceコマンドを選択します。

- ❗ Nord Stage 2本体の(PIANO TYPE)LEDとMODEL LEDが点滅している場合、そのプログラムで使用するピアノ・サウンドが本体のメモリーにない状態を示しています。この場合、別のピアノを使用したプログラムを選び直すか、必要なピアノ・サウンドをNord Stage 2にダウンロードしてください。

## Bank Up

バンク・アップ機能はピアノまたはプログラムのバンク全体をコンピュータにアップロードする機能です。デフォルトでは常にその時選択しているバンクがアップロードの対象になっていますが、もちろん別のパーティションやバンクを選択できます。Choose Folderボタンをクリックし、アップロード先を指定します。

Create Subfoldersオプションにチェックを入れてオンにすると、アップロード先のフォルダにアップロード元と同じ階層構造を自動的に作成します。

- ❗ アップロード先にアップロード元と同名のフォルダがある場合、そのフォルダにアップロード元のサウンドが保存されますのでご注意ください。

## Bank Down

バンク・ダウン機能を使ってコンピュータにあるピアノまたはプログラムのバンク全体をNord Stage 2にダウンロードすることができます。デフォルトのダウンロード先はその時選択されているバンクになりますが、別のパーティションやバンクも選択可能です。Choose Folderをクリックし、ダウンロードさせるフォルダを選択します。

- ⚠ この機能を実行すると、ダウンロード先のバンクの内容すべてがダウンロード元の内容に書き換わりますので、十分ご注意ください。

## Backup

バックアップ機能はNord Stage 2のメモリーにあるすべてのピアノ、プログラム、ライブ・プログラム、メニュー・セッティングが入ったバックアップ・ファイル(拡張子:.ns2b)を作成してコンピュータに保存する機能です。バックアップ・ファイルの作成は、インストールしているピアノの容量によって時間がかかることがあります。

- 💡 バックアップ・ファイルは、いわゆる増分法で作成されます。これは、以前すでにバックアップ・ファイルを作成していた場合、同じファイル名でバックアップを行うと、以前作成したバックアップ・ファイルから変更されたピアノやプログラムだけを以前のファイルに組み込む方式のことです。

最初にバックアップ・ファイルを作成する際に、本アプリケーションではバックアップ・ファイルの保存先を自動的にサジェストします(マイドキュメント/Nord Sound Manager files/)。他の場所に保存される際は、ブラウザ画面で別の保存先を指定します。

## Restore

以前に作成したバックアップ・ファイルをNord Stage 2に戻すのがレストア機能です。この機能を選択し、ブラウザ画面からバックアップ・ファイル(拡張子:.ns2b)を選択し、Openをクリックします。

- ⚠ Openをクリックし、最終確認のダイアログで確認すると、レストア機能が実行されます。この時、Nord Stage 2に入っているすべてのデータは消去され、バックアップ・ファイルの内容に入れ替わりますので、十分ご注意ください。

# メニュー

Nord Sound Managerでは、WindowsやMac OS Xのキーボードショートカットが使用できます。メニューはAltキーとメニューバーにある下線の文字を押してアクセスできます。

ほとんどのコマンドはコントロールキー(Macの場合はコマンドキー)を押しながら、メニュー内のコマンド名の次にある文字をタイプすることでアクセスできます。

## File

### Sound Upload (Ctrl+U)

サウンド・アップロードはNord Stage 2のメモリーにあるサウンドをコンピュータに転送(アップロード)する機能です。

### Sound Download (Ctrl+D)

サウンド・ダウンロードを使ってコンピュータにあるサウンドをNord Stage 2の選択したパーティション内のメモリー可能なロケーションに転送(ダウンロード)します。

### Bank Upload (Ctrl+Shift+U)

バンク・アップロードは、Nord Stage 2上の選択されたパーティションまたはバンク全体のサウンド(ピアノまたはプログラム)をコンピュータにアップロードするコマンドです。

Allを選択すると、パーティション内のすべてのバンクのサウンドがアップロードされます。また、Nord Stage 2のメモリー内の階層構造(パーティション/バンク/サウンド)もそのままアップロード先のフォルダ内に自動作成されます。

### Bank Download (Ctrl+Shift+D)

バンク・ダウンロードは、コンピュータにあるバンク全体(あるいはすべてのバンク)のサウンドをNord Stage 2にダウンロードするコマンドです。

❗ このコマンドを実行すると、選択したバンクのすべてのデータがNord Stage 2にダウンロードされます。

### Backup (Ctrl+B)

バックアップはNord Stage 2内のすべてのピアノ、サンプル、プログラム、ライブ・プログラム、メニュー・セッティングが入ったバックアップ・ファイルを作成し、コンピュータに保存するコマンドです。

このコマンドで作成されるファイル(バックアップ・ファイル)の拡張子は、.ns2bです。

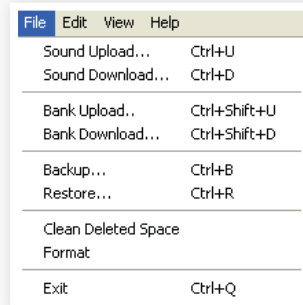
バックアップ・ファイルの作成は、Nord Stage 2に入っているピアノの要領によって時間がかかることがあります。

🔍 Nord Sound Managerでのバックアップ・ファイル作成は、いわゆる増分法と呼ばれる方式を採用しています。これは、前回作成したバックアップ・ファイルと同じファイル名でバックアップを実行した場合、前回分から変更された部分だけを前回のバックアップ・ファイルから変更する方式です。

### Restore (Ctrl+R)

レストアは以前に保存したバックアップ・ファイルをNord Stage 2に転送するコマンドで、バックアップ・ファイルを選択し、Openをクリックして実行します。

⚠ Openをクリックすると、最終確認のダイアログが表示され、そこで確認するとレストアがスタートします。この時、Nord Stage 2に入っていたすべてのデータは消去され、バックアップ・ファイルの内容に置き換わりますので、十分ご注意ください。



## Clean Deleted Space

クリーン・デLETED・スペースは、ピアノやプログラムを削除したあとのメモリー・スペースを完全にクリーンな状態にし、次にサウンドをメモリーできる状態にするコマンドです。

❗ 新たにピアノやプログラムをダウンロードすると、このコマンドが自動的に実行されますが、手動でも実行できます。

## Format

フォーマットは選択したパーティションのサウンドをすべて消去してしまう非常に危険なコマンドです。実行前に確認画面が表示されます。

## Exit (Ctrl+Q)

本アプリケーションを終了します。

## Edit

### Rename (Ctrl+N)

リネームはプログラムやシンセ・サウンドの名前を変更するコマンドです。最長16文字までの名前を付けられ、使用できる文字はA~Zのアルファベット(大文字/小文字)、0~9の数字、ハイフン(-)です。それ以外の文字はNord Sound Managerでは表示されません。

また、このコマンドでプログラムやシンセ・サウンドのカテゴリーを変更することができます。

❗ ピアノはリネームできません。ピアノを選択した時はこのコマンドは使用できません。

## Delete

デリートは、選択したアイテムをNord Stage 2のメモリーから削除するコマンドです。実行前に確認することができます。

## Select All (Ctrl+A)

セレクト・オールは、バンク/パーティション内のすべてのアイテムを選択するコマンドです。

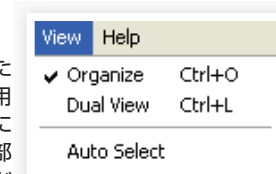
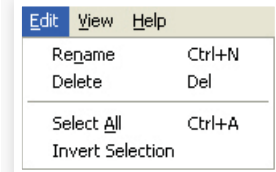
## Invert Selection

インバート・セレクションは、リスト内の最初に選択したアイテム以外のすべてを選択するコマンドです。

## View

### Organize (Ctrl+O)

オーガナイズにチェックが入ると、選択したパーティション/バンク内のサウンドと利用できる空きロケーションのすべてがリストに表示されます。これにより、リストの中間部などにある空きロケーションにサウンドをドラッグ&ドロップで移動させることなどができます。オーガナイズがオフの場合、空きロケーションは表示されません。



### Dual View (Ctrl+L)

デュアル・ビューにチェックが入ると、画面が2つのリストに分割して表示されます。これで、プログラムのコピーや移動などの編集作業が簡単に行なえます。ドロップダウン・メニューで2つのバンクを表示させることも可能です。プログラムの編集はドラッグ&ドロップで行え、2つのバンク/リスト間のプログラムの移動なども行えます。

🔍 コンピュータのキーボードのコントロール・キーを押しながらドラッグ&ドロップすると、選択したアイテムのコピーを行えます。

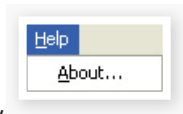
## Auto Select (Ctrl+K)

オート・セレクトがオンの場合、本アプリケーションのリスト上でコンピュータのキーボードの矢印キーでリストにあるサウンド(ピアノ、サンプル、プログラム)をブラウズすると、Nord Stage 2上でもそれらが自動的に選択された状態になります。

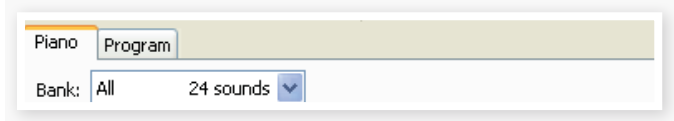
## Help

### About

アバウトを選択すると、本アプリケーションのバージョンが表示され、対応するNord製品とそのOSバージョンも表示されます。



## タブ



## Piano - Program

ピアノまたはプログラムのパーティションを選択します。コンピュータのキーボードのコントロール・キーを押しながらタブ・キーを押して表示を切り替えることもできます。また、ドロップダウン・メニューを使って各パーティション内の特定のバンクを選択することも可能です。各パーティションの内容はリスト形式で表示されます。

## Search Box

サーチ・ボックスを使ってサウンドを検索することができます。検索キーに該当したサウンドのみが表示されます。検索キーを消去する場合は、Clearをクリックします。すると再びすべてのアイテムが表示されます。

## Loc - Location

各バンクはロケーションが数多く集まって構成されています。ロケーションの数はバンクの種類によって異なります。

## Name

アイテムの名前です。

## Category

プログラムのカテゴリーを表示します。

## Size

ピアノのファイル・サイズを表示します。これは、ピアノ・パーティションのメモリ・残量をチェックする時などに便利です。なお、サイズはプログラム・リストには表示されません。

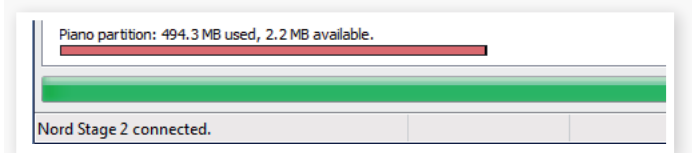
## Ver - Version Number

各サウンドの作成時のバージョン・ナンバーを表示します。古いOSで作成されたサウンドは新しいバージョンのフォーマットで使用できない場合がありますのでご注意ください。

## Info

インフォ・エリアはNord Stage 2のメモリ内のピアノにファイルの破損があった場合や、ファイルが読み込めなかった場合、予期せぬエラーが発生した場合などのエラー情報を表示します。

## Footer Area



フッタ・エリアは本アプリケーションの画面の下部にあります。

## Partition Memory Indicator

パーティション・メモリー・インジケータは、選択したパーティションのメモリーの使用状況を表示します。赤いエリアは使用中のメモリーで、緑のエリアは新たにサウンドを追加できる空きスペースです。

## Cancel Button

キャンセル・ボタンを使用すると、コマンドなどの処理を中止できます。なお、レストア処理中はキャンセル・ボタンは使用できません。

## Progress Bars

プログレス・バーは上下2段構成で、上のバーは個々の処理の進行状況を、下のバーはタスク全体の進行状況をそれぞれ表示します。

## Message/Text Area

テキスト・エリアの左側は本アプリケーションのエラー・メッセージや確認事項が表示されます。

右側のパートはNord Stage 2とコンピュータ、本アプリケーションとの通信状況を表示します。また、Nord Stage 2のOSバージョンもここに表示されます。

## 最新アップデートやサウンド

Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)では最新版のNord Sound ManagerやNord Stage 2向けの新しいサウンドなどをご用意し、みなさまのアクセスをお待ちしております。これらのアイテムはライブラリー・エリアから無料でダウンロードできます。

# 13 MIDI

## MIDIインプリメンテーションについて

Nord Stage 2 では、次の MIDI メッセージの送受信が行えます。

### ノート・オン/オフ

- ・ノート・オンおよびノート・オフの送受信

### ピッチ・ベンド

- ・ピッチ・ベンド・メッセージの送受信

### コントローラー

MIDIメニュー(44ページをご参照ください)で、Nord Stage 2 が送受信できるコントロール・チェンジ・メッセージを選択できます。

- ・コントロール/エクスプレッション・ペダルを〔ORGAN SWELL〕インプットに接続した場合、コントローラー4として送受信が行えます。
- ・コントロール/エクスプレッション・ペダルを〔CONTROL PEDAL〕インプットに接続した場合、コントローラー11(エクスプレッション)として送受信が行えます。
- ・サスティン・ペダルを〔SUSTAIN PEDAL〕インプットに接続した場合、コントローラー64(サスティン・ペダル)として送受信が行えます。
- ・その他のフロント・パネル上にあるほとんどのノブやボタンなどのコントローラーも、コントロール・チェンジ・メッセージの送受信ができ、MIDIシーケンサーなどにこれらのコントローラーの動きをレコーディングすることができます。各コントローラーとコントローラー・ナンバーの対応につきましては、55ページをご参照ください。

### キーボード・ベロシティ

Nord Stage 2 は、キーボード・ベロシティ・メッセージの送受信ができます。オルガン・サウンドは、受信したMIDIベロシティ・データに関係なく常に一定のレベルで発音します。また、リリース・ベロシティの送信はできませんが、受信はできません。

### アフタータッチ

Nord Stage 2 のキーボードはアフタータッチ・メッセージ(チャンネル・プレッシャーとも呼ばれます)の送信を行います。アフタータッチは鍵盤を弾いてさらに鍵盤を押し込むと発生し、パラメーターをコントロールする信号に使用できます。

### プログラム・チェンジ

MIDIメニューで、プログラム・チェンジ・メッセージの送信または受信(あるいはその両方)の設定が行えます。プログラム・チェンジ・メッセージの0~99で選択したバンクのプログラムに、100~104で5個のライブ・メモリーにそれぞれ対応しています。

### バンク・セレクト

Nord Stage 2 の4つのプログラム・バンクは、バンク・セレクト・メッセージ(CC 0, value 0, CC 32 value 0, 1, 2, 3(0~3はバンクA~D))を受信することで選択することができます。Nord Stage 2 のバンク、プログラムをMIDI経由で選択する場合、バンク・セレクトをプログラム・チェンジ・メッセージ(0~99)の直後に続くようにします。

## Nord Stage 2とMIDIについて

Nord Stage 2 のMIDI機能は、可能な限りフレキシブルになるように設計されています。MIDIを使うシチュエーションには様々なシーンが考えられますが、ここでは代表的な4つのシナリオをご紹介します。

### 外部MIDI機器をコントロールする

Nord Stage 2 のエクスターナル・セクションは、本機をマスター・キーボードとして外部MIDI機器をライブ時などの機材セットに簡単に組み込めるように設計されたものです。そのため、エクスターナル・セクションのほとんどパラメーターはプログラムごとに保存することができ、本機でプログラムを切り替えた時に外部MIDI機器のセッティングも自動的に変更できるよう、様々なMIDIメッセージを送信することができます。

エクスターナル・セクションは、他のインストゥルメント・セクションと同様にスプリットやレイヤーを作成することができます。また、鍵盤を使用せず、フロント・パネルのみをコントローラーとして使用するセッティングなど、自由度の高い設定を行えます。さらに、2つのスロットを使用すれば、2台の外部MIDI機器をコントロールすることも可能です。

スロットA/Bでそれぞれ異なるMIDIチャンネルを設定できます。「Off(デフォルト値)」以外の設定にすると、そのチャンネルでMIDIメッセージを送信します。

### 外部MIDIキーボードを使用する

Nord Stage 2 は、外部MIDIキーボードからコントロールしたり、本機のキーボードと併用することも簡単に行なえます。最もシンプルな方法はデュアルKB機能です。デュアルKBをオンにすると、本機のキーボードでスロットAを、外部キーボードやペダル鍵盤、あるいはシーケンサーなどでスロットBを演奏できます。

この時に必要となるのは、デュアルKBのMIDIチャンネルがお使いの外部キーボードと合っているかどうか、そして使用するプログラムでデュアルKB機能がオンになっているかどうかの2点を確認するだけです。デュアルKB機能の詳細につきましては15ページをご参照ください。

### MIDIでレコーディングする

デフォルトではスロットA/BのMIDIチャンネルは1と2に設定されています。これは本機での演奏をMIDIでレコーディングし、再生したときにMIDIチャンネルを変更しなくてもそのまま再生できるようにするためです。

鍵盤の演奏だけでなく、ペダルやモジュレーション・ホイール、ピッチ・スティック、フロント・パネルのノブやボタンの動きもMIDIでレコーディングすることができます。

シーケンサーの設定が、入力されたMIDIデータを自動的に本機に戻すようになっている場合、Nord Stage 2 側でMIDIローカルをオフにし、本機の鍵盤部と音源部が接続されていない状態にする必要がある場合もあります。

## Nord Stage 2を音源として使う

本機のインストゥルメント・セクションはそれぞれ別のMIDIチャンネルで受信することができます。つまり、2つのピアノ・パート、2つのシンセ・パートに二段鍵盤のオルガン・パートという複雑なアレンジを作ることが可能なのです。本機をマルチティンバー音源として使用する際のヒントをいくつかご紹介しましょう：

- パネルA、BのMIDIチャンネルをオフにします。
- 各インストゥルメントのMIDIチャンネルをそれぞれ別のチャンネルにします(オルガンA、オルガンB、ピアノA、ピアノB、シンセA、シンセB)。
- [SHIFT] ボタンを押しながら[KB ZONE SELECT] ボタンを押してMIDI Input Only モードにします。この設定はインストゥルメントごとに行います。MIDI Input Onlyモードになると、[KB ZONE SELECT] ボタンにある緑のLEDがすべて消灯します。
- エクスターナル・セクションをオンにし、MIDIチャンネルを選択します。これでエクスターナル・セクションからシーケンサーやコンピュータにMIDIデータを送信できます。
- シーケンサーの各MIDIトラックのMIDIチャンネルをNord Stage 2の各インストゥルメントのMIDIチャンネルと合わせます。シーケンサーの各MIDIトラックのMIDIチャンネルが変更できない場合は、エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルを、音源として使用したい本機のインストゥルメント・セクションと同じチャンネルに設定します。

## ローカル・オン/オフ

ローカル・オフは本機の鍵盤部と音源部が接続されていない状態にする設定です。これは例えば、本機からMIDIシーケンサーにMIDIデータを送り、シーケンサーから本機にMIDIデータがそのまま「エコー・バック」された際にMIDIがループしてしまい、データが2重になってしまう「ダブルトリガー」現象を防ぎたい時などに使用します。ローカル・オン/オフの設定はMIDIメニューで行います。詳しくは44ページをご参照ください。

## パニック

Nord Stage 2がMIDI セットアップ中に音が止まらなくなってしまうたら、[SHIFT] ボタンを押しながら[PANIC] ボタンを押します。この操作をすると、内部的にオール・ノート・オフが生成され、止まらなくなった発音を強制的に停止させます。

## USB MIDI

Nord Stage 2とシーケンサーを接続するには、2通りの方法があります。ひとつはMIDI端子同士をMIDIケーブルで接続するトラディショナルな方法、もうひとつはコンピュータなど、MIDI端子のないシーケンサーと接続するためにUSBポート同士をUSBケーブルで接続する方法です。

Windows XP、Vista、Windows 7のコンピュータをお使いの場合、Nord v3.x USB Driverが必要となります。このドライバーはコンピュータをNord Stage 2と接続し、インターネットに接続してWindowsアップデートで入手することができます。また、本機の付属DVDやNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からも入手できます。

- ❶ Mac OS Xをご使用の方は、特にドライバーは不要です。

# MIDIコントローラー・リスト

Nord Stage 2 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Organ Preset II	3
Organ Swell	4
Organ Drawbar 1	9
Organ Drawbar 2	14
Organ Drawbar 3	15
Organ Drawbar 4	16
Organ Drawbar 5	17
Organ Drawbar 6	18
Organ Drawbar 7	19
Organ Drawbar 8	20
Organ Drawbar 9	21
Organ Percussion Enable	22
Organ Model	23
Organ Vibrato Type	24
Organ Vibrato Enable	25
Organ Percussion Harmonic	26
Organ Percussion Speed	27
Organ Percussion Level	28
Organ Octave Shift	99
Organ Level	100
Organ Enable	101
Piano Type	8
Piano Model	29
Piano Slot Detune	5
Clav EQ 1	30
Clav EQ 2	31
Clav Model/Type	65
Piano Dynamics	33
Piano Acoustic	98
Piano Octave Shift	105
Piano Level	106
Piano Enable	107
Piano Pedal Noise	108
Synth Octave Shift	111
Synth Level	112
Synth Enable	113
Synth Glide Rate	34
Synth Arp On/Off	109
Synth Arp Mst Clk	12
Synth Arp Rate	102
Synth Arp Pattern	103
Synth Arp Range	104
Synth Voice Mode	36
Synth Unison	37
Synth Vibrato Mode	38
Synth Mod Envelope Attack	39
Synth Mod Envelope Decay	40
Synth Mod Envelope Mode	41
Synth Mod Envelope Velocity	42

Nord Stage 2 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Synth LFO Rate	115
Synth LFO Waveform	116
LFO Master Clk	13
Synth Oscillator Mode	43
Synth Oscillator Shape	45
Synth Oscillator Shape Mod	46
Synth Filter Frequency	48
Synth Filter Resonance	49
Synth Filter Vel/Env Mod	2
Synth Filter LFO Mod	51
Synth Filter KBD (KB Track)	52
Synth Filter Type	53
Synth Amp Envelope Attack	54
Synth Amp Envelope Decay	55
Synth Amp Envelope Mode	56
Synth Amp Envelope Velocity	57
Effect 1 Type	60
Effect 1 Source	61
Effect 1 Amount	62
Effect 1 Rate	63
Effect 1 Enable	69
Effect 1 Mst Clk	117
Effect 2 Type	70
Effect 2 Source	71
Effect 2 Amount	72
Effect 2 Rate	73
Effect 2 Enable	74
Effect 2 Mst Clk	118
Delay Destination	75
Delay Amount	76
Delay Rate	77
Delay Feedback	78
Delay Ping Pong on/off	79
Delay Enable	80
Delay Mst Clk	119
AmpSim Type	81
AmpSim Destination	90
AmpSim Drive	83
AmpSim Bass EQ	84
AmpSim Mid amount EQ	85
AmpSim Mid Rage	6
AmpSim Treble EQ	86
AmpSim Enable	87
Rotor Destination	88
Rotor Drive	89
Rotor Speed	82
Rotor Stop	91
Rotor Enable	92
Compressor Amount	93
Compressor Enable	94

Nord Stage 2 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Reverb Amount	95
Reverb Size	96
Reverb Enable	97
Pedal Sustain	64
Pedal Latch	66
Pedal Soft	67
Organ Swell Pedal	4
Ctrl Pedal	11
Rotor Speed Pedal	82

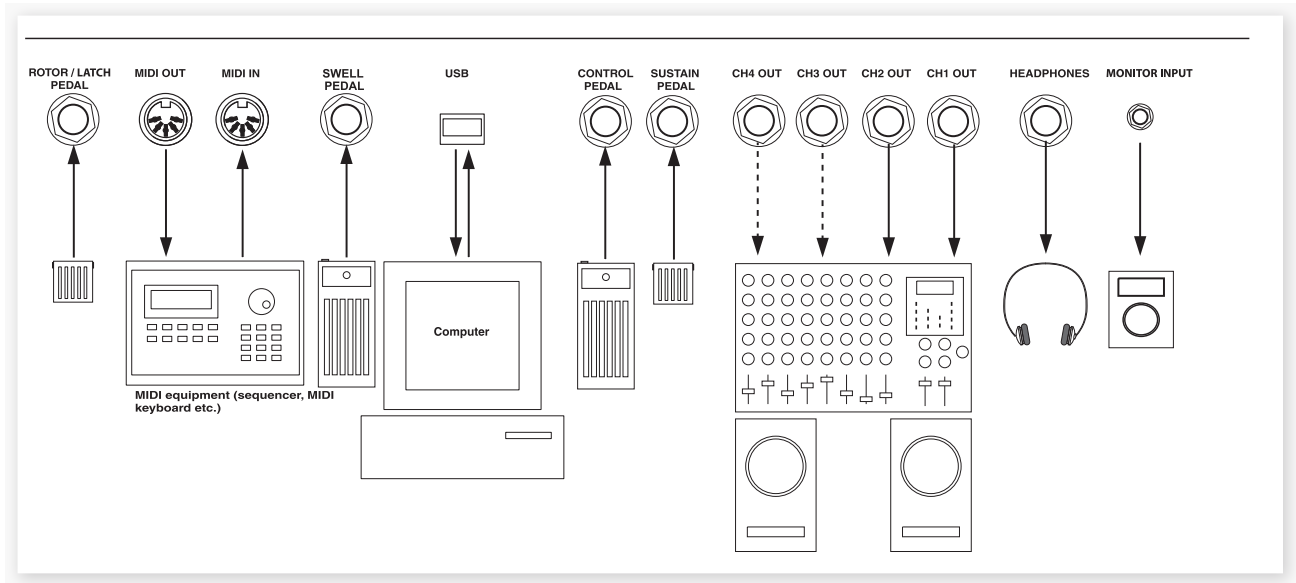
## MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル		1-16	1-16	
デフォルト・チャンネル		1-16	1-16	
モード	デフォルト メッセージ その他	モード3 ×	モード3 ×	
ノート・ナンバー	トゥルー・ボイス	0-127	0-127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○、v = 1-127 ○、v = 1-127	○、v = 1-127 ○、v = 1-127	
アフタータッチ	キー チャンネル	×	×	
ピッチ・ベンダー		○	○	
コントロール・チェンジ		○	○	
プログラム・チェンジ		○、1-127	○、1-127	
トゥルー				
システム・エクスクルーシブ		○	○	
システム・コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×	×	
システム・リアルタイム	クロック コマンド	×	×	
その他	ローカル・オン / オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センス リセット	×	×	
ナンバー	トゥルー・ボイス			

Mode 1: Omni On, Poly - Mode 2: Omni O, Mono - Mode 3: Omni Off,  
Poly - Mode 4: Omni Off, Mono - O = Yes - X = No



# 付録:接続について



## オーディオの接続

### ヘッドフォン

ヘッドフォンを接続します。ジャックは標準ステレオ・ジャックです。

### オーディオ・アウト1-4

4つのオーディオ・アウトプット(CH OUT1~4)はすべてライン・レベルのアンバランス接続です。本機をオーディオ機器にステレオで接続する場合、CH1およびCH2を使用します。ジャックはすべて標準ジャックです。接続はオーディオ・ケーブルでアンプやレコーディング機器に接続します。

CH3およびCH4はインディビデュアル・アウトとして、ステレオまたはモノラルで使用できます。この設定はシステム・メニューで行います(42ページをご参照ください)。

オーディオ接続の原則:

- すべての接続が済んでからアンプの電源を入れます。
- 電源を入れる時は、アンプの電源を最後に入れます。
- 電源を切る時は、アンプの電源を最初に切ります。

△ 大音量での使用は、難聴など聴覚に重大な問題を引き起こす恐れがありますので、音量には十分ご注意ください。

### モニター・イン

メトロノームやMP3プレイヤー、CDプレイヤーなどをこの端子に接続し、本機のヘッドフォンからモニターすることができます。メトロノームを使った練習や、MP3やCDの好きな曲に合わせて演奏できます。端子はミニステレオ・ジャックです。

- ① モニター・インに入ったオーディオ信号は本機のエフェクト・セクションには入りません。また、本機のアウトプット1~4にも流れず、ヘッドフォンでのみモニターできます。

## USBの接続

Nord Stage 2のOSアップデートやNord Sound Managerを使ってピアノ・サウンドを入れ替える時に、本機とコンピュータをUSB接続します。

また、Nord Stage 2はUSBインターフェイスを経由してMIDIデータの送受信が行えます。

- ① Microsoft Windows OS(XP, Vista, 7)を使用しているコンピュータと本機をUSB接続するには、USBドライバーが必要になります。このドライバーは本機をコンピュータをUSBケーブルで接続し、インターネットに接続すると、自動的にインストールされます。手動でインストールする場合は、本機の付属DVDに収録されているUSBドライバーを、またはNord ウェブサイト([www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com))からダウンロードできます。

## MIDIの接続

### MIDI IN

外部キーボードやコンピュータなどからMIDIデータを受信する場合、MIDI IN端子を使用します。

### MIDI OUT

本機のキーボードやパネルから外部のMIDI音源モジュールやコンピュータなどにMIDIデータを送信する場合、MIDI OUT端子を使用します。

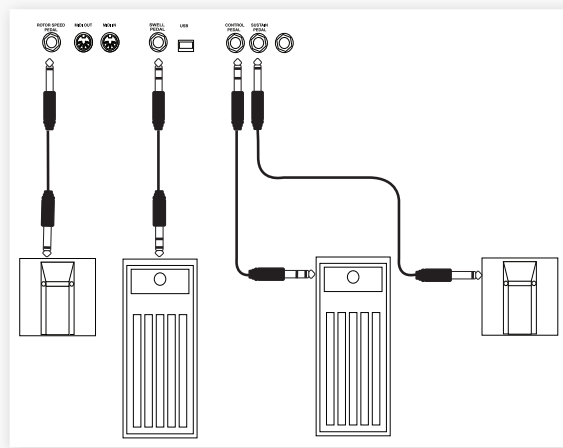
## 譜面台

Nord Stage 2 HA88、HA76モデルには、譜面台(Music Stand EX: 別売オプション)用取り付けブラケットがリアパネルに付いています。

## ペダルを接続する

Nord Stage 2には4つのペダル・インプットがあります(コントロール・ペダル・インプット(本機の様々なパラメーターにアサインしてコントロールします)、オルガン・スウェル・インプット、サスティン・ペダル・インプット、ローター/ラッチ・インプット)。また、インストゥルメント別に効果のオン/オフ切替ができます。接続方法は下図を参考にしてください。

コントロール・ペダル・インプットやオルガン・スウェル・インプットに接続するエクスペッション・タイプのペダルを接続する時には、ステレオ・プラグ仕様のステレオ・ケーブルをご使用ください。また、ペダル側のジャックもステレオ・ジャックであることをご確認ください。エクスペッション・ペダルは各社各モデルで特性が異なり、本来はペダルの特性に合わせて設定を変更する必要がありますが、簡単に設定できるように主なペダル(Roland、Yamaha、Korg、Fatar)のプリセットを本機に内蔵しました。これらのペダルをご使用の際は、システム・メニューでプリセットを選ぶだけで設定は完了です。詳しくは43ページをご参照ください。



## オルガン・スウェル・インプット

エクスペッション・ペダルをオルガン・スウェル・インプットに接続することができます。B3オルガン・モデルでは、スウェル・コントロールによる音量変化はもちろんのこと、周波数特性も微妙に変化するところまで忠実に再現しています。また、オルガン・スウェル・インプットにペダルでNord Stage 2の全体音量もコントロールしたい場合は、システム・メニューで設定することも可能です。

## ローター・スピード・ペダルを使用する

ローター/ラッチ・インプットにペダルを接続してロータリー・エフェクトのロー/ストップとファストを切り替えることができます。この設定がデフォルト設定ですが、この端子に接続したペダルでホールドやトルグル・モードで使いたい場合は、システム・メニューで設定することも可能です。

## ラッチ・ペダルを使用する

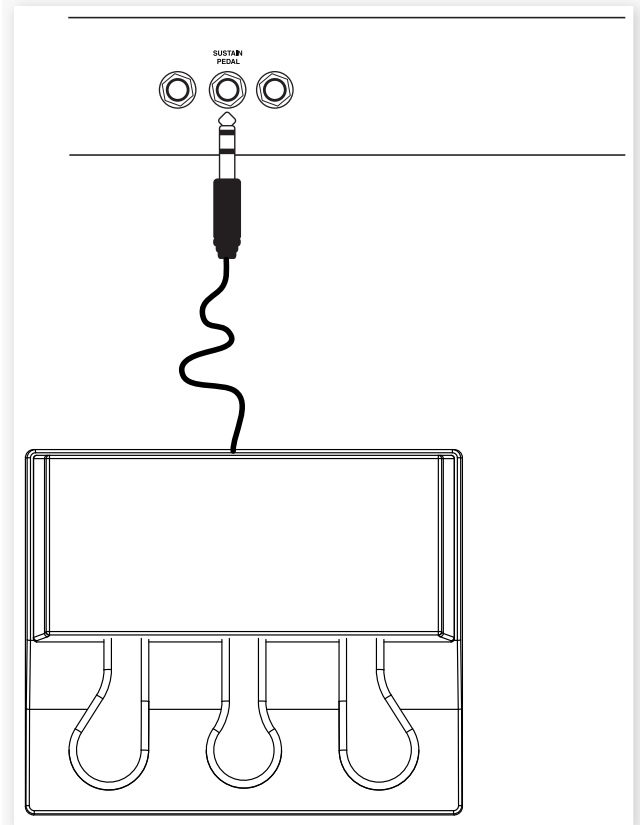
ローター/ラッチ・インプットにモーメンタリー・ペダルを接続して、選択したインストゥルメントのラッチ・ペダルとして使用できます。この機能はインストゥルメントごとにオン/オフ設定がシステム・メニューで行えます。

## サスティン・ペダル

Nord Stage 2にはサスティン・ペダル・インプットがあります。このインプットにNordペダル(HA88、HA76モデルに付属)やRoland DP-6、Yamaha FC-4などの一般的なモーメンタリー・ペダルを接続します。

## Nord Triple Pedal

Nord Stage 2はNord Triple Pedal(別売オプション)に対応しています。このペダルを接続して使用するには、システム・メニューでの設定が必要となります。詳しくは42ページをご参照ください。



Nord Triple Pedalの標準ステレオ・コネクターを本機のサスティン・ペダル・インプットに接続します。

## 3つのペダル

Nord Triple Pedalは、3つのペダルを1つのユニットにまとめた多機能ペダルです。

右のペダルはサスティン・ペダルです。このペダルを踏むと、ペダルを離すまですべての音にサスティンがかかります。このペダルはまた、ペダル・ノイズ機能やハーフ・ペダル機能もサポートしています。

左のペダルはソフト・ペダル、別名ウナ・コルダです。このペダルを踏むと、すべての音の音量がわずかに小さくなり、同時に音色も少しだけ柔らかくなります。

センターのペダルはソステヌート/ラッチ・ペダルです。このペダルを踏むと、その時弾いていた音だけにサスティンがかかり、その他の音にはサスティンがかかりません。

この機能はインストゥルメントごとにオン/オフを設定できます。[SHIFT] ボタンを押しながら、設定したいインストゥルメントの右の[OCTAVE] ボタンを押します。[LATCH PED] LED が点灯したら設定完了です。

# II 付録:ファクトリー・プリセット

## ファクトリー・プリセットとOS

### インターナル・メモリー

Nord Stage 2のオペレーティング・システム、プログラム、ピアノ、サンプルはフラッシュ・メモリーに内蔵されています。フラッシュ・メモリーは電源を切ってもメモリー内容をキープし続けるメリットがあるほかに、メモリーの内容をいつでも書き換えることができるという大きなメリットもあります。つまり、OSのアップグレードやプログラムをコンピュータやシーケンサーから本機にダウンロードすることができ、しかもハードウェアの交換などは一切不要なのです。本機はまた、USB端子を装備し、ピアノやサンプルのダウンロードもクイックかつ簡単に行なえます。本機のメモリー容量はピアノ用が約500MB、サンプル用が約384MBあります。

Nord Stage 2の内蔵サウンド・メモリーは4バンク、20ページ、5プログラムの合計400プログラムです。また、5個のライブ・プログラムがあり、これらはエディットをするとその場で自動的に保存作業を行い、電源を切ってもその内容がキープされます。さらに、シンセ・セクションは独自に300個のシンセ・サウンドをメモリーすることができます。

Nord Stage 2は、工場出荷時の状態ではプログラム・バンクAと同じ内容がバンクDにも保存されていますので、どちらかのバンクをエディットして上書き保存しても、どちらかはファクトリー・プリセットのまま残すことができます。

### ファクトリー・プリセット

Nord Stage 2のファクトリー・プログラムはすべて書き換え可能です。キープしておきたいプログラムを誤って上書きしてしまうことがないように、定期的にプログラムのバックアップをコンピュータにとっておくことをお勧めします。この作業はNord Sound Managerで行えます。

### 工場出荷時の状態に戻す

Nord Stage 2の工場出荷時のメモリー内容は、本機の付属DVDにNord Sound Managerのバックアップ・ファイル形式で収録されています。また、Nord ウェブサイト([www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com))からダウンロードすることも可能です。バックアップ・ファイルのレストア作業の詳細につきましては、50ページのNord Sound Managerチャプター、「Restore」の項目をご参照ください。

### OSアップグレード

Nord Stage 2の最新オペレーティング・システムはNordウェブサイト([www.nordkeyboards.com](http://www.nordkeyboards.com))からダウンロードできます。最新OSには機能の改良の他に新機能が追加されることもありますので、定期的にNordウェブサイトをチェックされることをお勧めします。

# 索引

## 英数

B3モデル 23  
 B3ビブラート 24  
 Farfisaモデル 25  
 FMアルゴリズム 31  
 KBゲート 21  
 KBトラック 33  
 KBゾーン・セレクト 20  
 LFO 34  
 MIDIイン 57  
 MIDIインジケータ 17  
 MIDIアウト 57  
 Voxモデル 25

## ア行

アコースティック 28  
 アタック 34  
 アップロード 48  
 アルペジエーター 35  
 アルペジオ 35  
 アンブ・エンベロープ 34  
 アンブ・シミュレーター 38  
 アンブ・モデル 38  
 イグジット 16、51  
 イコライザー 38  
 インサート 18  
 インバート・セクション 51  
 インフォ 52  
 ウェーブフォーム・セクター 30  
 ウェーブテーブル 32  
 エクスターナル・メニュー 44  
 エクスターナル・セクション 40  
 エフェクト 26、35  
 オートパン 37  
 オートワウ 37  
 オシレーター(シンセサイザー) 29  
 オシレーター・シンク 30  
 オクターブ・レンジ(アルペジオ) 35  
 オクターブ・シフト 21  
 オルガン・イニシャルイズ 18  
 オルガン・スプリット 18  
 オルガン・プリセット 24  
 オルガン・モデル 23  
 オン/オフボタン 20

## カ行

カーソル 18  
 カテゴリー 17  
 キャンセル 52  
 キュー 48  
 グライド 35  
 クラビネット 27  
 クラビネットEQ 28  
 クリーン・デリーテッド・スペース 51  
 コーラス 38  
 コンプレッサー 39

## サ行

サイズ 52  
 サウンド・アップ 50  
 サウンド・アップロード 51  
 サウンド・イニシャルイズ 35  
 サウンド・ダウン 50  
 サウンド・メニュー 43  
 サステイン・ペダル 21  
 三角波 30  
 サンプル 32  
 シェイプ 29  
 シェイプ・モジュレーション 30  
 システム・メニュー 42  
 シフト 16  
 シンセ・イニシャルイズ 18  
 スキップ・サンプル・アタック 32  
 ストップ・モード 39  
 スtring・レゾナンス 28  
 String・レゾナンス・レベル 43  
 スプリット・キーボード 19  
 スロット・ボタン 15  
 スロット・デチューン 28  
 スロット・エフェクト 36  
 セレクト・オール 51  
 ソート・モード 18  
 ソステヌート 7、28、58

## タ行

ダイナミクス 28  
 ダウンロード 49  
 ディケイ 34  
 ディレイ 38  
 ディレクション 35  
 デュアルKB 15、22  
 デュアル・スロット 21  
 デリート 18、50、51  
 転送する 48  
 ドライブ 38  
 トランスポーズ 15  
 トリプル・ペダル 28  
 トレモロ 37  
 ドローバー 23

## ナ行

ノイズ 30  
 ノコギリ波 30  
 ノッチ 33

**ハ行**

パーカッション 24  
 パーティション・メモリー 52  
 ハーフ・ペダリング 58  
 ハイパス 33  
 バイブ 38  
 パニック 16  
 バックアップ 50、51  
 バリュー・ダイアル 17  
 パルス波 30  
 バンドパス 33  
 バンク・ダウン 50  
 バンク・ダウンロード 51  
 バンク・アップ 50  
 バンク・アップロード 51  
 ピアノ 27、28  
 ピアノ・イニシャルイズ 18  
 ピアノ・セレクト 27  
 ピアノ・モデル 27  
 ピッチ・スティック 21  
 ビブラート 35  
 ピンポン 38  
 フィルター 32  
 フィルター・フリケンシー・モジュレーション 33  
 フェイザー 38  
 フォーカス・ボタン 37  
 フォーマット 51  
 フランジャー 38  
 フリケンシー 33  
 フリケンシー・モジュレーション 31  
 プログラム 25  
 プログラム・ボタン 16  
 プログレス・バー 52  
 ペダル・ノイズ 28  
 ヘッドフォン 57  
 別名で保存 16  
 ベロシティ 34  
 ボイス 34  
 保存 16

**ヤ行**

ユニゾン 35

**ラ行**

ラッチ・ペダル 21  
 レガート・モード 35  
 レベル・エンコーダー 20  
 ライブ・モード 16  
 ロード・サウンド 32  
 ロケーション 52  
 ローパス 32  
 リリース 34  
 リネーム 50、51  
 レゾナンス 33  
 レストア 50、51  
 リバーブ 39  
 リング・モジュレーション 37  
 ロータリー 39

**ワ行**

ワウ 37

**マ行**

マスター・レベル 59  
 モジュレーション・エンベロープ 33  
 モニター・イン 57  
 モノ・モード 34  
 モノ・アウトプット 15  
 モーフ・アサイン 19  
 モーフの消去 19  
 モーフ・デスティネーション 19  
 マスター・クロック 18、37

# Nord Stage 2 仕様

## 一般

- マスター・レベル・コントロール
- 木製ピッチ・スティック
- モジュレーション・ホイール
- 400プログラム：4バンク x 20ページ x 5プログラム
- プログラム・カテゴリー
- プログラム・ソート・モード：ナンバー、ABC、カテゴリー
- ライブ・パッド x 5
- スロット・セットアップ x 2
- モーフ・ソース x 3：モジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、アフタータッチ
- グローバル・モノ・アウトプット
- プログラム・トランスポートズ：±6半音
- マスター・クロック機能：マニュアル、外部MIDIクロック、タップ・テンポ
- 内部及び外部MIDIクロック・ソース
- USB-MIDI機能

## オルガン・セクション

- B3トーンホイール・オルガン、Vox Continental、Farfisaモデル、全鍵発振
- デジタル・コントロール式ドローバー x 9
- パーカッション・コントロール
- ピブラート/コーラス・コントロール
- 1プログラムにつき2つのドローバー・セッティング
- 2パート・マルチティンバー(デュアル・マニュアル(二段鍵盤)モード)

## ピアノ・セクション

- メモリー容量：約500MB
- アコースティック・グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、Wurlitzer A200エレクトリック・ピアノ、クラビネットD6、ハーブシコード、エレクトリック・グランド・ピアノ(CP-80含む)
- 最大同時発音数：40~60ボイス
- ペロシティ・カーブ x 4
- クラビネットEQコントロール
- スtring・レゾナンス機能(第2世代)：アコースティック・グランド・ピアノ、アップライト・ピアノで使用可能
- セレクトابل・ピアノ・リリース機能
- ペダル・ノイズ機能(Nord Triple Pedal(別売オプション)にて使用可能、アコースティック、エレクトリック・ピアノで使用可能)
- スロット・デチューン機能
- 2パート・マルチティンバー

## シンセ・セクション

- サンプル・プレイバック・シンセシス：メモリー容量約380MB、最大999サンプル・インストゥルメント
- アナログ・シンセシス：マルチブル・ウェーブフォーム(デュアルSaw、ハード・シンク、PWMを含む)
- FMシンセシス：2または3オペレーター式FMシンセシス
- ウェーブテーブル・シンセシス：62波形
- 最大同時発音数：18ボイス
- ユニゾン・コントロール：発音数に影響なく使用可能
- エンベロープ・ジェネレーター：アンプ用、モジュレーション用で各1基
- フィルター部：12/24dBローパス、ハイパス、バンドパス、ノッチ、レゾナンス付き
- LFO：4波形(矩形波、三角波、ランプ波、サンプル&ホールド)、マスター・クロックと同期可能
- 300パッチ・メモリー
- アルペジエーター：アップ、ダウン、アップ&ダウン、ランダム レンジ：1~4オクターブ、マスター・クロックと同期可能
- 2パート・マルチティンバー

## グローバル・パラメーター

- レベル・コントロール
- ゾーン(スプリット・アサイン)コントロール

## エフェクト・セクション

- エフェクト1：Ring Modulator、Tremolo、Pan、Wah、AutoWah1、Autowah2
- エフェクト2：Flanger、Vibe、Phaser x 2、Chorus x 2
- デイレイ：ピンポン・モード(ステレオ・タップ)可能、タップ・テンポ
- スピーカー・シミュレーション：JC、Twin、Small
- オーバードライブ付きチューブ・アンプ・シミュレーション
- 3バンドイコライザー：Bass 100Hz、Mid 200Hz~8 kHz、Treble 4kHz)
- ロータリー・スピーカー：3スピード(Stop、Slow、Fast)、オーバードライブ
- エフェクトのRate/Tempoはマスター・クロックと同期可能

## マスター・エフェクト

- コンプレッサー
- リバープ：6タイプ(Hall1、2、Stage1、2、Room1、2)

## キーボード

- HA88/HA76モデル：ハンマー・アクション・ウェイトド・キーボード88鍵(A~C)、76鍵(E~G)
- SW73モデル：セミ・ウェイトド・ウォーターフォール・キーボード73鍵(F~F)
- アフタータッチ
- 3スプリット・ゾーン対応(LEDポジション・インジケーター付き)

## 接続端子

- 4アサインブル・オーディオ・アウトプット：標準ジャック(アンバランス)
- ヘッドフォン・アウト：標準ステレオ・ジャック
- モニター・インプット：ミニステレオ・ジャック
- サスティン・ペダル・インプット：標準ジャック(Nord Sustain Pedal、Korg DS-1H、Roland DP-2、DP-6、Yamaha FC-4、FC-5等のモーメンタリー・ペダルを使用)、サスティン・ペダル・インプットはNord Triple Pedal(別売オプション)に対応
- ローター・ペダル・インプット：標準ジャック(モーメンタリー・ペダルまたはスイッチ・タイプのペダルを使用)
- オルガン・スウェル・インプット：標準ステレオ・ジャック(Korg EXP-2、XVP-10、Roland EV-5、Yamaha FC-7等のエクスプレッション・ペダルを使用)
- コントロール・ペダル・インプット：標準ステレオ・ジャック(Korg EXP-2、XVP-10、Roland EV-5、Yamaha FC-7等のエクスプレッション・ペダルを使用)
- MIDI IN、MIDI OUT
- USB：タイプBコネクタ
- 電源コード・コネクタ

## 付属品

- ダストカバー(HA88/76のみ)
- サスティン・ペダル(HA88/76のみ)
- 電源コード
- Nord Sample DVD、Nord Piano DVD
- USBケーブル

## 別売オプション

- Nord Keyboard Stand EX
- Nord Soft Case
- Nord Triple Pedal
- Nord Music Stand EX

## 外形寸法、重量

- Nord Stage 2 HA88：1,297 (W) x 334 (D) x 121 (H) mm、18.5kg
- Nord Stage 2 HA76：1,132 (W) x 334 (D) x 121 (H) mm、16.5kg
- Nord Stage 2 SW73：1,111 (W) x 297 (D) x 102 (H) mm、9.7kg

仕様は予告なく変更することがあります。

Steinway、Wurlitzer、Hohner、Clavinet、Farfisa、Vox、Korg、Roland、Yamaha、Fatarはそれぞれの所有者が保有する商標で、Clavia社とは一切の関係はありません。また、これらの商標は本機のサウンドや機能を説明するためにのみ使用しています。

# アフターサービス

## ■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。  
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。  
記入がないものは無効となります。  
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

## ■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

## ■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。  
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

## ■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

## ■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになつたらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。  
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

## ■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

## ■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、またはお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。  
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。


## WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

### 【修理ご相談窓口】


ヤマハ修理ご相談センター

 ナビダイヤル(全国共通番号):0570-012-808 左記番号でつながらない場合:053-460-4830

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

### 【お取扱いに関するお問い合わせ窓口】

お客様コミュニケーションセンター シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

 ナビダイヤル(全国共通番号):0570-015-808 左記番号でつながらない場合:053-460-1666

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

輸入販売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

楽器営業本部 LM営業部 輸入商品課  
〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11  
TEL: 03-5488-5445  
<http://www.nordkeyboards.jp/>